

スポーツ心理学

担当教員 藤原 大樹

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

運動・スポーツ現場で働く人間にとって、運動・スポーツ場面における人間行動の理解は必須である。この授業では、運動・スポーツ行動の心理的メカニズムについて学習する。特に、運動・スポーツへの心理面の影響、心理面への運動・スポーツの影響、身体活動促進のための心理的働きかけについての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・運動・スポーツ心理学とは
2	運動・スポーツとパーソナリティ：競技者のパーソナリティ
3	スポーツと動機づけ：競技動機、達成動機、原因帰属、目標設定
4	運動・スポーツスキルの獲得：運動学習理論、技能評価・フィードバック
5	スポーツ集団における集団力学：集団課程、凝集性、チームビルディング
6	リーダーシップ：PM理論、フォロワーシップ
7	スポーツキャリア：参加・継続・離脱・バーンアウト
8	メンタルトレーニング：MTとは、基本的なスキルの紹介
9	スポーツ傷害と心理的サポート：スポーツ傷害、ストレス、リハビリテーション
10	スポーツと攻撃性：暴力行為、逸脱行為、観客の暴動
11	運動・スポーツの心理的効果：QOL、自己概念、ストレスマネジメント
12	運動実習：ストレス測定とレポート作成
13	身体活動プロモーション：運動行動の決定因、介入モデル
14	身体活動プロモーション：行動変容理論
15	授業のまとめ

【履修上の注意事項】

授業中に提示されるキーワードについて復習すること

【評価方法】

試験 70% レポート 30%

【テキスト】

なし

【参考文献】

よくわかるスポーツ心理学：中込四郎・伊藤豊彦・山本祐二（2012）ミネルヴァ書房
 スポーツ心理学事典：日本スポーツ心理学会編（2008）大修館書店

スポーツ社会学

担当教員 立木 宏樹

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

スポーツというものが、どのように誕生し私たち人間の生活の中で如何なる機能してきたのかを社会学の視点から学び、今日の社会におけるスポーツのもつ役割機能を理解し、今後の人々の生活にけるスポーツのあり方を検討できる能力をつけることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会学とは何か
2	スポーツ社会学とは スポーツ社会学の領域
3	スポーツとは何か スポーツの本質からその歴史的展開
4	近代スポーツから現代スポーツへ
5	現代スポーツと社会 スポーツと人間生活との関係
6	スポーツの役割機能
7	文化としてのスポーツ
8	競技としてのスポーツ
9	遊びとしてのスポーツ
10	スポーツと地域社会
11	健康づくりとスポーツ
12	スポーツにおける社会問題
13	産業とスポーツの関係
14	障がい者スポーツの現状と課題
15	ライフサイクルとスポーツ

【履修上の注意事項】

講義の展開が構造的に組み立てられているので、欠席しないように注意する。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

授業への取り組みと態度20% レポート提出80%

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

適宜紹介する

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	専門職として発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～発達理論、発達段階、発達課題、発達と学習の関係
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～親との関係性と子どもの行動
5	認知発達～子どもの遊びと社会性の広がり
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達～感情発達が行動に与える影響
8	仲間関係とこころの理解
9	道徳性と向社会的行動の発達～集団の中で学ぶもの
10	児童期の発達の特徴～学校教育という環境と発達課題
11	学校のなかでの子ども～学びを支える指導の在り方
12	発達の多様性の理解～発達をつまづきや多様化する社会の中の子どもの困り感
13	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
14	成人期から老年期の発達と課題
15	発達と学び～生涯学習と生涯発達支援

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。復習においては、キーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

講義過程でも適宜紹介の予定

体育原理

担当教員 田井 健太郎

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【ねらい】本授業では、身体、体育、スポーツに関する哲学的アプローチについて理解することを目的とする。歴史的な理解を踏まえて現在の問題について意見を持つことをねらいとする。

【到達目標】①身体、体育、スポーツの諸問題について歴史的、哲学的観点から討議できる。②体育、スポーツの概念について説明できる。③身体、体育、スポーツの現代的問題について様々な意見を整理することができる。

【授業の展開計画】

この講義では、体育授業を想定した体育の考え方を学びながら、体育授業における「スポーツ教材」の捉え方にも「知識、思考・判断」が必要であることを理解できるようにする。体育理論の学習方法にもふれる。

週	授 業 の 内 容
1	本講義の目的、内容等の説明、「体育、スポーツ」に関する調査
2	体育学とスポーツ科学
3	体育・スポーツの哲学研究法
4	体育とは何か1 体育の現状分析
5	体育とは何か2 身体教育の歴史
6	体育とは何か3 教育概念
7	体育とは何か4 体育概念のまとめ
8	スポーツとは何か1 スポーツの現状分析
9	スポーツとは何か2 スポーツの歴史、オリンピックと政治、人権
10	スポーツとは何か3 文化概念
11	スポーツとは何か4 スポーツ概念のまとめ
12	スポーツの倫理1 スポーツでは勝つことが全てか？ どこまでがドーピングとなるか？
13	スポーツの倫理2 コーチングとは。スポーツ指導者の責任とは。
14	スポーツの倫理3 体育、スポーツに関する倫理的問題：指導者の責任、人権、ドーピング、性別
15	講義全体のまとめ スポーツ、体育、身体思想

【履修上の注意事項】

この授業は、教育職員免許法施行規則の定める免許教科中学校・高等学校「保健体育」の教科専門科目「体育原理」の一般的・包括的事項を含む内容を講義する。

・メモをとる！メモには「テクニカルターム（術語）」「重要事項」「関連事項」「ひらめいたこと」を！

・講義の内容については資料で確認する。どこで何を調べることができるかをすること、が重要！！

考える！自分なりの思考で構わない。大切なのはいつも自分が問いを発し、回答を用意すること

【評価方法】

授業内小レポート：授業毎に小レポートを課し、授業内容の理解及び授業内容に対しての思考、発想について評価する（評価基準40%）

テスト：期末に行うテストでは講義内容についての基礎的な知識の理解及び自身の思考、発想について評価する（評価基準60%）また、レポート、小テストなどのフィードバックを授業で行う。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

『身体教育を哲学する』佐藤臣彦 1993、『身体教育の思想』樋口聡 2005、『体育・スポーツの哲学的見方』久保正秋 2010

バイオメカニクス

担当教員 加藤 浩

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

バイオメカニクスは、身体運動のメカニズムを力学的側面から究明する学問である。実際に臨床現場あるいはスポーツ現場では、対象者やスポーツ選手の姿勢・動作分析を行う際、バイオメカニクス等の知識を用いて障害構造の評価、運動能力の評価、そして治療プログラムを立案を進めている場合が多い。人が「歩く」、「走る」、「跳躍する」等ということはバイオメカニクスの視点から見れば、どのような意味があるのか？身体運動・動作のメカニズムを生体力学の観点から科学的に説明出来ることを目標とする。

【授業の展開計画】

加藤：理学療法士として病院勤務経験

- 1 オリエンテーション
- 2 力とは何か？「ベクトル」
- 3 身体に働く力「万有引力から重力を捉える」
- 4 身体に働く力「重力加速度」
- 5 身体に働く力「重力実技（動作分析の基礎）」
- 6 身体に働く力「重力実技（起き上がりの動作分析）」
- 7 身体に働く力「運動の3法則」
- 8 身体に働く力「床反力」
- 9 身体に働く力「床反力と摩擦力」
- 10 身体に働く力「筋力」
- 11 身体に働く力「筋パワー」
- 12 身体に働く力「外部関節モーメント」
- 13 身体に働く力「内部関節モーメント」
- 14 身体に働く力「関節パワー」
- 15 身体に働く力「床反力実技」

【履修上の注意事項】

講義では時間の制約上、広く浅く講義することとなる。バイオメカニクスは動作分析・姿勢分析を実践する上で必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

定期試験を100%として評価する。

【テキスト】

【参考文献】

Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析．医学書院，東京，2005，2．江原義弘・山本澄子：ボディダイナミクス入門 歩き始めと歩行分析．医歯薬出版．2002

臨床医学総論 I

担当教員 池田 沢子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療の実践は患者の状態を科学的に観察し正しく把握することから始まる。この基本的原則は東洋医学、西洋医学にかかわらず、すべての医療職者の実践における基礎となる。本講義「臨床医学総論 I」では、まず診察の概要と基本的な方法を学んだ上で、全身および局所の診察法を系統的に理解し、それぞれの所見の意味を説明でき、かつ鑑別診断を上げることができるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床医学入門、診察の概要
2	診察の方法① 病歴聴取
3	診察の方法② 視診、触診、打診、聴診、他
4	バイタルサイン
5	全身の診察① 顔貌、精神状態、言語
6	全身の診察② 身体計測、体格、栄養状態
7	全身の診察③ 姿勢、体位、歩行
8	全身の診察④ 皮膚、爪、リンパ節
9	局所の診察① 頭部、顔面
10	局所の診察② 眼、鼻、耳、口腔、頸部
11	局所の診察③ 胸部、乳房
12	局所の診察④ 肺・胸膜
13	局所の診察⑤ 心臓
14	局所の診察⑥ 腹部
15	局所の診察⑦ 背部、四肢

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「臨床医学総論 第2版」編：社団法人東洋療法学校協会、著：奈良信雄、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

- 「診察と手技が見えるVol.1」編集：古谷伸之、MEDIC MEDIA
- 「内科診断学（改訂第17版）」著：武内重五郎、南江堂

臨床医学総論Ⅱ

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療の実践は患者の状態を科学的に観察し正しく把握することから始まる。「臨床医学総論Ⅱ」では、まず神経系の診察法と運動機能検査について理解し、鑑別診断を挙げることができるようになることを目的とする。次いで、臨床検査の概要と検査値の意味を説明できる、さらに、日常的によく遭遇する概念や病態生理を理解し、代表的な原因疾患の特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	神経系の診察① 感覚、反射
2	神経系の診察② 脳神経、その他
3	運動機能検査① 運動麻痺、不随意運動、日常生活動作
4	運動機能検査② 整形外科的検査法
5	臨床検査法 一般検査、血液生化学検査、その他の検査
6	主な症状① 頭痛、めまい、難聴
7	主な症状② 咳・痰、息切れ
8	主な症状③ 動悸、胸痛
9	主な症状④ 腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振
10	主な症状⑤ 便秘、下痢、吐血・下血
11	主な症状⑥ 排尿障害、乏尿・無尿、多尿
12	主な症状⑦ 頸肩腕痛、腰痛、関節痛
13	運動と医療① メディカルチェックの重要性
14	運動と医療② オーバートレーニング、貧血
15	治療学 概要、薬物療法、理学療法、その他の治療

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「臨床医学総論 第2版」編：社団法人東洋療法学校協会、著：奈良信雄、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

「診察と手技が見えるVo1.1」編集：古谷伸之、MEDIC MEDIA
「内科診断学 第3版」編集：福井次矢、奈良信雄、医学書院

臨床医学各論Ⅳ（スポーツ障害）

担当教員 本田 泰弘

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

スポーツ医学の臨床では、スポーツ外傷とスポーツ障害に関する基礎知識、各部位の病態メカニズムを理解することは不可欠である。臨床医学各論Ⅳではスポーツ外傷とスポーツ障害に関する基本的な知識を理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

1. スポーツ外傷とスポーツ障害の概念
2. スポーツ外傷・障害に対する処置：RICE処置、止血等
3. スポーツ外傷・障害：腰部（腰部椎間板ヘルニア、腰椎分離症等）
4. スポーツ外傷・障害：大腿・膝（半月板損傷、前十字靭帯断裂等）
5. スポーツ外傷・障害：膝（半月板損傷、ジャンパー膝等）
6. スポーツ外傷・障害：下腿・足（シンスプリント、コンパートメント症候群等）
7. スポーツ外傷・障害：頸部（バーナー症候群等）
8. スポーツ外傷・障害：肩関節・上腕（腱板損傷、インピンジメント症候群等）
9. スポーツ外傷・障害：肘・前腕・手（テニス肘・ゴルフ肘等）
10. スポーツ外傷・障害：胸部（心臓震盪等）
11. スポーツ外傷・障害：腹部（内臓損傷等）
12. スポーツ外傷・障害：頭部（脳震盪等）
13. スポーツ外傷・障害：顔面（眼の打撲等）
14. スポーツ外傷・障害：その他（1）
15. スポーツ外傷・障害：その他（2）

【履修上の注意事項】

予習としては各部位の解剖学的な基礎知識を十分把握しておくこと。
復習としては授業の内容をレポートにまとめ、説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

レポート提出20点、筆記試験80点、合計100点とし、60点以上を合格とする。
再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

解剖学 第2版 河野邦夫 伊藤隆造著 医歯薬出版

【参考文献】

臨床医学各論V（皮膚・免疫系）

担当教員 盛 子敬

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では免疫・アレルギー、感染症および代謝・内分泌系の各疾患の症候・病態・診断・治療に関する特徴を学び、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解する。特に代表的な重要疾患について、その臨床的特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	免疫・アレルギー：膠原病（関節リウマチ、SLE、SSc）
2	免疫・アレルギー：膠原病（血管炎症候群）
3	免疫・アレルギー：シェーグレン症候群、ベーチェット病
4	免疫・アレルギー：アレルギー疾患（アナフィラキシーショック含む）
5	感染症：敗血症（SIRSを含む）、予防と診断・治療、AIDS
6	感染症：ウイルス感染（インフルエンザ、麻疹、風疹ほか）
7	感染症：食中毒（含：0-157、ノロウイルス）、性感染症
8	代謝・栄養：糖質代謝、脂質代謝
9	代謝・栄養：肥満症、メタボリックシンドローム
10	代謝・栄養：糖尿病
11	代謝・栄養：脂質異常症、痛風、骨粗鬆症
12	内分泌：下垂体疾患
13	内分泌：甲状腺疾患
14	内分泌：副甲状腺疾患
15	内分泌：副腎皮質疾患、副腎髄質疾患

【履修上の注意事項】

免疫・アレルギー、感染症および代謝・内分泌系に関する解剖学、生理学および病理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。なお、教科書は「臨床医学各論Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵ」の4科目を通して使用する。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学（第3版）」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

「臨床医学各論（第2版）」編：（社）東洋療法学校協会、医歯薬出版（株）

臨床医学各論VI（脳神経疾患・婦人科系疾患）

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では脳神経系および血液系その他の各疾患の症候・病態・診断・治療に関する特徴を学び、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解する。特に代表的な重要疾患について、その臨床的特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	脳神経：総論
2	脳神経：脳血管疾患（脳出血、くも膜下出血、脳梗塞）
3	脳神経：変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症）
4	脳神経：筋萎縮性側索硬化症
5	脳神経：認知症（アルツハイマー病ほか）
6	脳神経：末梢神経疾患（ギランバレー症候群、ニューロパチー、神経痛）
7	脳神経：筋疾患（筋ジストロフィー、重症筋無力症）
8	脳神経：感染性疾患（髄膜炎、脳炎）、脳腫瘍
9	血液：貧血
10	血液：急性白血病、慢性白血病
11	血液：悪性リンパ腫、骨髄腫
12	血液：紫斑病、血友病、DIC
13	皮膚疾患：接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎
14	眼科疾患：結膜炎、白内障、緑内障
15	耳鼻科疾患：メニエール病、中耳炎、難聴

【履修上の注意事項】

脳神経系、血液系および皮膚・感覚系に関する解剖学および生理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。なお、教科書は「臨床医学各論Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵ」の4科目を通して使用する。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学（第3版）」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

「臨床医学各論（第2版）」編：（社）東洋療法学校協会、医歯薬出版（株）

社会保障論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会保障論では、指定教科書の中でも、特に概論的な部分に焦点をあてます。具体的には、「現代社会と社会保障」、「社会保障の歴史」、「社会保障の構造」、「社会保障の財源と費用」、「社会保障が当面する課題」などについて理解を深めます。こうした項目における学びを通じて、社会保障の今日的な重要性を自らの言葉で説明できるようになること—これが、本講義のねらいになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会保障が当面する課題（Ⅰ）——少子高齢化の動向と少子化への取り組み
2	社会保障が当面する課題（Ⅱ）——労働市場の変化と社会保障
3	社会保障の範囲、理念と機能、生活と社会保障
4	社会保障の歴史——欧米における社会保障の歴史的展開
5	日本における社会保障の歴史的展開（Ⅰ）——戦後からオイルショックまで
6	日本における社会保障の歴史的展開（Ⅱ）——オイルショックから今日まで
7	社会保障の構造（Ⅰ）——社会保障制度の体系、社会保険の構造
8	社会保障の構造（Ⅱ）——社会扶助の構造
9	社会保障の財源と費用（Ⅰ）——社会保障の費用、社会保障の財源
10	社会保障の財源と費用（Ⅱ）——社会保障と経済
11	日本の医療制度を考えるための国際的視座——アメリカと中国の事例から
12	医療保険制度（Ⅰ）——医療保険制度の沿革と概要、健康保険と共済制度
13	医療保険制度（Ⅱ）——国民健康保険制度、後期高齢者医療制度
14	医療保険制度（Ⅲ）——国民医療費と医療をめぐる最近の動向
15	社会保障論のまとめ——理想と現実、そしてあるべき方向性

【履修上の注意事項】

- (1) テキストを持参して受講することが求められます
- (2) 可能な限り予習（30分程度）をして講義に臨み、講義後は、適宜、復習をしてください

【評価方法】

レポート 75%
試験 25%
なお、再試験は実施しません

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座12 社会保障【第5版】』（中央法規出版、2018年）

【参考文献】

特に指定しません

学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達、健康、そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から保健教育、保健管理、組織活動の諸活動等を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌を述べるができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	学校保健概論・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・児童生徒の発育発達の現状と課題
6	学校保健の対象・健康の基礎理論、実態
7	学校保健の対象・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・健康管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・健康管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・健康管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・健康管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・健康管理：感染症予防
13	学校保健活動・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習と保健指導
15	保健教育：性教育、薬物乱用防止教育、食育

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート15%、筆記試験85%により評価する

【テキスト】

学校保健ハンドブック 第5次改定 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい

【参考文献】

新訂版 学校保健実務必携 第一法規

精神保健 I

担当教員 水間 宗幸、平川 泰士

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。
- ・精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健の概要と課題
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題
3	社会構造の変化と新しい健康観
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）
6	ストレスと精神の健康
7	生活習慣と精神の健康
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害
9	アルコール関連問題と精神保健
10	うつ病と自殺防止対策
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）
12	精神の健康に関する心的態度
13	精神保健に関する予防の概念と対象
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携
15	精神保健に関する専門職種

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】

試験による評価（70%）および 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）。なお希望者には個別に評価内容を伝える。

【テキスト】

新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援（第3版）』中央法規，2018年

【参考文献】

各講義ごとに主要文献を紹介する

鍼灸安全管理学

担当教員 塚本 紀之

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

感染予防や医療事故の防止に関する基本的知識を学修し、安全で安心な鍼灸医療を実践できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	概論：鍼灸医療の安全
2	鍼灸医療におけるリスクマネジメント
3	鍼灸医療事故への対応（1）事故直後の対応
4	鍼灸医療事故への対応（2）事故後の長期対応
5	鍼灸医療事故防止対策
6	鍼灸医療事故の法的解決・賠償責任保険
7	感染防止対策（1）病原微生物と感染
8	感染防止対策（2）感染症の予防
9	感染防止対策（3）施術上注意したい感染症
10	感染防止対策（4）手指消毒と施術野の消毒、消毒薬の効果、免疫学的測定法（体験学習）
11	感染防止対策（5）器具の消毒と滅菌、保管、消毒薬の効果判定（体験学習）
12	鍼灸医療環境の構築と保持、廃棄物の処理（感染性廃棄物を含む）
13	鍼灸治療の禁忌と傷害事故の防止
14	鍼灸医療機器の安全管理
15	鍼灸医療事故の具体例と対策（発表会）まとめ

【履修上の注意事項】

講義前の予習：第1回目の講義時に配布する教科書対応表に記載されている各講義回の教科書該当ページを参照して概要をつかんでおくこと

講義後の復習：各回の講義を聴講後、もう一度教科書該当ページを読み、復習しておくこと。

【評価方法】

学期末試験（80%）、体験学習課題レポート（10%）、課題発表（10%）

【テキスト】

①鍼灸医療安全対策マニュアル（医歯薬出版）②わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂2版（藤本秀士 編著 南山堂）③危険経穴の断面解剖アトラス（高橋研一ほか著 医歯薬出版）

【参考文献】

〔増補改訂版〕マンガ 鍼灸臨床インシデント 覚えておきたい事故防止の知識（山下仁 監修 医道の日本社）

はりきゅう理論Ⅱ

担当教員 塚本 紀之

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸の様々な科学的研究より明らかになりつつある治効作用機序について、自分の言葉で簡潔に説明できる。

【授業の展開計画】

1. 鍼灸治効理論 (1) 体表の感覚受容器
2. 鍼灸治効理論 (2) 痛覚
3. 鍼灸治効理論 (3) 鍼鎮痛のメカニズム
4. 鍼灸治効理論 (4) 筋緊張の調節
5. 鍼灸治効理論 (5) 反射
6. 鍼灸治効理論 (6) 鍼灸刺激と自律神経
7. 鍼灸治効理論 (7) 鍼灸刺激と代謝
8. 鍼灸治効理論 (8) 生体防御系の成り立ち
9. 鍼灸治効理論 (9) 自然免疫
10. 鍼灸治効理論 (10) 獲得免疫
11. 鍼灸治効理論 (11) エフェクター細胞
12. 鍼灸治効理論 (12) 鍼灸刺激と免疫反応の調節 (神経系、内分泌系と免疫系)
13. 鍼灸治効理論 (13) 異物の見分け方 (HLAと移植)
14. 鍼灸治効理論 (14) 免疫系の破綻 (アレルギー、自己免疫、免疫不全)
15. 鍼灸治効理論 (15) まとめ

【履修上の注意事項】

はり・きゅう理論Ⅱは、はり師きゅう師を目指す学生にとって、必要不可欠な科目の1つである。

学生の十分な予習・復習が必要である。

講義前の予習：第1回目の講義時に配布する教科書対応表に記載されている各講義回の教科書該当ページを参照して概要をつかんでおくこと

講義後の復習：各回の講義を聴講後、もう一度教科書該当ページを読み、復習しておくこと。

【評価方法】

学期末試験 (100%)

【テキスト】

①はりきゅう理論 (東洋療法学校協会 編 医道の日本社) ②生理学 (第3版 東洋療法学校協会 編 医歯薬出版)

【参考文献】

①標準生理学 (小沢滯司、福田康一郎 総編集 医学書院) ②わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫 改訂2版 (藤本秀士 編著 南山堂) ③鍼灸臨床最新科学 (矢野忠ほか 医歯薬出版)

鍼灸医学総合演習

担当教員 本田 泰弘、浅井 福太郎、内田 匠治

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：症例の検討を通して、鍼灸医学の基礎的な知識としての現代医学、東洋医学を理解し、教科を超えて知識を統合することができる。

個別目標：これまでの学習の理解度をはかる小テストや、個々の学生の進路を総合的に勘案して、面談を通して教員学生が相互に話し合い決定する。決定した目標について、（具体的には解剖学、生理学、臨床総論、臨床各論など）鍼灸医学の基礎的な内容を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

症例検討に必要な基礎的な知識について、教員は個々の学生の学習の進捗状況に合わせグループ分けを行い、グループごとの到達目標を設定しそれぞれのグループに担当する教員を配置する形でグループ学習を指導する。授業はアクティブラーニングの方式で行い、班ごとに症例について話し合う。授業の結果を、班ごとでレポートとして提出する。

【履修上の注意事項】

小テストとして課される課題は、担当する教員がグループごとに学習の習熟度、進捗状況に応じて決定する。自宅においての予習・復習が不可欠であり、授業時間外の指導や模擬試験などにも積極的に参加すること。わからないことや小テストの再受験を希望する者は授業時間外にも担当教員らのもとに来ること。

【評価方法】

期末試験80%，小テスト・レポート20%

補講や授業時間外の予習・復習への取り組みなどを総合的に評価して（予習・復習による自主的学修態度）とし、上記評価点に加味することがある。

【テキスト】

解剖学マスター、生理学マスター、新版経絡経穴概論（医道の日本社）『解剖学』『生理学第2版』『臨床医学各論』『臨床医学総論』東洋療法学校協会編（医歯薬出版）

【参考文献】

学生の個々の状況に合わせ、適宜紹介する。

社会鍼灸学

担当教員 内田 匠治、塚本 紀之

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代における鍼灸および鍼灸師の社会的ニーズを理解することを学習の目標とする。各種疾患や社会制度を切り口として、現代における東洋医学の意義や、可能性について理解し、医療人としてのアイデンティティを形成していくことができるようにする。様々な社会的問題を鍼灸・東洋医学の立場から分析し、医療人としての広い視野を持つことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論…社会的ニーズと はり師 きゅう師（鍼灸師）の特異な役割を理解する（塚本）
2	鍼灸師を取り巻く環境；現代社会における医療制度の現状医療保険制度および介護保険制度（内田）
3	鍼灸師を取り巻く環境；社会保障制度下における鍼灸治療、医療機関における鍼灸師の役割（内田）
4	地域で期待される鍼灸師の業務…施術所における はり治療 きゅう治療（塚本）
5	現代社会における鍼灸師の役割…高齢社会における鍼灸師の役割（塚本）
6	少子化社会における鍼灸師の役割（内田）
7	女性の健康管理における鍼灸師の役割①（内田）
8	女性の健康管理における鍼灸師の役割②（塚本）
9	ストレス社会における鍼灸師の役割①（塚本）
10	ストレス社会における鍼灸師の役割②（内田）
11	スポーツ傷害（外傷と障害）における鍼灸師の役割（内田）
12	QOL（生活の質）の向上と鍼灸師の役割①（塚本）
13	QOL（生活の質）の向上と鍼灸師の役割②（内田）
14	施術所の経営展開…施術所開設に必要な法律知識、経営各論（内田）
15	社会的ニーズと はり師 きゅう師（鍼灸師）の特異な役割（塚本）

【履修上の注意事項】

1) 教科書は必ず持参してください。毎回の講義ノートを作り、授業中配布される資料とともに保管すること。教科書にメモ書きするような勉強の仕方は改めてください。2) 授業の内容に基づいた内容が期末試験で問われますので、授業の内容を理解し、それをもとに自分の考えをまとめるようにしてください。に提出してください。

【評価方法】

期末試験、課題レポートによる評価を各担当教員ごとに行い、その合計点を最終評価とする。期末試験と課題レポートの点数比率は試験開始前に各担当教員から告知を行う。

【テキスト】

『社会あはき学』教科書執筆小委員会、医道の日本社

【参考文献】

『始原東洋医学』有川貞清：著、高城書房 2008年

社会鍼灸学演習（施設見学を含む）

担当教員 篠原 昭二、本田 泰弘、田口 太郎、塚本 紀之、野口 恭庸、浅井 福太郎、内田 匠治

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸師の社会的ニーズと役割について討論を中心に演習を行う。①鍼灸師を取り巻く我が国の医療、保健、社会福祉環境の現状を理解した上で、地域保健や産業保健、老人保健、災害医療などに鍼灸師が将来どのように貢献できるか考える。②諸外国の医療制度の中の鍼灸の位置づけについても学習し、国際的な見識も深める。③高齢者介護の体験型授業や鍼灸、漢方を診療に取り入れている病院等の施設見学を行う。そして総合的な視野から今後の鍼灸医療の方向性を自ら考えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	履修の説明	16	車いす介助(体験学習)
2	はり師きゅう師の業務	17	施設見学演習①
3	マッサージ師・視覚障がい有資格者の業務	18	施設見学演習②
4	柔道整復師の業務	19	施設見学演習③
5	代替・相補医療①(物理療法など)	20	施設見学演習④
6	代替・相補医療②(手技療法など)	21	施設見学演習⑤
7	鍼灸院経営における問題点と課題(討論)	22	施設見学演習⑥
8	鍼灸師の養成機関と鍼灸医学の研究機関	23	施設見学演習⑦
9	災害時の鍼灸治療(東日本大震災時活動紹介)	24	施設見学演習⑧
10	災害時の鍼灸治療(討論)	25	施設見学演習⑨
11	世界の鍼灸事情(中国・韓国)	26	施設見学演習⑩
12	世界の鍼灸事情(欧州・北米・南米など)	27	施設見学演習⑪
13	高齢者介護における鍼灸師の役割(体験学習)	28	施設見学演習⑫
14	障害者介護における鍼灸師の役割(体験学習)	29	まとめ①(施設見学の発表)
15	車いす操作(体験学習)	30	まとめ②(総合討論)

【履修上の注意事項】

1. 討論を行うテーマについて、予習すること。施設見学前には、見学時の質問事項などをあらかじめ準備しておくこと。
2. 自分の意見を積極的に発言すること。
3. 施設見学後は、レポートを作成し提出すること。

【評価方法】

課題発表60%、レポート40%
期末試験は行わない。

【テキスト】

社会鍼灸学演習施設見学の手引き(九州看護福祉大学看護福祉学部鍼灸スポーツ学科編)編・配布資料

【参考文献】

「社会あはき学」(東洋療法学校協会 編 医道の日本社)

臨床コミュニケーション

担当教員 田口 太郎、未定、花田 雄二

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 鍼灸診療の場面を想定したロールプレイおよびカンファレンスを通して、患者と鍼灸師の良好な関係の構築にもとづいた診察・治療の過程が理解・実践できる。
- 2) 鍼灸診療録の特殊性を理解した上で、オリジナル診療録を作成し活用することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	四診と医療面接(1):望診について
2	ロールプレイの目的とルール	17	四診と医療面接(2):問診について
3	コミュニケーションの「能力」とは何か	18	四診と医療面接(3):問診について
4	医療人?それはどのような人か	19	四診と医療面接(4):切診と触診の違い
5	医療人としての態度とは	20	四診と医療面接(5):切診① 脈診・切経
6	医療面接と問診の違い	21	四診と医療面接(6):切診② 腹診
7	言語的/非言語的コミュニケーション	22	患者の目的と医療者の目的
8	質問と投げかけの違い	23	何故ラ・ポールの構築が必要なのか
9	開かれた/閉じられた質問	24	医療過誤の原因
10	傾聴:聞くことと聴くの違い	25	鍼灸治療におけるジェンダー
11	共感的態度?誰が決めるのか	26	コミュニケーションの階層について
12	鍼灸治療の特殊性	27	附属鍼灸臨床センター診療見学(前)
13	カルテ記載の目的	28	附属鍼灸臨床センター診療見学(後)
14	カルテの構成	29	第三者SPに対するロールプレイ(前)
15	四診(望・聞・問・切診)と医療面接の関係	30	第三者SPに対するロールプレイ(後)

【履修上の注意事項】

1. 本実習では毎回ロールプレイについて、お互いに評価を行い、次回にそのカンファレンスを行うので、必ず復習をして参加すること。また、症例の事前告知をおこなうので、病態等の予習をして臨むこと。

【評価方法】

ロールプレイへの取組み(40%)、カンファレンスへの取組み(30%)、評価表(30%)

【テキスト】

「鍼灸臨床における 医療面接」(丹澤章八著:医道の日本社)

【参考文献】

適宜紹介する。

鍼灸臨床実習Ⅱ（外科系）

担当教員 野口 恭庸、篠原 昭二、本田 泰弘、田口 太郎、塚本 紀之、浅井 福太郎、内田 匠治、花田 雄二、未定

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸臨床において遭遇する代表的な症候のうち、主に運動器系疾患領域について、学修者による現代医学的・東洋医学的な症候分析、適応・不適応の鑑別、各種診察技法が実施できること、並びに病態に応じた治療方針や処方の組立てができることを目的とする。

【授業の展開計画】

週3コマを15週実施（全45コマ）。身体部位ごとに4つのカテゴリーに分けて解説指導します。各カテゴリーで取り扱う内容は以下のとおり。

日程・担当者の詳細については初回の授業で連絡します。

第1～4週 頸部～上肢の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第5～7週 肩関節の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第8～11週 膝関節・腰背部の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第12～15週 その他の運動器系疾患（脳血管障害の後遺症、線維筋痛症、末梢神経障害、パーキンソン病、関節リウマチ、他）に対する病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

【履修上の注意事項】

事前に配布される実習資料について十分に予習した上で参加すること。また実習で一度行っただけでは実践的な診療技術は習得できないため、実習で指導された内容を、後日各自で繰り返し練習すること。本学科の「実習内規」を熟読し、確実に理解すること。オリエンテーション、または実習の初回に説明する「鍼灸スポーツ学科・授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。

【評価方法】

- (a) 授業時間中の実習内容に関するレポート／小テスト … 30%
- (b) 授業時間中の実技試験 … 30%
- (c) 期末試験期間中に実施する筆記試験 … 20%
- (d) 期末試験期間中に実施する実技試験 … 20%

※ (b) においては、授業を欠席し、実技試験のみの受験は認められないので注意すること。

【テキスト】

各カテゴリーにおいて、各担当教員が指定する。

【参考文献】

各担当教員より適宜紹介する。

鍼灸臨床実習Ⅲ（スポーツ鍼灸）

担当教員 田口 太郎、篠原 昭二、本田 泰弘、塚本 紀之、野口 恭庸、浅井 福太郎、内田 匠治、花田 雄二、未定

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目では、スポーツ傷害・障害の原因となる動作、症状、病態把握に必要な診察方法を部位別に学び、それらに対する鍼灸治療の実際を身に付けることを目的とする。日常的によく見られる傷害・障害を部位別に取り上げ、禁忌・適応不適応を含め鍼灸治療についてシミュレーション実習を行い、診察・治療のポイントを修得する。

【授業の展開計画】

1週3コマ×15週（全45コマ）で実施する。
クラス分け・日程・担当教員についてはオリエンテーション時に告知する。

第1週～5週

- 【頸部】頸椎捻挫・バーナー症候群（腕神経叢損傷・神経根症）・頸部椎間板ヘルニア等
- 【肩部】腱板損傷・腱板炎・肩峰下滑液包炎・烏口突起炎・インピンジメント症候群等
- 【肘部】上腕骨外側/内側上顆炎・離断性骨軟骨炎・肘部管症候群等

第6週～第9週

- 【腰部】筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛・腰部椎間板ヘルニア・根性坐骨神経痛等
- 【骨盤・股関節・大腿部】単径部痛症候群・梨状筋症候群・肉離れ（ハムストリングス）等

第10週～第13週

- 【膝部】靭帯損傷・半月板損傷・ジャンパー膝・オスグッド病・変形性膝関節症等
- 【下腿】シンスプリント・アキレス腱周囲炎・肉離れ・コンパートメント症候群等

第14週～第15週

- 【手関節・手部】捻挫・腱鞘炎（ドケルバン）・弾発指・手根管症候群・ギヨン管症候群等
- 【足関節・足部】足関節捻挫・足底筋膜炎・各筋腱炎・モートン神経腫・足根管症候群等

【履修上の注意事項】

1. オリエンテーション、または実習の初回に説明した「鍼灸スポーツ学科 授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。
2. 実習内容によって、準備する物（教科書を含む）や服装等について指定される場合があるので、掲示に注意すること。掲示内容を満たしていない場合は実習の参加を認めない。
3. 毎回のテーマに関連する疾患の病態や検査法について、予習および復習を必ずおこなうこと。

【評価方法】

授業時間中の実技試験（40点）・授業時間中の課題レポート・小テスト等（30点）・期末試験期間中の筆記試験（30点）とし、その合計を最終評価とする。

【テキスト】

各担当教員が指定する。

【参考文献】

『図解 スポーツ鍼灸臨床マニュアル』 松本 勲著（医歯薬出版） / 『スポーツ鍼灸の実際 -最新の理論と実践-』 福林 徹/宮本俊和編集（医道の日本） 等。各担当教員より適宜紹介する。

鍼灸治療所実習 I

担当教員 篠原 昭二、内田 匠治、本田 泰弘、田口 太郎、塚本 紀之、野口 恭庸、浅井 福太郎、花田 雄二、未定

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療従事者として患者に対する責任を自覚し、来院した患者への対応・治療室への誘導・施術における問診・理学検査・東洋医学的な診察などを行うことができるようになる。また、施術所の運営（予約システム・受付・会計・スタッフとのコミュニケーションなど）についても研修し、将来開業することをも念頭に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
2	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
3	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
4	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
5	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
6	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
7	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
8	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
9	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
10	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
11	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
12	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
13	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
14	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
15	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス

【履修上の注意事項】

原則として遅刻・欠席は認めません。実習の1/5以上を欠席した場合は単位認定しない。オリエンテーション時に伝えられる注意事項を遵守すること。実習前には必ず、担当教員の事前指導を受け、その中で与えられた課題について予習を行うこと。実習後は自己点検により反省点などを整理し、実習簿に記入して提出すること。また、カンファレンスを通して、実習内容を復習し、次回の実習に反映すること。

【評価方法】

実習の事前・事後指導への出席および理解度、実習簿、レポート等の提出物、各指導教員による評価および試験による評価を総合して最終評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

鍼灸治療所実習Ⅱ

担当教員 本田 泰弘、篠原 昭二、田口 太郎、塚本 紀之、野口 恭庸、浅井 福太郎、内田 匠治、花田 雄二、未定

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療従事者として患者に対する責任を自覚し、来院した患者への対応・治療室への誘導・施術における問診・理学検査・東洋医学的診察などの技術を修得する。さらに、はり師・きゅう師として責任をもって治療方針の組み立て、鍼灸の施術ができる能力を養う。また、その内容に対して客観的に説明ができるようにする。施術所の運営についても研修を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
2	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
3	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
4	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
5	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
6	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
7	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
8	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
9	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
10	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
11	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
12	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
13	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
14	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
15	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助

【履修上の注意事項】

原則として遅刻・欠席は認めません。実習の1/5以上を欠席した場合は単位認定しない。オリエンテーション時に伝えられる注意事項を遵守すること。

【評価方法】

実習の事前・事後指導への出席および理解度、鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ 実習簿、診療録（カルテ）、症例検討会等の提出物、各指導教員による評価を総合して最終評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

水泳（アクアビクスを含む）

担当教員 行實 鉄平

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

【目的】本授業では、有酸素運動に適した水中運動の体験を通して、水中での運動の留意点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的にしている。

【到達目標】具体的には、「水中での身体の使い方と推進力の理論について理解したものを文章で表現できる」、「水難訓練の手順を実践できる」、「アクアエクササイズを実践できる」、「基本ストロークの技術練習や泳力練習を実践できる」ことを目的にしている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（アクアフィットネス概論）
2	水中運動の留意点
3	水中ウォーキング
4	アクアエクササイズ（道具を使ったエクササイズ）
5	アクアエクササイズ（音楽を使ったエクササイズ）
6	水中安全管理について
7	溺者への対応
8	水中運動プログラムの計画と管理
9	けのびの習得
10	フリーストローク (Free-Stroke) の習得
11	ブレストストローク (Breast-Stroke) の習得
12	バックストローク (Back-Stroke) の習得
13	バタフライストローク (Butterfly-Stroke) の習得
14	ターンの習得
15	泳力テスト

【履修上の注意事項】

授業前には水泳に関する参考文献および映像などを確認し、スケジュールに該当する個所の予習をしておくこと（60分）。授業後は復習として、コミュニケーションペーパー（振り返りシート）を記入していただきます（30分）。また、外のプールでの実習となるため、日焼け対策を考えておいてください。さらに、水着、帽子、ゴーグル、タオル、給用水の水筒などは、各自で準備しておいてください。

【評価方法】

本授業は、「授業への取り組み」、「コミュニケーションペーパー」、「泳力」の3つの観点から総合評価を行います。評価配分は「授業への取り組み50%」、「コミュニケーションペーパー30%」、「泳力20%」とします。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布するため、特になし。

【参考文献】

日本水泳連盟(編)：水泳指導教本「地域スポーツ指導者用」、大修館書店。日本赤十字社(編)：赤十字水上安全法講習教本、日本赤十字社。日本スイミングクラブ協会(編)：アクアフィットネス・アクアダンスインストラクター教本、大修館書店。

体操（器械体操を含む）

担当教員 藤崎 道子

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 実技

単位数 1

【授業のねらい】

文部科学省の指導要領改訂により体操は【体づくり運動】と名称変更され、小学校～高等学校までの全ての学年で取り組まれることとなった。本授業ではからだを動かすことの楽しさや心地よさを味わいながら心と体をほぐしたり、体力を高めるための運動の行い方を理解することをねらいとする。本授業での到達目標は①体の基本的な動きができる②目的に応じた運動の行い方を理解し、動き方を創意工夫することができる③仲間と協力し楽しくかつ安全に運動を行うことができる とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、現代の健康問題を知る、その他諸注意）
2	学校体育における「体づくり運動」の位置づけと狙い
3	体ほぐし運動実習 ～体を動かす楽しさを伝えるプログラムとは～
4	体ほぐし運動実習 ～体の調子を整える運動とは～
5	体ほぐし運動実習と演習 心とからだの相関性について理解を深める
6	ラジオ体操の実践と指導 正しい動き方をマスターする
7	ラジオ体操の実践と指導 ラジオ体操を指導する
8	現代に合った体操をグループで創る（グループワーク発表）
9	体力を高める運動の必要性とは 体の変化と体力の変化を理解する
10	体力を高める運動1 体の柔軟性を高めよう～マット運動・ストレッチ～
11	体力を高める運動2 持続する能力を高めよう～エアロビックダンスを楽しむ～
12	体力を高める運動3 筋力を高めよう～正しいトレーニングの方法～
13	体力を高める運動4 心の柔軟性を高めよう～ヨガ体験～
14	トータルエクササイズの指導例 全てを網羅した運動実施計画を知る
15	まとめ・筆記確認テスト

【履修上の注意事項】

実技中心ではあるが、毎時間必ず筆記用具を持参すること。
毎時間の行った実技の内容を必ずまとめる（復習）
ラジオ体操の歴史について事前に調べておくこと（予習）

【評価方法】

実技試験 30%、筆記試験 30%、レポート 20%、学習態度 15%、発表 5%

【テキスト】

中学校学習指導要項解説 保健体育編（文部科学省）

【参考文献】

エアロビッグ概論

担当教員 藤崎 道子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

本講座ではこれからの健康づくりの課題となっている様々な場面に適した運動方法を理解することができる。エアロビッエクササイズの種類とそれぞれの運動特性を理解することができる。運動指導者としての指導理論を理解することができる。を目標に行います。

【授業の展開計画】

- 1 現代社会と運動の必要性・フィットネス概論・エアロビッエクササイズとは
- 2 エアロビッエクササイズと運動効果について
- 3 エアロビッエクササイズの種類と運動の違いについて
- 4 グループエクササイズ指導理論
- 5 現場における事例・モデルケース
- 6 運動プログラムの立て方
- 7 運動指導士・運動指導者の役割と健康産業について
- 8 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。現代社会における健康問題について調べておくこと。世代別に見られる健康問題について調べておくこと。

【評価方法】

レポート50%、筆記試験30%、授業態度・発表20%

【テキスト】

【参考文献】

エアロビッグ実習

担当教員 藤崎 道子

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実習

単位数 1

【授業のねらい】

健康づくり運動の種類と様々な運動特性を理解することができる。運動指導者としての最低限必要とされる指導スキルを身につけることができる。『指導者とは』という観点で《何を・どのように》伝えていけばいいのかを自ら考え、「話す・伝える」ことができるようになる。運動効果を高めるための正しいフォームや運動のさせ方を学び、対象者に応じた運動を実践させることができる。

【授業の展開計画】

- 1 健康づくりと運動プログラム
- 2 ウォーキングエクササイズ指導の実際
- 3 ジョギングエクササイズ指導の実際
- 4 レジスタンス運動の実際（自体重を使った運動例）
- 5 ウォーミングアップとクールダウン
- 6 アクアエクササイズの運動効果と特性
- 7 アクアウォーキングの指導法
- 8 水中レジスタンス運動の指導法
- 9 アクアダンス（アクアビクス）体験
- 10 エアロビクダンスの運動特性・概論
- 11 エアロビクダンス体験・基本動作習得①
- 12 正しいアライメント・基本動作習得②
- 13 基本動作習得③・運動強度の変化について
- 14 エアロビクダンス指導法①
- 15 エアロビクダンス指導法②（指導の循環）
- 16 運動プログラムの立て方・作成法
- 17 対象者に応じた運動プログラムの考え方
- 18 エアロビクダンス運動指導上の留意点
- 19 介護予防のための運動の考え方
- 20 介護予防運動プログラムの実際
- 21 ストレッチング
- 22 ツールを活用した運動事例（タオル・椅子）
- 23 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者及び指導士の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。事前学習として現代社会の健康問題（ロコモティブシンドローム、認知症、メンタルヘルス、メタボリックシンドローム）について調べておくこと。事後学習として毎時間の学習記録ノートを作成すること。

【評価方法】

実習内容の習得度、レポート、課題運動スキルを総合的に判断し評価する。

【テキスト】

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト

生活支援論演習

担当教員 未定

配当年次 4年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（具体的には難病患者）を対象に、フィールドワーク（難病相談支援センターへの訪問や対象者への聞き取り調査等）をとおして、対象者が地域で生活する実情を理解し生活支援の在り方を考える。又、その成果を学内外の関係者に報告することを通して、多職種の専門職が協働することの必要性、その意義について理解を深める。

【授業の展開計画】

〈展開概要〉科目選択者がチームを組み、疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（難病患者）を担当し、健康管理、家庭や地域生活の実情や課題を共有し、生活支援の在り方を考え、その結果について関係者に対する報告会を実施する。

〈展開〉

- 1回目（オリエンテーション）：学習目標・授業展開を理解し、自己の将来像と科目の内容を結びつけ、履修の目的を明確できる。（全員）
- 2・3回目（グループワーク：GW）：難病を抱えながら地域で生活する人の生活の様子をイメージでき、生活の質に影響を及ぼす要因と健康の質に影響する要因について、考えることができる。（全員）
- 4・5回目（GW発表）：事前学習の発表と討議。フィールドワーク計画立案（全員）
- 6・7回目（フィールドワーク）：難病相談・支援センターの役割と機能、そこで働く人々について理解することができる。協力者の体験から、生活の実際と医療との関係、生活や健康を支えるもの、医療・福祉・保健の課題を知ることができる。（全員）
- 8回目（GW発表）：フィールドワークの成果発表と振り返り。今後のフィールドワーク計画（全員）
- 9～12回目（フィールドワーク）：難病を抱えてもQOLを保ち地域で生活するには、どのような課題があるのか、課題を解決するための条件は何か、フィールド調査を通して仮説を発展、修正できる。（全員）
- 13・14回目（GW発表）：病を持って生活の質を保ち生活ができる条件と、実現のために保健医療者にできることについて、問題を絞り、説得力のある発表ができる。病を持つ人にとっての体験を語る意味、医療職者にとっての患者の声を聴く事の意味を考えることができる。（全員）
- 15回目：報告会、まとめ（全員）

【履修上の注意事項】

- 1) 生活支援論（1年後期）を履修していること。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。
- 3) 各单元ごとの学習課題について、要点を予習復習すること。

【評価方法】

発表内容40%、報告会30%、報告書30%

【テキスト】

大熊由紀子他、患者の声を医療に生かす 医学書院

【参考文献】

カワチ・イチロウ他、ソーシャルキャピタルと健康、等

トレーニング論

担当教員 玉江 和義

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

トレーニングの歴史を理解し、トレーニングが正しい過程で行われるための学問的解明をとりあげ、種目別にみたトレーニングの正しい知識、方法、手段、スケジュールの作成方法を理解する。日常生活の中に取り入れられるトレーニングにより健康でより充実したスポーツライフの実践を行えるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	トレーニングの広義および概念について説明できる
2	トレーニングの原則について説明できる
3	トレーニングの形態について説明できる
4	トレーニングの内容について説明できる
5	筋力トレーニングの各種方法について説明できる
6	トレーニングの効果と運動への応用について説明できる
7	種目別にみたトレーニング方法について説明できる
8	種目別にみたトレーニング効果について説明できる
9	柔軟トレーニングの理論と実際について説明できる
10	調整力トレーニングの特徴を説明できる
11	発育段階別にみたトレーニングについて説明できる
12	女子のトレーニングについて説明できる
13	ステロイドホルモンとトレーニングとの関係について説明できる
14	年間スケジュール作成方法について説明できる
15	年間スケジュール作成方法について説明できる

【履修上の注意事項】

出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。
講義資料を前もって予習しておくこと。また、復習すること。

【評価方法】

レポート（20%）、テスト（80%）による総合評価

【テキスト】

開講後、適宜提示する

【参考文献】

開講後、適宜提示する

コーチング論

担当教員 小澤 雄二

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

スポーツ指導者として求められる理想像、役割についてスポーツ指導的立場から、自らの言葉で説明できるようになる。生涯にわたり健康で活力にあふれた、明るく豊かな生活を過ごすために不可欠である体育・スポーツへの導きを問い、生涯スポーツ、スポーツ推進に寄与すべく指導者としての施策、方法について、自らの意見を持ち実践できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ指導者としての役割について説明できる
2	指導者の資質と心構え（倫理を含む）について説明できる
3	生涯スポーツの観点から指導者に求められるものについて説明できる
4	スポーツ指導者の現状について説明できる
5	指導者とプレーヤーとのかかわりと役割（ミーティングの方法を含む）について説明できる
6	スポーツ指導上の心得について説明できる
7	指導計画のたて方について説明できる
8	スポーツ医科学とのかかわりとその重要性について説明できる
9	スポーツの安全性と管理（スポーツ裁判の事例）について説明できる
10	諸外国におけるスポーツ指導の現状と文化性について説明できる
11	スポーツ指導の実践・方法について説明できる
12	スポーツマネジメントからみた指導者について説明できる
13	発育段階別にみたスポーツ指導（世界をめざすアスリートの発掘・育成を含む）について説明できる
14	性差におけるスポーツ指導について説明できる
15	世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割について説明できる

【履修上の注意事項】

「授業前の課題に取り組むこと」「授業前に復習しておくこと」

【評価方法】

レポート70%、発表30%による総合評価

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

開講後、適宜提示する。

メンタルマネジメント論

担当教員 藤原 大樹

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者はこの授業を通してメンタルトレーニング技法、コーチング法、ストレス対処法、チームマネジメント法などに関する知識を深め、スポーツ現場におけるメンタルマネジメントの基礎を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スポーツと心：競技力向上とメンタルマネジメント
2	やる気を高めるトレーニング：目標設定理論
3	情動のコントロール：リラクゼーションとサイキングアップ、あがりの克服
4	集中力のトレーニング：注意のスタイル、阻害要因、集中力の高め方
5	イメージトレーニング：イメージトレーニングの目的、鮮明性と統御性、
6	心理的コンディショニング：ピーキング、POMS、IZOF
7	ストレスマネジメント：ストレス理論、ストレッサー、コーピング、レジリエンス
8	指導者のメンタルマネジメント
9	個人・チーム指導と心理的問題
10	リーダーシップ・トレーニング、コミュニケーション
11	チームマネジメント、チームビルディング、チームプレイの認知的技術
12	スポーツ技能の練習と指導
13	コーチング評価
14	競技の特徴に合わせたメンタルマネジメント（個人競技）：プレゼンテーション
15	競技の特徴に合わせたメンタルマネジメント（集団競技）：プレゼンテーション

【履修上の注意事項】

授業後に課題レポートを作成すること

【評価方法】

プレゼンテーション50%、レポート50%

【テキスト】

【参考文献】

スポーツメンタルトレーニング教本：日本スポーツ心理学編（2005）大修館書店
 選手とコーチのためのメンタルマネジメント・マニュアル：日本体育協会（1997）大修館書店

スポーツ経営学

担当教員 行實 鉄平

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【目的】本授業では、スポーツ経営学の学問領域における知を基軸とし、スポーツに関する組織や制度（仕組み）を理解することで、スポーツ組織の力を高めスポーツの環境整備に必要な対策を創造できる能力を養うことを目的としている。

【到達目標】1) スポーツ経営学の理論体系を説明できる。2) 自身の興味関心のある個別スポーツ組織におけるマネジメント方策を説明できる。3) グループワークにおいて学習した知識を用いた議論ができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（スポーツ経営学概論）
2. 我が国を取り巻く現状と課題
3. スポーツ経営の概念と構造
4. 運動者行動と運動生活の捉え方
5. スポーツ事業と経営資源
6. スポーツ事業論(1)エリア・サービスの捉え方とスポーツ施設の性格
7. スポーツ事業論(2)プログラム・サービスの捉え方とタイプや形態論
8. スポーツ事業論(3)クラブ・サービスの捉え方と地域スポーツ経営論
9. スポーツマネジメントのトピック(1)総合型地域スポーツクラブのマネジメント
10. スポーツ事業論(4)スポーツマーケティングの基本
11. スポーツ経営過程論(1)計画：経営計画の種類と立案プロセス
12. スポーツ経営過程論(2)組織：組織の構造と特性
13. スポーツ経営過程論(3)統制：経営評価の視点とコントロール
14. スポーツマネジメントのトピック(2)NPO法人格と指定管理者制度
15. 総括

【履修上の注意事項】

授業前は教科書や参考文献およびインターネット等でスケジュールに該当する個所で使われている言葉の意味等を中心とした予習しておいてください（90分）。授業後は、毎時間、コミュニケーションペーパーを記入していただき、振り返りを行います。その内容をまとめる作業をしてください（90分）。

【評価方法】

本授業は「授業への取り組み（グループワークを含む）：30%」「コミュニケーションペーパー（毎時提出）：20%」「試験：50%」の3つの視点で総合評価する。

【テキスト】

「テキスト体育・スポーツ経営学」柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏（編）大修館書店 ¥1800+税

【参考文献】

「新しいスポーツマネジメント」山下秋二・中西純司・松岡宏高（編）大修館書店 ¥2400+税

「よくわかる スポーツマネジメント」柳沢和雄・清水紀宏・中西純司（編）ミネルヴァ書房 ¥2400+税

スポーツコンディショニング概論

担当教員 平崎 和雄

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学修者が、コンディショニングの概念、目的、要素を理解し、アスリートの競技活動で目標とする最高のパフォーマンス発揮のための要因、競技特性を踏まえたコンディショニング評価法や多様なスポーツ場面でその時々求められる目的にあったコンディショニングの実際の方法、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境設定の方法を学び、コンディショニングを意識したトレーニング計画立案やアドバイスができるよう学び、多様なスポーツ現場に対応できる能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について講義および実習形式で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	コンディショニングの概念と要素
3	コンディショニングの評価法
4	トレーニング計画とコンディショニング
5	競技力向上目的のコンディショニングの実際（競技力向上）
6	競技力向上目的のコンディショニングの実際（スプリント・エンデュアランス・サーキット）
7	傷害予防目的のコンディショニングの実際（ストレッチング）
8	疲労回復目的のコンディショニングの実際（スポーツマッサージ）
9	疲労回復目的のコンディショニングの実際（アイシング）
10	疲労回復目的のコンディショニングの実際（アクアコンディション）
11	ウォームアップとクールダウンの方法と実際
12	コンディショニングのためのフィットネスチェックの実際
13	コンディショニングのためのフィールドテストの実際
14	コンディショニングのための身体組成テストの実際
15	コンディショニングのための柔軟性テストの実際

【履修上の注意事項】

実習に際しては適した服装で受講するようすること。
授業前に資料を準備してきて、授業後は次回の資料を作成してこること
アスレティックトレーナーを目指す学生は、必ず受講すること。

【評価方法】

実習内容の習得度、定期試験等を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 「予防とコンディショニング」

【参考文献】

スポーツ栄養学Ⅱ

担当教員 小田 和人

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は、スポーツ栄養学の中でも特に『アスリートの栄養管理』という観点から栄養学を学び、実習やグループワークを通してアスリートの栄養管理を体感することで、アスリートをサポートするために必要な知識を身に付けることができる。

【授業の展開計画】

栄養学に関する基礎知識を学び、アスリート特有の栄養への応用を身に付ける。また、栄養素から食事へ展開し、日常に取り入れられるよう、実習も行う。

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ栄養概論
2	消化・吸収、エネルギー代謝
3	アスリートの身体組成
4	スポーツにおける栄養素の働き、スポーツ栄養におけるガイドライン
5	身体作りとウエイトコントロール
6	エネルギー供給系および競技特性別にみた栄養摂取
7	トレーニングスケジュールや期分け別の食事
8	栄養欠陥に基づく疾病と対策
9	サプリメントと栄養エルゴジェニック
10	アスリートの食事計画(基礎編:食事バランスのとり方)
11	アスリートの食事計画(発展編:食品から考えた献立作成)
12	アスリートの食事計画(実践編:トレーニングスケジュールに合わせた献立作成)
13	アスリートの食事計画(調理実習:日常生活に取り入れやすいメニュー)
14	アスリートの食事計画(調理実習:特定の栄養素を補給を目的としたメニュー)
15	アスリートの栄養管理

【履修上の注意事項】

- ・授業前はテキストを読むこと(60分)。また、日頃の食事や市販品、外食等に興味を持ち、食事バランスについて検討すること。
- ・授業後はテキストを復習すること(60分)。また、授業で得た知識を生かし、日頃の食生活からアスリートの食事への応用を検討すること。
- ・受講にあたってはマナーを守り、積極的な態度で臨んで下さい。

【評価方法】

授業態度 10%、グループワーク・レポート 30%、試験 60%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポーツと栄養 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学 樋口満、田口素子編著 市村出版

研究方法論

担当教員 塚本 紀之、篠原 昭二、田口 太郎

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医学研究においては科学的根拠に基づいた論理的な考え方や手法を身につけることが必要であり、これは科学的思考と根拠に基づいた医療（EBM）を実践するための基礎となる。そのため、本講義では次の4点を目的とする。
①研究課題の立案から学会発表・論文作成に至るまでの流れに沿う各項目の基本的考え方や注意点について説明できる。
②文献を検索することができる。
③基本的な統計処理ができる。
④発表のための図・表を作成できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	研究とは（研究の目的、意義、研究課題の見つけ方）	塚本
2	文献検索の方法	塚本（図書館・福本）
3	リソースの評価と活用（文献、機器など）	塚本
4	研究デザインの考え方：疑問から目的、仮説へ（背景と意義）	塚本
5	研究倫理	塚本
6	研究計画書の構成と内容	田口
7	研究方法（量的研究と質的研究、観察研究と介入研究）	塚本
8	研究における東洋医学的アプローチ	篠原
9	卒業研究発表会への参加	塚本、篠原、田口
10	統計学（1）基礎知識	篠原
11	統計学（2）検定法	篠原
12	データの管理	篠原
13	データの解釈と疫学	塚本
14	データのまとめと学会発表：図・表の作り方、ExcelとPowerPointの使用方法	田口
15	論文作成：構成と手順	田口

【履修上の注意事項】

履修内容を把握し、思考過程の論理的・科学的な展開を心がける。普段から研究の題材を自ら探し、科学的思考を適用してみる。4年生の卒業研究発表会には全員必ず出席し、卒業研究の実際を体感する。

【評価方法】

筆記試験100%

【テキスト】

特に指定はしない。必要に応じて担当教員が資料を配布または文献を紹介する。

【参考文献】

- ①「はじめての研究法（第2版）」監修：千住秀明ほか。神陵文庫。
- ②「マンガでわかる統計学」著：大上丈彦。サイエンス・アイ新書。

卒業研究

担当教員 山下 忍

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

スポーツに関する個々人のテーマをもとに計画作成を行う。本講座では各種スポーツから見た身体の特性、身体計測、トレーニングの効果、比較能力の検討などについて研究設定を行うことができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の意義について説明できる。
2	研究の進め方と研究計画書の作成について説明できる。
3	研究内容の検討と研究テーマの作成について説明できる。
4	研究仮説の検討および討議の方法について説明できる。
5	参考文献の選定およびテーマの再構築について説明できる。
6	各テーマごとの作業について説明できる。
7	データー収集について説明できる。
8	データー収集からみたテーマの整合性の検討について説明できる。
9	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
10	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
11	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
12	参考文献との比較検討および論文作成について説明できる。
13	論文作成について説明できる。
14	論文完成および論文発表書類作成について説明できる。
15	論文発表方法について説明できる。

【履修上の注意事項】

予習として文献を読み、要点をまとめておくこと
 復習として実験データを整理し、考察をレポートしておくこと。

【評価方法】

研究目的、方法、結果、結果考察、結語、参考文献が正しく記載され、科学的に処理され心理的な考察、生理学的考察、測定方法が十分であることを評価する

【テキスト】

特定図書の設定はない。テーマにより参考図書が必要となる。

【参考文献】

特定図書の選定はない。

卒業研究

担当教員 野口 恭庸

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

自身が疑問に思った事象について、個人的な印象ではなく、誰もが納得できる事実として認めてもらうためには、どのような手続きや手法が必要なのか、学修者が適切に考え、見出すことができることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。東洋医学・鍼灸に関する研究の特徴が説明できる
2	どんな疑問を持っているか意見交換（研究テーマの素材選び）
3	その疑問に関連する文献を色々探し、読んでみる
4	もっとも興味を引く疑問を選んで仮研究テーマを決める
5	選んだテーマについて、これまでに行われている研究（先行研究）を調べる
6	さらに視野を広げて先行研究を調べる
7	疑問の解決方法についてグループ討論
8	そろえるべきデータ、そのための調査・実験方法、導かれる結果を想像してみる
9	仮研究計画（構想）を練ってみる
10	調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（A）
11	（A）を踏まえて、さらに調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（B）
12	（B）を踏まえて、さらに調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（C）
13	得られた結果を整理して、グループ討論
14	検討した結果をもとに、テーマや計画を修正してみる
15	「研究計画書」を完成させる

【履修上の注意事項】

ゼミ内での共同作業が多くなりますので、原則、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡をすること。

【評価方法】

各課題、研究計画書などの提出物、ゼミへの参加状況80%、グループワークの内容、取り組む姿勢20%、として総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 平崎 和雄

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、「アスレティックトレーナー専門実習」「フィットネスマネジメント実習」をとおして得られたデータ等をもとに、スポーツ競技特性、スポーツ傷害特性などについて研究できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法
3	研究テーマ・内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討
5	研究計画書の作成
6	研究計画書の発表
7	データの収集
8	データの追加収集
9	データの検討
10	データの処理
11	データの解析
12	研究報告書の作成
13	研究報告書の中間報告
14	研究報告書の完成
15	研究報告の発表

【履修上の注意事項】

「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等よりデータを得たりスポーツ運動による特異性を考慮したテーマを持つ者
授業前には前回の進捗に応じ資料を作成し、授業後は資料を共有し管理できるようにすること

【評価方法】

研究報告書が作成でき、発表できているか評価する

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

特記なし

卒業研究

担当教員 塚本 紀之

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸スポーツ学科での学習の総まとめとなるのがこの科目です。研究グループ/チームの中で指導にあたる教員との個人的接触および学生が自ら学び・考え・探求することにより「研究の進め方」を学ぶことを目的とします。特に、①鍼灸と生体防御システム（免疫）に関する事、②鍼灸と運動に関する事、③鍼灸と各種療法（温泉、森林浴など）について研究を展開していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/研究とは何か
2	鍼灸の研究領域について
3	研究チームのテーマ①鍼灸と生体防御系について
4	研究チームのテーマ②鍼灸と疼痛制御について
5	リサーチ・クエスチョン
6	文献精読とディスカッション（1）
7	文献精読とディスカッション（2）
8	文献精読とディスカッション（3）
9	文献精読とディスカッション（4）
10	文献精読とディスカッション（5）
11	文献情報の整理・体系化
12	研究計画の立案～仮説、実験方法の選択
13	研究計画書の作成（1）
14	研究計画書の作成（2）
15	研究計画書の発表

【履修上の注意事項】

熱意と根性、途中であきらめないこと。時間の厳守、提出物などの締め切りを守ること。研究グループ/チーム内の行事などに積極的に参加するなど協調性を有しチームで協力して研究ができる人。講義・研究前の予習：次のテーマや実験内容について配布資料をよく読み、不明な点があれば担当教員に質問して理解しておくこと。講義後の復習：各回の講義・研究後は、実験ノートのまとめをし、担当教員のチェックを次の講義・研究時に受けること。

【評価方法】

教員による評価（80%） 研究への取り組み姿勢、提出物の内容などを総合的に評価します。
研究チーム内学生による評価（20%） 研究チーム内学生同士が、研究への取り組み方、貢献度などを総合的に評価します。

【テキスト】

必要に応じ紹介します。

【参考文献】

必要に応じ紹介します。

卒業研究

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本学科のディプロマポリシーのうち、「科学的根拠に基づいた論理的思考と科学的に実践する方法論を身につけている」「最新の医学知識や技術を習得するための生涯学習能力を備えている」ことを達成するのが【卒業研究】【卒業研究論文】を通しての共通目標です。

【卒業研究】では、自らが関心を持ったテーマにおいて、研究の必要性・研究の構成要素・研究の手順を知り、卒業研究論文に向けた研究計画書が作成できることを目的とします。

【授業の展開計画】

- 1 研究を考える前に：自然科学・社会科学・人文科学・・・自分の分野を知ろう。
- 2 研究とは：なぜ鍼灸に研究が必要なのだろうか。目的を考えよう。
- 3 研究のリソース：利用可能な研究機器・附属図書館の能力を知ろう。
- 4 ゼミテーマの背景を知る：疲労、自律神経活動はどのように数値化されるのか知ろう。
- 5 ゼミでの取り組み例 (1)：鍼灸と疲労軽減
- 6 ゼミでの取り組み例 (2)：鍼灸と自律神経機能
- 7 研究テーマのカリ設定：まず疑問→仮説へ展開してみよう。
- 8 先行研究を調べる (1)：仮テーマに沿った文献の精読とグループディスカッション
- 9 先行研究を調べる (2)：仮テーマに沿った文献の精読とグループディスカッション
- 10 先行研究を調べる (3)：仮テーマに沿った文献の精読とグループディスカッション
- 11 実際に測定を行い、データを分析してみる (1)
- 12 実際に測定を行い、データを分析してみる (2)
- 13 実際に測定を行い、データを分析してみる (3)
- 14 研究テーマの設定：実際に取り組める具体的な研究課題に絞り込もう。
- 15 研究計画書を完成させよう。

【履修上の注意事項】

チーム単位で研究に取り組むため、全員の時間管理に配慮すること。

【評価方法】

研究への取り組み、研究計画書、その他課題等を総合的に判断する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 内田 匠治

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでの鍼灸学、東洋医学、解剖学、生理学のその他中で疑問に思ったことについて実験的に検討する。また、鍼灸東洋医学について古典的な疑問がある学生については文献学的なアプローチにて検討する。以上のことを通して、科学的思考、論証ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究方法について
2	テーマの選び方
3	文献検索の方法について、文献の読み方
4	実験計画法
5	予備実験をしてみる1) プロトコルの作り方、実験倫理について
6	予備実験をしてみる2) 実際に実施しながら細かな注意点を考える
7	予備実験をしてみる3) データのまとめ方について
8	予備実験をしてみる4) 統計処理について
9	本実験の計画を立てる
10	実験計画の検討
11	本実験を実施
12	本実験を実施
13	本実験を実施
14	データのまとめ
15	結果を簡易なレポートにまとめる

【履修上の注意事項】

他のゼミ生と協力して実施する必要があるため、各自が積極的に参加すること。他人にまかせて手を抜くようなことがないようにすること。

【評価方法】

作成過程の貢献度などを総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じ適宜紹介する。

【参考文献】

テーマに応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

論文検索や抄読を行うことで、研究テーマを絞ります。また統計について学習し、結果をまとめ論文作成について学習を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究テーマの絞り込みについて（1）
2	研究テーマの絞り込みについて（2）
3	研究テーマの絞り込みについて（3）
4	文献検索について（1）
5	文献検索について（2）
6	文献検索について（3）
7	データ入力について（1）
8	データ入力について（2）
9	統計解析について（1）
10	統計解析について（2）
11	統計解析について（3）
12	研究内容についてのディスカッション（1）
13	研究内容についてのディスカッション（2）
14	研究計画書の作成（1）
15	研究計画書の作成（2）

【履修上の注意事項】

ゼミでの集合時間を厳守すること。それぞれの役割について責任を持って作業を行うこと。

【評価方法】

実験やデータ入力、統計処理、資料作成等を総合的に判断し、評価を行います。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 井手 裕子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

学修者が「アスレティックトレーナー専門実習」および「フィットネスマネジメント実習」を通して得られた経験・データをもとにスポーツ競技特性、スポーツ外傷障害特性、体力の特性などについて研究できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法
3	研究テーマ・内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討
5	研究計画書の作成
6	研究計画書の発表
7	データの収集
8	データの収集
9	データの検討
10	データの処理
11	データの解析
12	研究報告書の作成
13	研究報告書の中間報告
14	研究報告書の完成
15	研究報告の発表

【履修上の注意事項】

スポーツならびに健康・運動による特異性に考慮したテーマを持つもの

【評価方法】

研究報告書の作成ならびに発表

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究

担当教員 本田 泰弘

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸医学の中で興味あるテーマを設定し、その研究テーマに沿って研究を行う。研究では、リサーチクエスションの作成、文献検索、研究方法の検討、研究計画の立案、データ収集と分析など、一連の作業を通じ研究に関する基本的な方法論を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	テーマの検討（1）
3	テーマの検討（2）
4	クリニカルクエスションからリサーチクエスションへ
5	先行研究の検索（1）
6	先行研究の検索（2）
7	先行研究の検索（3）
8	問題の所在と仮説の検討
9	研究方法の検討と研究計画（1）
10	研究方法の検討と研究計画（2）
11	パイロット検証
12	実験、データ収集、分析（1）
13	実験、データ収集、分析（2）
14	実験、データ収集、分析（3）
15	まとめ

【履修上の注意事項】

ゼミ生が一つのテーマに沿って協力して取り組むことが大切。毎回参加が原則

【評価方法】

研究方法を正確に習得し、研究の結果を総合的に分析し考察することが重要である。また、研究への取り組み方を含めて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 篠原 昭二

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸医学を学ぶ過程において種々の疑問を持つであろうが、その中の一つを題材として、これまでの文献調査による概要の理解、実験研究を行うに当たってのプロトコルの作り方、対照群の設定、研究計画の作り方、実験研究、データ処理、統計計算、考察、プレゼンテーションまでの過程を学修する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	実験研究について学ぶ	16	パイロット実験を検証する
2	疑問のある課題を見つけ出す	17	研究計画の見直しを行う
3	和文文献調査の方法を学ぶ	18	実験研究を開始する(1)
4	テキスト文献調査の方法を学ぶ	19	実験研究を開始する(2)
5	欧文文献調査の方法を学ぶ	20	実験研究を開始する(3)
6	和文文献調査の結果を報告する	21	実験研究を開始する(4)
7	テキスト文献調査の結果を検証する	22	実験研究を開始する(5)
8	欧文文献調査の結果を報告する	23	実験研究を開始する(6)
9	研究プロトコルを作成する	24	実験研究を開始する(7)
10	研究プロトコルを検証する	25	実験研究を開始する(8)
11	研究プロトコルを完成する	26	データ整理を行う
12	具体的な研究計画を立案する	27	統計処理を行う
13	具体的な研究計画を検証する	28	考察を考える(現代医学的)
14	具体的な研究計画を完成する	29	考察を考える(東洋医学的)
15	パイロット実験を行う	30	プレゼンテーションを行う

【履修上の注意事項】

自分なりの疑問をいかにして明らかにするかを考え、調査し、実験計画を立て、実践し、考察し、分析する方法論を学ぶ。たとえ未熟でもよいから、自分で考えて、自分で動き、自ら実践することを重視する。

【評価方法】

実験結果の良しあしではなく、プロセスを重視して、最後まで完遂することが不可欠である。また、実験研究における創意・工夫を重視する。

【テキスト】

特に指定しない。しかし、実験計画法や統計処理等について調査する必要がある。

【参考文献】

全日本鍼灸学会雑誌、日本伝統鍼灸学会雑誌等の研究報告を参考にする。

卒業研究論文

担当教員 山下 忍

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

スポーツに関する研究は多岐にわたり、個人々のテーマをもとに計画作成を行う。本講座で設定可能な方法は、各種運動種目、トレーニング種などからの測定、身体計測、統計学、身体適性、トレーニングの効果、比較能力の性差などについて研究設定を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業論文の意義について説明できる。	16	データー処理のしかたについて説明できる。
2	研究の進め方と研究計画作成を説明できる。	17	調査・実験・結果について説明できる。
3	研究内容の検討について説明できる。	18	データーの検討について説明できる。
4	研究テーマの選定について説明できる。	19	参考文献との比較検討を説明できる。
5	テーマの目標と目的について説明できる。	20	参考文献との比較検討を説明できる。 2
6	研究仮説の検討について説明できる。	21	文章の書き方について説明できる。
7	グループごとの研究課題について説明できる。	22	論文作成の分担項目について説明できる。
8	参考文献の抽出について説明できる。	23	論文作成について説明できる。
9	テーマの再構築について説明できる。	24	論文作成について説明できる。
10	テーマごとの作業について説明できる。	25	論文集約について説明できる。
11	データ収集方法について説明できる。	26	論文完成について説明できる。
12	データ収集について説明できる。	27	論文抄録作成について説明できる。
13	データ収集の状況について説明できる。	28	論文発表書類作成について説明できる。
14	データの内容について説明できる。	29	模擬論文発表について説明できる。
15	内容の報告の仕方について説明できる。	30	論文発表について説明できる。

【履修上の注意事項】

予習として文献を読み、要点をまとめておくこと
 復習として実験データを整理し、考察をレポートしておくこと。

【評価方法】

研究目的、方法、結果、結果考察、結語、参考文献が正しく記載され、科学的に処理され心理的な考察、生理学的考察、測定方法が十分であることを評価する。

【テキスト】

特定図書の設定はない。テーマにより10～20冊の参考図書が必要となる。

【参考文献】

特定図書の設定はない。

卒業研究論文

担当教員 野口 恭庸

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

病院、鍼灸治療院における症例検討会や、研修会・学会発表など、卒業後も様々な場面でプレゼンテーション能力が要求される機会に遭遇します。臨床で自身が得た有用な情報を、スタッフ間で共有したり、同じ医療の現場で働く鍼灸師達に提供する上で、“正確に解りやすく伝える”ことはとても大切です。学修者が卒業研究で学んだ科学的な思考・検証によって得られた成果を、論文としてまとめ、またその成果を発表する上で必要な技術、要領などを理解し、身に付けることを目的とする。

【授業の展開計画】

4月～5月 「卒業研究」の授業展開にしたがって進める。
必要に応じて、テーマの修正および研究計画の修正を行う。

6月～9月…調査、実験等によるデータ収集ならびに解析

10月 …研究発表の準備
抄録作成、図表・画像などの素材作成、スライド（パワーポイント）準備、
発表メモ作成、口頭発表方法の学習、予演会
…論文作成の準備

11月～12月…研究発表会
…卒業研究論文の完成・提出

【履修上の注意事項】

ゼミ内での共同作業が多くなりますので、原則、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡をすること。
指定された期日までに卒業研究論文が提出されない場合は評価の資格を喪失しますので、十分注意すること。

【評価方法】

研究発表、卒業研究論文、ゼミへの参加状況50%、グループワークの内容、取り組む姿勢、論文の内容50%、として総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 平崎 和雄

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学修者が、「アスレティックトレーナー専門実習」「フィットネスマネジメント実習」をとおして得られたデータ等をもとに、スポーツ競技特性、スポーツ傷害特性などについて研究論文が作成できる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究報告書の見直し
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法	17	研究論文テーマの検討
3	研究テーマ・内容の検討	18	研究論文内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討	19	研究論文仮説の検討
5	研究計画書の作成	20	研究論文先行研究・参考文献の検討
6	研究計画の発表	21	研究論文データの収集
7	データの収集	22	研究論文データの検討
8	データの追加収集	23	研究論文データの解析
9	データの検討	24	研究論文作成
10	データの処理	25	研究論文中間発表
11	データの解析	26	研究論文完成
12	研究報告書の作成	27	研究論文抄録作成
13	研究報告書の中間報告	28	研究論文抄録完成
14	研究計画書の完成	29	研究論文模擬発表
15	研究報告の発表	30	研究論文発表

【履修上の注意事項】

卒業研究を「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等よりデータを得て報告書を作成・発表した者
授業前の予習、授業後の復習を忘れないようにすること

【評価方法】

卒業研究論文が作成でき、発表できているか評価する

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

特記なし

卒業研究論文

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

【卒業研究】で作成した研究計画書に沿って、チームで実際に研究を進め、得られた知見を研究論文の形にすることで、論理的な思考能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、文書作成能力を養います。また、研究発表を通して口述によるプレゼンテーション能力を身に付けます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	測定・調査とデータの分析 (1)	16	測定・調査とデータの分析 (15)
2	測定・調査とデータの分析 (2)	17	測定・調査とデータの分析 (16)
3	測定・調査とデータの分析 (3)	18	研究論文のプロットの作成
4	測定・調査とデータの分析 (4)	19	研究発表の準備 (1) 構成・図表の準備
5	測定・調査とデータの分析 (5)	20	研究発表の準備 (2) 構成・図表の準備
6	測定・調査とデータの分析 (6)	21	研究発表の準備 (3) スライドの作成
7	測定・調査とデータの分析 (7)	22	研究発表の準備 (4) スライドの作成
8	測定・調査とデータの分析 (8)	23	研究発表の準備 (5) 予演・修正
9	中間報告会：進捗状況と問題点の確認	24	研究発表の準備 (6) 予演・修正
10	測定・調査とデータの分析 (9)	25	研究発表
11	測定・調査とデータの分析 (10)	26	卒業論文の作成 (1)
12	測定・調査とデータの分析 (11)	27	卒業論文の作成 (2)
13	測定・調査とデータの分析 (12)	28	卒業論文の作成 (3)
14	測定・調査とデータの分析 (13)	29	卒業論文の作成 (4)
15	測定・調査とデータの分析 (14)	30	卒業論文の作成 (5)

【履修上の注意事項】

チーム単位で研究に取り組むため、全員の時間管理に配慮すること。

【評価方法】

研究への取り組み、研究発表、卒業研究論文 80%
ゼミ生による相互評価表 20%

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 内田 匠治

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究で行った内容をさらに構造化された論文としてまとめていく。必要であれば、追加の実験を実施する。

それらをまとめて卒論発表会にてプレゼンテーションを行う。授業を通して、各種ソフトの使用やわかりやすいプレゼンテーションができるようになり、論理的な文章を構成し作成することができるようになる。

【授業の展開計画】

9月～10月末までに
卒業研究発表のスライド資料を完成させる。

12月初旬までに
卒業研究論文を作成する。

それぞれのテーマに応じ、データのまとめ方やスライド、論文作成方法を指導する。

【履修上の注意事項】

実験などで、本来の授業時間以外にも実施することがあるのでゼミ内で話し合い調整すること。

【評価方法】

発表と卒論作成の貢献度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

文献調査、実験、解析、論文作成を行うことで、研究テーマに関する理解と能力を育成します。その中で、物事に対して自らで考える力を身に着けます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	データ収集 (1)	16	実験 (8)
2	データ収集 (2)	17	実験 (9)
3	データ収集 (3)	18	実験 (10)
4	データ収集 (4)	19	データ入力
5	データ分析、整理 (1)	20	統計解析
6	データ分析、整理 (2)	21	論文作成 (1)
7	データ分析、整理 (3)	22	論文作成 (2)
8	データ分析、整理 (4)	23	論文作成 (3)
9	実験 (1)	24	論文作成 (4)
10	実験 (2)	25	論文作成 (5)
11	実験 (3)	26	論文作成 (6)
12	実験 (4)	27	要旨作成
13	実験 (5)	28	研究発表の準備
14	実験 (6)	29	研究発表 (1)
15	実験 (7)	30	研究発表 (2)

【履修上の注意事項】

ゼミでの集合時間を厳守すること。それぞれの役割について責任を持って作業を行うこと。

【評価方法】

実験やデータ入力、統計処理、資料作成等を総合的に判断し、評価を行います。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 井手 裕子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学修者が「アスレティックトレーナー専門実習」および「フィットネスマネジメント実習」を通して得られた経験・データをもとにスポーツ競技特性、スポーツ外傷障害特性、体力の特性などについて研究・論文作成・発表ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究報告書の見直し
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法	17	研究論文テーマの検討
3	研究テーマ・内容の検討	18	研究論文内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討	19	研究論文仮説の検討
5	研究計画の作成	20	研究論文先行研究・参考文献の検討
6	研究計画の発表	21	研究論文データ収集
7	データの収集	22	研究論文データ検討
8	データの収集	23	研究論文データの解析
9	データの検討	24	研究論文作成
10	データの処理	25	研究論文中間発表
11	データの解析	26	研究論文完成
12	研究報告書の作成	27	研究論文抄録作成
13	研究報告書の中間報告	28	研究論文抄録完成
14	研究報告書の完成	29	研究論文模擬発表
15	研究計画書の発表	30	研究論文発表

【履修上の注意事項】

卒業研究を「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等においてデータを収集し報告書を作成・発表した者

【評価方法】

卒業論文および発表

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 本田 泰弘

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

研究を遂行し、その成果をまとめ科学論文として完成させる方法を習得する。
また、その内容をプレゼンテーションする方法を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	「卒業研究」の内容に従う	16	論文：タイトル、背景の作成（1）
2	「卒業研究」の内容に従う	17	論文：タイトル、背景の作成（2）
3	「卒業研究」の内容に従う	18	論文：目的の作成
4	「卒業研究」の内容に従う	19	論文：仮説の作成
5	「卒業研究」の内容に従う	20	論文：手続きの作成
6	「卒業研究」の内容に従う	21	論文：統計的解析内容の作成
7	「卒業研究」の内容に従う	22	論文：図表の作成
8	「卒業研究」の内容に従う	23	論文：グラフの作成
9	「卒業研究」の内容に従う	24	論文：結果の作成
10	「卒業研究」の内容に従う	25	論文：考察の作成（1）
11	「卒業研究」の内容に従う	26	論文：考察の作成（2）
12	「卒業研究」の内容に従う	27	論文：引用文献の作成
13	「卒業研究」の内容に従う	28	論文：要約の作成
14	「卒業研究」の内容に従う	29	プレゼンテーションの練習（1）
15	「卒業研究」の内容に従う	30	プレゼンテーションの練習（2）

【履修上の注意事項】

どう取り組んだかが大切である。毎回参加が原則。

【評価方法】

研究を遂行しその成果をまとめ正しい科学論文が作成できたか、またプレゼンテーションの手法を習得できたかが大切である。研究への取り組み方を含めて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 塚本 紀之

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究での学習成果をもとに、研究テーマに関する理解を深め、実験し、結果をまとめていく能力を育成します。実験データの分析と整理、考察、結論を導くことを通し問題解決能力を養い、最終的に卒業研究論文の作成、発表（プレゼンテーション）を行い、自らの情報発信能力を身に着けます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	実験, データ収集, 分析, 整理 (1)	16	研究論文の論理構成を考える (2)
2	実験, データ収集, 分析, 整理 (2)	17	図表を作る (1)
3	実験, データ収集, 分析, 整理 (3)	18	図表を作る (2)
4	実験, データ収集, 分析, 整理 (4)	19	結果を書く (1)
5	実験, データ収集, 分析, 整理 (5)	20	結果を書く (2)
6	実験, データ収集, 分析, 整理 (6)	21	方法を書く (1)
7	プログレスレポート (1)	22	方法を書く (2)
8	実験, データ収集, 分析, 整理 (7)	23	考察を書く (1)
9	実験, データ収集, 分析, 整理 (8)	24	考察を書く (2)
10	実験, データ収集, 分析, 整理 (9)	25	緒言を書く (1)
11	実験, データ収集, 分析, 整理 (10)	26	緒言を書く (2)
12	実験, データ収集, 分析, 整理 (11)	27	要旨を書く (研究論文の完成)
13	実験, データ収集, 分析, 整理 (12)	28	卒業研究発表の準備 (1)
14	プログレスレポート (2)	29	卒業研究発表の準備 (2)
15	研究論文の論理構成を考える (1)	30	卒業研究発表

【履修上の注意事項】

熱意と根性、途中であきらめないこと。時間の厳守、提出物などの締め切りを守ること。研究グループ/チーム内の行事などに積極的に参加するなど協調性を有しチームで協力して研究ができる人。講義・研究前の予習：次のテーマや実験内容について配布資料をよく読み、不明な点があれば担当教員に質問して理解しておくこと。講義後の復習：各回の講義・研究後は、実験ノートのまとめをし、担当教員のチェックを次の講義・研究時に受けること。

【評価方法】

教員による評価 (80%) 研究への取り組み姿勢、提出物の内容などを総合的に評価します。
研究チーム内学生による評価 (20%) 研究チーム内学生同士が、研究への取り組み方、研究への貢献度などを総合的に評価します。

【テキスト】

必要に応じ紹介します。

【参考文献】

必要に応じ紹介します。

卒業研究論文

担当教員 篠原 昭二

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究を通して得られた成果を論文あるいは構造化抄録の形式でまとめることが目的である。

【授業の展開計画】

各单元ごとの授業形態はとらないが、卒業研究を通して、構造化抄録の形式で卒業論文をまとめることが目的である。

【履修上の注意事項】

実験研究を丁寧に実践して、その成果についてまとめることが求められる。

【評価方法】

研究結果をまとめ、考察し、論文を完成することが求められる。

【テキスト】

指定なし

【参考文献】

指定なし

アスレティックリハビリテーション論

担当教員 常盤 直孝

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アスレティックリハビリテーションの意味を理解し、歴史や現場における活動内容を解説する。アスレティックリハビリテーションを実施していくにあたり、必要な専門的基礎知識と計画の立案やリスク管理、医療行為との境界など必要な考え方を実行出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アスレティックリハビリテーションの概念と定義
2	アスレティックリハビリテーションの概要
3	アスレティックリハビリテーションの歴史
4	アスレティックリハビリテーションに必要な評価・検査
5	現場におけるATの活動と役割
6	科学としてのアスレティックリハビリテーションの捉え方
7	機能評価の考え方（目的、役割）
8	アスレティックリハビリテーションの進め方・組み立て方
9	痛みとアスレティックリハビリテーション
10	アスレティックリハビリテーションで用いる手法（筋力トレーニング、ストレッチング）
11	アスレティックリハビリテーションで用いる手法（物理療法、装具、テーピング）
12	スポーツ障害、外傷の管理
13	医療行為とアスレティックリハビリテーション
14	リスク管理の基礎知識
15	リスク管理・トレーナー倫理

【履修上の注意事項】

レポート等の提出期限の遵守と受講中の態度に注意すること。アスレティックリハビリテーションの歴史等について予習をしっかりと行い、また授業後の復習も行うこと。

【評価方法】

試験80%、課題レポート10%、自主的学習態度10%。

【テキスト】

アスレティックリハビリテーション 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 日本体育協会

【参考文献】

スポーツリハビリテーションー最新の理論と実践ー G. Sコルト、L. スナイダー=マクラー編 守屋秀繁 監訳 西村書店

アスレティックリハビリテーションⅠ

担当教員 常盤 直孝

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

アスレティックリハビリテーションを実践していく上で必要な運動療法に関する基礎知識を習得する事が出来る。
現場に必要な物理療法や装具に関する基礎知識を習得し、選手に正しい指導が出来るような理論と技術を習得することが出来る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	運動療法とは
2	筋力トレーニングの基礎知識
3	ストレッチング、関節可動域改善エクササイズの基礎知識
4	神経筋協調エクササイズ
5	全身持久力回復・向上のエクササイズ
6	身体組成管理のためのエクササイズ
7	外傷予防のためのエクササイズ
8	再発予防、外傷予防のためのエクササイズ
9	物理療法総論
10	温熱療法と寒冷療法
11	各種電気療法、水治療法
12	装具総論
13	テーピングの効果と欠点
14	足底板療法
15	まとめ

【履修上の注意事項】

レポート等の提出期限の遵守と受講中の態度に注意すること。授業前にしっかりテキストを読み文献等で調べてくること。予習、復習をしっかりと行うこと。

【評価方法】

試験80%、課題レポート10%、自主的学習態度10%。

【テキスト】

アスレティックリハビリテーション 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 日本体育協会

【参考文献】

スポーツリハビリテーションー最新の理論と実践ー G. Sコルト、L. スナイダー=マクラー編 守屋秀繁 監訳 西村書店

アスレティックリハビリテーションⅡ

担当教員 常盤 直孝

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アスレティックリハビリテーションの考え方と実技を学び、対象者に正しい指導が実践できる知識と技術の習得することが出来る。部位別や各疾患毎の病態や機能的問題の特徴を理解し、情報収集から機能評価、プログラムの実施まで実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	外傷のアスレティックリハビリテーションの考え方
2	肩関節前方脱臼のアスレティックリハビリテーション
3	投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション
4	肘関節、手関節障害へのアスレティックリハビリテーション
5	頸椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション
6	腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション
7	足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション
8	膝靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション
9	肉離れへのアスレティックリハビリテーション
10	慢性スポーツ外傷へのアスレティックリハビリテーション
11	アスレティックリハビリテーションにおける競技種目特性の考え方
12	動作特性と機能的要素
13	競技種目ごとの受傷機転と予防
14	競技種目ごとのリハビリテーションプログラム
15	まとめ

【履修上の注意事項】

レポート等の提出期限の遵守と受講中の態度に注意すること。テキストをしっかりと読み、文献等で調べ学習、復習をしっかりとすること。

【評価方法】

試験80%、課題レポート10%、自主的学習態度10%。

【テキスト】

アスレティックリハビリテーション 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 日本体育協会

【参考文献】

スポーツリハビリテーションー最新の理論と実践ー G. Sコルト、L. スナイダー=マクラ編 守屋秀繁監訳 西村書店

スポーツコンディショニング

担当教員 平崎 和雄

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、様々な競技スポーツ特性を現場を通し見極め理解し、その競技特性にあったコンディショニングプログラムを立案できる能力を習得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	記録系競技のコンディショニング (1) 水泳競技
3	記録系競技のコンディショニング (2) 陸上競技、自転車競技
4	記録系競技のコンディショニング (3) ボート・カッター
5	記録系競技のコンディショニング (4) まとめと発表
6	球技系競技のコンディショニング (1) サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール
7	球技系競技のコンディショニング (2) バスケットボール、バレーボール、ハンドボール
8	球技系競技のコンディショニング (3) 野球、ソフトボール
9	球技系競技のコンディショニング (4) テニス、バドミントン
10	球技系競技のコンディショニング (5) まとめと発表
11	採点系競技のコンディショニング (器械体操、新体操)
12	格技系競技のコンディショニング (柔道、レスリング、ボクシング)
13	採点・格技系競技のコンディショニング (まとめと発表)
14	冬季競技のコンディショニング (氷上種目、雪上種目)
15	冬季競技のコンディショニング (まとめと発表)

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得の学生は履修すること
グループに分かれスポーツの現場を実際に体験・調査し発表する形式をとるので、校外の活動と校内活動のプレゼンテーションができるようにすること。授業前には、テーマとなる種目について調べ、授業後は資料を整理しておくこと

【評価方法】

調査・発表の内容、定期試験等を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第6巻 予防とコンディショニング 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅲ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ現場へ出向き、スポーツ選手に対してストレッチングの指導およびストレッチングの補助を行うとともに、テーピングを要する選手に対してテーピングを実施する。また、スポーツ活動中に発生した傷害に対しての応急処置を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	ストレッチングの指導 (270分)
3	ストレッチングの補助 (360分)
4	テーピング (360分)
5	応急処置 (270分)
6	アフターケア (360分)
7	まとめ
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格希望者は履修のこと。実習日誌をつけレポート提出を義務付ける。アスレティックトレーナー専門実習Ⅱを履修するに必要な科目に「身体の測定評価」「スポーツコンディショニング概論」「テーピングコンディショニング」「救急処置法」「スポーツ栄養学」「コーチング論」「トレーニング論」「スポーツ指導論」「メンタルマネジメント論」「スポーツ医学概論」「生活栄養学」を履修していること

【評価方法】

実習態度・実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 予防とコンディショニング 第8巻 救急処置
財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅳ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ選手の障害に対して競技復帰までのリハビリテーション計画を立て、そのリハビリテーションにおいて評価およびエクササイズの指導・補助を行うことができる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	上肢のアスレティックリハビリテーション (450分)
3	下肢のアスレティックリハビリテーション (450分)
4	体幹のアスレティックリハビリテーション (450分)
5	患部外トレーニング (270分)
6	まとめ (90分)
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得希望者は履修のこと。実習日誌をつけレポートの提出を義務付けるアスレティックトレーナー専門実習Ⅲを履修するに必要な科目に、「運動生理学」「臨床医学各論Ⅲ」「スポーツ傷害の評価」「スポーツコンディショニング」「発育発達論」「スポーツ経営学」を履修していることを条件とする

【評価方法】

実習態度・実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識
第7巻 アスレティックリハビリテーション 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習 V

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ現場や医療機関等におけるアスレティックトレーナーの活動についてアスレティックトレーナー専門実習 I～IVを活かし総合的に実習することができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション (90分)
2. 総合実習 (1620分)
3. まとめ (90分)

【履修上の注意事項】

実数日誌をつけレポートの提出を義務付ける。

アスレティックトレーナー専門実習IVを履修するに必要な科目に「バイオメカニクス」「臨床医学各論IV」「健康管理とスポーツ医学」「アスレティックリハビリテーション概論」「アスレティックリハビリテーションI」を履修していることを条件とする。

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1～9巻 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅵ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ現場や医療機関等におけるアスレティックトレーナーの活動についてアスレティックトレーナーⅤの総合実習の経緯を活かし総合的に実習することができる。

【授業の展開計画】

スポーツ現場および医療機関等に出向き実習する

1. オリエンテーション (90分)
2. 総合実習 (1620分)
3. まとめ (90分)

【履修上の注意事項】

実習日誌をつけレポートの提出を義務付ける
アスレティックトレーナー専門実習Ⅴを履修するに必要な科目に、「アスレティックリハビリテーションⅡ」を履修していることを条件とする

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1～9巻 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

フィットネスマネジメント実習

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 3年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、健康運動を指導する者として知識・技術を身につけることができるとともに、健康・体力づくりの現場でのさまざまなニーズに対応できる実践的な指導力を身に付けさせることができる。健康運動指導の際に必要なスキルを確認し、その指導に基づく結果のフィードバック方法や利用者とのコミュニケーション方法など、健康運動指導士としての実践能力を体験・理解することができる。

【授業の展開計画】

1. 学内トレーニングルーム等での基礎的実習 <平崎・井手>
2. 見学実習（民間フィットネスクラブ） <平崎・井手>
3. 見学実習（公共体育施設） <平崎・井手>
4. 見学実習（医療機関併設施設） <平崎・井手>
5. 見学実習（介護予防施設） <平崎・井手>
6. 施設実習（7日間以上） <平崎・井手>

【履修上の注意事項】

実習参加に当たっては、前回の実習の課題を抽出しその日の目的・計画等を立て実習終了後は、カンファレンスを行い、実習日誌をつけ提出をすることを義務づける。履修届には、施設実習費用が必要です

【評価方法】

施設実習先健康運動指導士の評価と担当教員により評価する

【テキスト】

【参考文献】

エアロビッグ演習

担当教員 藤崎 道子

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講座ではより実践的な運動指導者のスキルを高めるため、指導論やプログラム作成能力向上を中心に進めていきます。運動を実際に指導するスキル（コミュニケーションや実技技能）を身につけることができる。参加者の動機づけにつながる言葉かけができるようになる。エアロビックダンスの指導技術を習得できる。

【授業の展開計画】

- 1 健康運動実践指導者に求められるもの・現代における運動の位置づけとこれからの指導者の役割
- 2 エアロビックダンス演習① ウォーミングアップの考え方と指導法
- 3 エアロビックダンス演習② ウォーミングアップ指導の実際
- 4 エアロビックダンス演習③ メインエクササイズプログラムの立て方
- 5 エアロビックダンス演習④ メインエクササイズ指導法
- 6 エアロビックダンス演習⑤ クールダウン&リラクゼーション法
- 7 エアロビックダンス演習⑥ 健康運動実践指導者実技試験対策
- 8 アクアエクササイズ演習① 水中ウォーキング指導法
- 9 アクアエクササイズ演習② 水中レジスタンス運動指導法（陸上での指導演習）
- 10 アクアエクササイズ演習③ 水中レジスタンス運動指導法（水中での指導演習）
- 11 アクアエクササイズ演習④ アクアダンス（アクアビクス）指導の考え方と指導法
- 12 アクアエクササイズ演習⑤ 健康運動実践指導者実技試験対策
- 13 レジスタンス運動演習① レジスタンス運動の指導法
- 14 ストレッチ運動演習① ストレッチ運動の指導法
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。エアロビック実習も履修していること。毎時間の学習記録ノートを作成すること。水中運動のメリットについて調べておくこと。

【評価方法】

実技試験 50%、レポート 50%

【テキスト】

【参考文献】

アクアエクササイズ指導教本、エアロビックダンスエクササイズ指導理論、健康運動実践指導者用テキスト（以上、公益社団法人 日本フィットネス協会発行）

スポーツ外傷・障害の基礎知識 I

担当教員 未定、矢澤 克典、平崎 和雄

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解できるようにする。そのために上肢・体幹・下肢の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及を習得できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	概論：外傷と障害・治癒過程 (佐久間)
3	肩の外傷 (矢澤)
4	肩の障害 (矢澤)
5	頸部の外傷 (佐久間)
6	頸部の障害 (佐久間)
7	肘・手部の外傷 (佐久間)
8	肘・手部の障害 (佐久間)
9	大腿部の外傷 (佐久間)
10	大腿部の障害 (佐久間)
11	膝の外傷 (矢澤)
12	膝の障害 (矢澤)
13	足部の外傷 (佐久間)
14	足部の障害 (佐久間)
15	まとめ (平崎)

【履修上の注意事項】

授業前にはテキストを読みあらかじめ予習し不明なことは調べてくること、授業後はノートを整理しておくこと。

【評価方法】

試験 80%、授業の態度 20%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識 (各自で、日体協 web、FAXから購入してください)

【参考文献】

スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ

担当教員 未定、矢澤 克典、平崎 和雄

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解できるようになる。そのために重篤な外傷、その他の外傷、年齢・性別によるスポーツ外傷の特徴を習得できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	頭蓋脳震盪 (佐久間)
3	脊髄損傷 (矢澤)
4	胸腹部 (佐久間)
5	大出血 (佐久間)
6	顔面 (佐久間)
7	目 (佐久間)
8	鼻 (佐久間)
9	耳 (佐久間)
10	歯 (佐久間)
11	女性 (佐久間)
12	成長期 (佐久間)
13	高齢者 (平崎)
14	スポーツ整形外科メディカルチェック (矢澤)
15	まとめ (平崎)

【履修上の注意事項】

授業前にはテキストを読みあらかじめ予習し不明なことは調べてくること。授業後はノートを整理しておくこと。

【評価方法】

試験 80%、授業の態度 20%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識 (各自で、日体協WEB、FAXから購入下さい。)

【参考文献】

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し、教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則、及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について、その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において、事例や判例を基に、学校教育に関する様々な場面や課題を想定し、その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に、その根拠となる関連法規や資料を判断基準として、実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

授業計画

第1回：学校教育制度の目的と構造

第2回：教育行政① 教育委員会の組織・機能，教職員の人事権

第3回：教育行政② 学校選択制の拡大，教育振興基本計画

第4回：学校組織① 校長の職務と権限と職員会議の機能

第5回：学校組織② 校長，副校長，教頭の資格要件とその緩和

第6回：学校組織③ 養護・栄養・図書教諭等の職務

第7回：学校組織④ 学校とそれを取り巻く地域との連携

第8回：教職員① 学校教育活動の計画と評価

第9回：教職員② 教員免許更新制と教職大学院の役割・機能

第10回：教育課程① 学習指導要領の法的拘束力と基準性

第11回：教育課程② 学習指導要領とその改訂

第12回：教育課程③ 教科書採択制度

第13回：児童・生徒への対応① 登下校時を含む安全の確保と現代的課題

第14回：児童・生徒への対応② 学校事故における法的責任

第15回：児童・生徒への対応① 懲戒の範囲と体罰，出校停止

定期試験 試験期間中に実施

・知識・理解（基本的事項や学習指導の理解），学んだことを学習指導に生かす姿勢

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加30%，課題提出？発表30%，期末試験40%で評価する。60%以上を合格とする。再試験は実施しない。

【テキスト】

特になし（毎回，学習プリント及び資料を配布する）

【参考文献】

毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

保健体育科教育法 I

担当教員 則元 志郎

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教科教育学は教員免許に養成に関わる重要な授業科目であり、本科目はそのうちの保健体育科教育を扱う。保健体育科教育は基礎的内容であり、主に保健体育科の目的・内容、教育課程、社会変化と学校体育、運動の特性論、教授－学習過程論、学習指導要領、授業計画の立て方・考え方、体育評価論などについて学習する。到達目標として、保健体育科教育法について保健体育教員の立場から、各論を理解したうえで体育実践を指導できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健体育科教育 総論
2	目的・目標論（保健体育科の目的・目標の変遷と現代的課題）
3	内容論 1（学習指導要領における内容の捉え方）
4	内容論 2（教科内容の基準と系統化）
5	教材論 1（教材と教科内容の関係）
6	教材論 2（教材研究と教材化の視点）
7	運動領域論（学習指導要領における運動領域の捉え方）
8	指導方法論（学習としての体育、「めあて学習」の見方・考え方）
9	学習形態論（グループ学習の基本的要素と構成）
10	学習計画論（年間計画、単元計画、指導案の考え方）
11	授業づくり論 1（授業づくりの視点）
12	授業づくり論 2（授業づくりの実際）
13	学習評価論（評価基準と評価内容、指導と評価）
14	教師論（保健体育教師の資質と能力）
15	授業全体の総括

【履修上の注意事項】

授業前に配布した資料（テキスト）を読み、次回の内容について予習しておくこと。さらに、授業後には復習も行うこと。

【評価方法】

課題レポート（5回）100%

【テキスト】

授業時にテキストとなる資料を配布する。

【参考文献】

竹田・高橋・岡出編著『体育科教育学の探求』大修館書店、文部科学省『学習指導要領 保健体育編』学校体育研究同志会編『体育実践に新しい風を一教科内容を軸に体育実践を創る一』大修館書店

保健体育科教育法Ⅱ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康観の変遷を理解する。
- ②国民健康の現状と課題を把握し、高校期における保健学習はどのようにあるべきかを理解する。
- ③新学習指導要領において明示された保健分野の「技能」「表現」を理解し、実践できる。

【授業の展開計画】

新学習指導要領で明示された保健体育科・保健分野の目標を正しく理解できるようにする。
また、中学校・高校期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康科学概論（食事、運動、休養とヘルスプロモーションの意味）
3	保健体育科教師としての健康哲学
4	中学校および高等学校学習指導要領保健体育の教科目と指導案
5	中学校・高校期の発育の特徴
6	中学校・高校期の発達の特徴
7	保健科教育の授業づくり
8	課題レポート（保健科教育カリキュラム）バズセッションと全体討議
9	仮説実験授業、授業書方式・ICTの活用（模擬授業準備）
10	安全教育・安全管理・応急処置
11	模擬授業① 現代社会と健康・前半
12	模擬授業② 現代社会と健康・後半
13	模擬授業③ 生涯を通じる健康
14	模擬授業④ 社会生活と健康
15	模擬授業評価、教育実習および採用試験に向けて

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度（60%）

【テキスト】

最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店
中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省

【参考文献】

現代保健学習・指導事典 保健科教材研究会 編 大修館書店
中学校学習指導要領 文部科学省

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいのか説明できる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

三津家：スクールカウンセラーとして公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート等20%、期末試験80%により評価する

【テキスト】

特にテキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

「改訂版心理臨床の基礎」小野けい子編著 放送大学教育振興会
「学校でフル活用する認知行動療法」 神村栄一著 遠見書房

教職実践演習（中・高）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や

学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】

I教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)

自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)

II学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)

- (1) 事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
- (2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
- (3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。

III授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)

- (1) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
- (2) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
- (3) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)

IV生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)

- (1) 生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
- (2) 事例研究(不登校といじめ問題等)
- (3) 事例研究(ロールプレイング含む)

V児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)

- (1) スクールボランティアを活用したフィールド学習
- (2) スクールボランティアを活用したフィールド学習
- (3) スクールボランティアを活用したフィールド学習
- (4) フィールド学習の振り返りと評価

VI 総括

【履修上の注意事項】

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

①授業態度(30%)、②ポートフォリオを通しての評価(50%)、外部講師による評価(20%)

【テキスト】

【参考文献】

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考 高等学校教諭1種免許状取得希望者

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導—体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。
事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

保健体育科教育法Ⅲ

担当教員 堤 公一

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のねらいは、中学校保健体育教員として必要な実践的指導力を養うことである。そのための到達目標は、以下の通りである。

- 1 中学校保健体育科の授業構成・学習指導・授業分析・評価などの基本的な考え方を理解することができる。
- 2 学習指導要領において取り上げられている体育分野領域「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「ダンス」「武道」についての授業づくり・授業研究の方法を理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について）
2	体育のこれまでとこれから（学習指導要領と保健体育科の変遷）
3	体育の目標・カリキュラム・学習内容（運動の特性と分類）
4	体育の学習指導法（体育におけるICT利活用）
5	体育の授業づくり①（体育授業の条件）
6	体育の授業づくり②（体育授業と評価）
7	体育の授業づくり③（体育授業のリフレクション）
8	体育の授業づくり④（体づくり運動・器械運動・陸上競技・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論）
9	体育の模擬授業実践演習①（学習指導案の作成）
10	体育の模擬授業実践演習②（学習カードの作成）
11	体育の模擬授業実践演習③（模擬授業実践「ねらい1」）
12	体育の模擬授業実践演習④（模擬授業実践「ねらい2」）
13	体育の模擬授業実践演習⑤（模擬授業実践「ねらい1」リフレクション）
14	体育の模擬授業実践演習⑥（模擬授業実践「ねらい2」リフレクション）
15	総括リフレクション（模擬授業実践演習レポート作成についての検討）

【履修上の注意事項】

授業回数の2/3以上の出席がない者は、試験を受験することができない。教室での講義だけではなく、授業づくりの演習として模擬授業を行うので、運動のできる服装および屋外屋内シューズを準備すること。授業づくりの演習では授業づくり担当者を割り振るので、その役割をきちんと果たすこと。

授業以外の学習として、授業前にテキストを読むなどして、各回の予定内容について予習を行うこと（60分）。授業後には講義内容についてのリフレクションや整理を行い復習をしておくこと（60分）。

【評価方法】

試験50%、模擬授業実践演習レポート（学習指導案・学習カード・模擬授業実践・リフレクションを含む）50%

【テキスト】

文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」東山書房
高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著（2010）「新版 体育科教育学入門」大修館書店

【参考文献】

北尾倫彦監修（2012）「平成24年版観点別学習状況の評価基標準と判定基準中学校保健体育」図書文化
高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

保健体育科教育法Ⅳ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康観の変遷を理解する。
- ②国民健康の現状と課題を把握し、中学校期における保健学習はどのようにあるべきかを理解する。
- ③新学習指導要領において明示された保健分野の「技能」「表現」を理解し、実践できる。

【授業の展開計画】

新学習指導要領で明示された保健体育科・保健分野の目標を正しく理解できるようにする。
また、中学校期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康科学概論（中学校期に作り上げる健康観）
3	保健体育科教師に必要な心と健康の倫理
4	保健体育の指導案
5	中学校期の発育の特徴
6	中学校期の発達の特徴
7	良い保健科の授業と悪い保健科の授業
8	保健科教育教材内容の構造化
9	課題レポート（自分が受けた保健科教育）バズセッションと全体討議
10	仮説実験授業、授業書方式・ICTの活用（模擬授業準備）
11	模擬授業① 心身の機能の発達と心の健康
12	模擬授業② 健康と環境
13	模擬授業③ 傷害の防止
14	模擬授業④ 健康な生活と病気の予防
15	模擬授業評価、教育実習および採用試験に向けて

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度等（60%）

【テキスト】

平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編 佐藤豊 編著

【参考文献】

最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店

道徳教育論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）
2	道徳教育の本質
3	学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容
4	道徳性 1（道徳教育の原則からみた道徳性）
5	道徳性 2（コールバーグの道徳性発達理論）
6	日本における道徳教育の史的展開
7	学校における道徳教育の現状（新基本法と学習指導要領）
8	「特別の教科 道徳」について
9	道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴
10	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
11	道徳授業の指導計画
12	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 1）
13	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 2）
14	道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
 参加的態度で臨むこと。
 教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版（2018年3月）

【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考 中学校教諭1種免許状取得希望者

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、中学校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、3週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導—体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

中学校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

文学

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小天温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解説する。
9	『永日小品』の「印象」を解説する。
10	『永日小品』の「昔」を解説する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解説する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解説する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文化に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが、講義の時間だけでは限りがあるので、事前予習、事後復讐など積極して頂ければ、よりスムーズに講義が進むことができる。”

【評価方法】

授業内に課す小レポート（40点）＋学期末試験（もしくは学期末レポート）（60点）

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

対人サービス領域の専門職に必要な心理学理論、心理学的な支援技法を学習し、心理学的な視点から人間を理解し、個人が直面し、抱える問題を心理学的に捉えられるようになることをめざす。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、心理学における”行動”
2	感覚・知覚の現象、理論と心理学的理解
3	欲求・感情の理論と心理学的理解
4	認知と動機づけの理論と心理学的理解
5	記憶・学習・知能（創造性）の理論と心理学的理解
6	成長と発達の理論、老化の現象の心理学的理解
7	発達段階と発達課題、心理的危機の理解
8	集団、組織、社会と個人の関わりの理解
9	パーソナリティ、性格の心理学的理解
10	環境への適応とストレス、対処行動の理解
11	ストレス症状とこころの健康の心理学的理解
12	心理学的支援技法－心理検査、アセスメント－の理解
13	心理学的支援技法－カウンセリング、相談支援技法－の理解
14	心理学的支援技法－多様な心理療法－についての理解
15	まとめ

【履修上の注意事項】

シラバスに沿った進行に合わせてテキストの予定ページを確かめ、予習を行うこと。
授業中に配布されたプリント内容をテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験が100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること。

【テキスト】

『心理学 カレッジ版』医学書院

【参考文献】

必要に応じ指示する

心理学Ⅱ

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

“心理学の視点から身近な疑問をどのように読み解くか理解できるようにする。
心理学Ⅰで学んだ基礎心理学をベースに心理学の興味深い点を理解できるようにする。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	無気力はなぜ起こるか
3	思考力・問題解決能力を伸ばす方法
4	向性でわかるもの
5	人間発達と臨界期
6	発達の逸脱を理解するためには
7	記憶と“ど忘れ”
8	詐欺の心理学 振り込め詐欺など
9	虐待の原因と予防法
10	うつ状態の心理と予防策
11	人を評価し判断する視点
12	因果関係を確認する
13	相関的方法 見えないものを数字で表す
14	こころと身体の健康
15	意思決定について考える

【履修上の注意事項】

予告されたテキスト範囲について授業前に目を通し、授業後は配布されたプリント内容についてテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験 100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること。

【テキスト】

未使用。心理学Ⅰを履修していた学生は、使用したテキストを持参すること。

【参考文献】

必要の都度、指示する

法学 I

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法的作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	法と日常生活——講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（1）——親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（2）——婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（3）——相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（1）——悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（2）——クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（1）——法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（2）——不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉専門職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉専門職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉職と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100％）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義著『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能、財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカatalog、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライバシーの権利と個人情報保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下での平等と合理的差別（男女共同参画、セクハラと男女雇用機会均等法）
9	家族生活における平等（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権——参政権、受益権（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100%）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に適宜紹介する。

社会学 I

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会システム(文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一・二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、生活時間、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など) ・まとめ

【履修上の注意事項】

ノートを毎回きちんと取る。授業前にその単元を一度読み自分なりにまとめておき、授業後は教科書とノートを照らし合わせて復習をしておくこと

【評価方法】

定期試験 80%、授業への取り組む姿勢 20%

【テキスト】

『社会学入門』秋元他 3名 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

社会学Ⅱ

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会学Ⅰを基礎に、社会学の具体的な理論と研究について、私たちの日常生活の中からテーマを設定して学習することができ、また社会福祉士養成や精神福祉士養成に求められる社会学的事項についても修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会とは
2	国民の生活と意識の変化について
3	科学技術の展開について
4	現代社会と科学技術について
5	情報化社会と国民生活について
6	現代社会における専門職について
7	家族の構造と形態について
8	家族の機能について
9	家族の変化について
10	家族と地域社会について
11	都市化と地域社会について
12	過疎化と地域社会について
13	現代社会における社会問題について
14	社会問題の解決にむけて
15	社会学の総まとめ

【履修上の注意事項】

履修上の注意事項 授業前にテキストを読み自分でまとめてから授業に臨む、授業後は自分のまとめと授業内容を比較して復習をする

【評価方法】

定期試験 80%、授業への取り組み 20%

【テキスト】

『社会学入門』秋元他3名 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

教育学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史 ①古代・中世
6	子どもの歴史 ②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史 ③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践 ①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践 ②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践 ③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育 ①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育 ②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育 ③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育 ④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 授業に際しては事前に資料を読み、事後には復習をすること。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教職論』（ミネルヴァ書房、2017）

【参考文献】

授業内において適宜紹介する。

哲学

担当教員 田畑 博敏

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目「哲学」は、古代ギリシャに始まり、中世・近代のヨーロッパを通じて発達し、現代では世界中の多くの国で研究され学ばれている科目です。日本では、自然科学と同様に、明治時代にヨーロッパから輸入され、現在、多くの大学で教えられています。哲学の特徴は、常に物事の根源にさかのぼって、探究することです。探究の対象は森羅万象、探究手段は理性と言葉による論証です。本講義では、先行の哲学者の考えを参考にして、徹底的に考え抜き、自分なりの意見を表現できる力を養うこと、を目標にします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	哲学とは何か、何が存在するのか、存在論を概観する：教科書序文および第一講義・第1.1節
2	存在のあり方、性質と関係、物とプロセス、部分と集まり：教科書第一講義・第1.2-1.4節
3	種と普遍者、可能的対象と虚構的对象：教科書第一講義・第1.5-1.6節
4	存在論の諸区分、領域的VS形式的、応用的VS理論的：教科書第一講義・第2.1-2.2節
5	形式的存在論VS形式化された存在論、存在論の道具としての論理学：教科書第一講義・第2.3-2.4節
6	メタ存在論、道具としての論理学（続）：教科書第一講義・第2.5節および「まとめ」、プリント
7	世界についてどう語るか、思考と表現、存在への関わり：教科書第二講義・第1.1-1.2節
8	パラフレーズ、修正的VS解釈的：教科書第二講義・第1.3節
9	すぐれた理論の条件、単純性と説明力：教科書第二講義・第2.1-2.2節
10	非クワイン的メタ存在論：教科書第二講義・第2.3-3.1節
11	非クワイン的メタ存在論（続）：教科書第二講義・第3.3節および「まとめ」
12	存在者をどのように分類するか？ カテゴリーと形式的因子：教科書第三講義・第1.1-1.2節
13	4 カテゴリー存在論における形式的関係：教科書第三講義・第2.1-2.2節および「まとめ」
14	ものが性質を持つということ：教科書第四講義・第1.1-1.3節
15	実在論の擁護：教科書第四講義・第2.1-2.3節

【履修上の注意事項】

講義終了後、本講義で「コミュニケーション・カード」と名づける小ペーパーを提出してもらいます。これには、予習の結果（重要と思われた3つのキーワードを書く）、講義を受けての感想、講義で学んだこと、講義についての注文など、を書いてください。

【評価方法】

コミュニケーション・カードの提出により「意欲的な受講態度」を評価し（20%）、中間レポートで「基本的理解」の度合いを評価し（30%）、最終レポートで「総合的理解と独自の思考力」を確認する（50%）、というやり方で、総合的・全体的に評価します。

【テキスト】

倉田剛「現代存在論講義 I ファンダメンタルズ」新曜社（2017年）¥2200＋税

【参考文献】

講義の進行に応じて、適宜、指示します。

経済学

担当教員 中宮 光隆

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済は私たちの生活の中の大きくて重要な部分を占めているのに、とかく「難しい」といわれる。聞き慣れない用語が多いこと、常に変化していることがその原因の一端になっている。そこでこの授業では、日本と世界の経済の動きに関心を持つようになること、また新聞やテレビ等メディアによる経済に関する報道内容がより良く分かるようになって、経済の実情や課題に関する理解を深めることがねらいである。

【授業の展開計画】

授業内容は大きく分けて4つある。①経済学とはどのような学問か、現代社会の仕組みはどうなっているのか、②現代経済の実情と、それを知る方法は何か、③現代経済の課題(格差、貧困、バブル、長期の不況、国際化等)は何か、④課題を解決するにはどうしたら良いか、である。これらを順次考察する。

- 第1週 インTRODakション(経済学とは何か、その由来や対象を知る)
- 第2週 社会と経済(社会の仕組みと資本主義経済の成立と発展を概観する)
- 第3週 戦後経済発展の軌跡(1940年代から80年代の日本と世界の経済状況を振り返る)
- 第4週 日本のバブル経済(1980年代後半のバブル経済とはどのようなものだったのかを知る)
- 第5週 日本経済の長期不況とその対策(1990年代の不良債権処理、2000年代の金融政策等)を知る。
- 第6週 現代世界経済の焦点①(1990年代以降のアメリカ経済と住宅バブル)
- 第7週 現代世界経済の焦点②(金融危機と世界同時不況、欧州信用不安と新興国の台頭)
- 第8週 現代世界経済の焦点③(格差、貧困、バブル経済)
- 第9週 経済のグローバル化と経済連携(FTA、EPA、TPP、APEC、等々)
- 第10週 経済の実情を把握する①(経済の循環と経済統計の見方)
- 第11週 経済の実情を把握する②(貿易と国際収支、アベノミクスと財政赤字・消費税)
- 第12週 経済の実情を把握する③(グローバリゼーションと保護主義)
- 第13週 地球環境問題と現代経済(温暖化防止対策と国際協力)
- 第14週 地球環境問題と現代経済(自然エネルギー開発と経済発展)
- 第15週 経済のグローバル化と食糧問題

【履修上の注意事項】

事前に配布するプリントをよく読んで、わからない言葉は事典等で調べておくこと。

【評価方法】

期末試験100%

【テキスト】

特に使用せず、講義(事前に)の際にプリントを配布する。

【参考文献】

講義の際に紹介する。

コミュニケーション論

担当教員 佐藤 嘉倫

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

カウンセリング論

担当教員 忽那 かずみ

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解し、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解できる。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンセリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】

第1回目の講義にて出席に関する重要な説明をします。テキストで事前学習して下さい。講義時間内に心理検査の実施をします。毎回振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを取り上げたり、具体例を話すことがあります、また、演習・グループワークの中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報への扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習・グループワークでは、他の人の意見を否定・批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、そして全員が発言することをルールとします。

【評価方法】

定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】

山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】

必要の都度、指示します。

比較文化論

担当教員 金 蘭九、安藤 学、高 継芬、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

準備事項

単位数 2

備考

【授業のねらい】

本講義では、欧米諸国やアジアの文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較し、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。中国あるいは東南アジアの文化について（安藤・高）
2	日韓文化の遠近（金）
3	医療と福祉・日本と韓国（金）
4	障害者福祉の基本・国際比較（金）
5	メディアを通じた異文化理解（未定）
6	映画と社会、文化（未定）
7	映画が語る欧米諸国の社会、文化及び人間1（未定）
8	映画が語る欧米諸国の社会、文化及び人間2（未定）
9	映画が語る欧米諸国の社会、文化及び人間3（未定）
10	中国人の人間愛について（高）
11	中国人の結婚文化について（高）
12	日本と中国の教育政策について（安藤・高）
13	中国料理の由来について（高）
14	中国茶の文化について（高）
15	日本の太平洋戦争と中国の孫子兵法（安藤・高）

【履修上の注意事項】

授業前に資料（プリント）などを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

レポート80%、発表20%で評価する。

【テキスト】

毎回、資料（プリント）などを用意し、配布する。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

体育

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、健康、体力の保持・向上・増進のための運動処方などを総合的・実践的に自ら把握できるようになる。

【授業の展開計画】

1. 運動行動と身体とのかかわりを説明できる
2. 運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
3. 身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
4. 無酸素運動について説明できる
5. 有酸素運動について説明できる
6. 筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
7. 運動の強度と運動時間について説明できる
8. 運動とエネルギー供給の関係について説明できる
9. 運動の種類と循環器の関係について説明できる
10. メタボリック理解とその対策について説明できる
11. 運動と栄養・休養との関係について説明できる
12. 運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
13. トレーニングの種類とその効果について説明できる
14. 運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
15. 健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】

授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。

体育資料を毎時間持参すること。

演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】

演習レポート30%、自主的学習態度10%、課題レポート20%、体育ノート作成40%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

運動生理学 講談社 岸恭一

倫理学

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成31年度は閉講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

英語 I

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

4年制の大卒者として最低限求められる英語力の養成を目的とし、英語による情報の受信と発信が可となることを目指す。身近で初歩的な科学の話題を扱ったテキストを用い、英語の読解、語彙力、ライティング力を包括した学習を行い、一部に聞き取り練習も取り入れてコミュニケーション能力の基礎を向上させる。更に、語学が教養・全人教育の一部であることから、英語圏の国々の社会・歴史・文化への関心と知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション. 英語学習の意義、英語の特徴等の説明.
2	Unit 3. Secrets of Primates' Forward-facing Eyes 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
3	Unit 3 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
4	Unit 4. why Are Eggs Oval? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
5	Unit 4 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
6	Unit 7. Mechanism of Sugar Addiction 内容理解、設問演習、聞き取り
7	Unit 7 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
8	Unit 8. Honey Does Not Prevent a Cavity 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
9	Unit 8 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
10	Unit 12. Voice Recognition Sounds Great for Security 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
11	Unit 12 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
12	Unit 13. Will Space Exploraton Unlock the Secrets? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
13	Unit 13 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
14	プリント(テキストとは異なる英語原文) 演習
15	14回に続けて、英文演習. 及び、これまでの講義の補足及び総括

【履修上の注意事項】

- ・英文の読解のみにならないように、教員作成の補助教材を一定量使用します。
 - ・辞書は必携です。
 - ・展開計画は一部変更することがあります。
- <テキストはリハビリテーション学科のものと同じであるが、講義で扱うユニットは同一ではない>

【評価方法】

試験 70%. 発表 20%. 平常点(受講の積極性等) 10%.

【テキスト】

石井隆之(他)著
"Science Explorer(身近な科学の世界)" (株)成美堂

【参考文献】

随時、補充教材(ハンドアウト等)配布

英語Ⅱ（医療英語）

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

医療現場での会話や医学・歯学に関するテーマについて、リーディングやライティングを中心に演習を行う。また、からだの代表的な部位の名称について、ボキャブラリーを身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、自己紹介
2	レベルチェック
3	医療現場での会話：ライティング1
4	医療現場での会話：ライティング2
5	医療現場での会話：ライティング3
6	医療現場での会話：リーディング1
7	医療現場での会話：リーディング2
8	医療現場での会話：リーディング3
9	医療現場での会話：リーディング4
10	テスト
11	医学・歯学の読み物1
12	医学・歯学の読み物2
13	医学・歯学の読み物3
14	医学・歯学の読み物4
15	まとめ・補足

【履修上の注意事項】

- ・辞書を必ず持って来ること
- ・中学校レベルの英語力があれば理解可能です。授業に楽しく積極的に参加すれば身につきます。
- ・上記の展開計画は進捗の状況に応じて変更することがあります。

【評価方法】

試験 70%、発表 20%、授業での取り組み・積極性 20%

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業で紹介する。

英会話 I

担当教員 池田 裕子

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英会話Iでは、基本的なコミュニケーション能力を習得することを目標とします。特に、英語のリスニング・スピーキングを中心に学び、聞き取り・発音・暗記・会話を繰り返し、多様なタスクに積極的に取り組むことにより、日常生活の様々な場面で実際に役立つ生き生きとした英語を自然と身に着けることができます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	自己紹介文 (vocabulary/ writing)
3	自分の専攻についての説明 (speaking / listening)
4	出身地・場所についての会話 (vocabulary / reading)
5	趣味についての会話 (speaking / listening)
6	交通手段についての説明 (vocabulary / reading)
7	過去の出来事についての説明 (speaking / listening)
8	週末・来週の予定についての説明 (speaking / listening)
9	レストランでの会話 (speaking / listening)
10	買い物での会話 (speaking / listening)
11	スポーツについての会話 (vocabulary / reading)
12	キャンパスでの会話 (vocabulary / reading)
13	病状についての説明 (vocabulary/ writing)
14	観光地での会話 (vocabulary / reading)
15	将来の夢についての説明 (speaking / listening)

【履修上の注意事項】

必ず予習をして授業に臨んでください。

授業中はペアワークによる活動をしますので、コミュニケーション能力を高めるため、積極的に参加してください。

【評価方法】

予習・授業中の活動・発表 20% 小テスト30% 期末試験50%

【テキスト】

First Time Studying Abroad (はじめての英会話コミュニケーション 留学編)
行時 潔・長田 順子・Antony J. Parker 著 松柏社 1,900 (税別)

【参考文献】

特になし

英会話Ⅱ

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

Introduction to class, and class selection of roleplay using social drama, or community project study programme. Aims to expand vocabulary and ability to hear, comprehend and speak English.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction, English phonetics, and pronunciation practice
2	Preparation of study course, selection of A) social drama role play; b) community project
3	A) Print 1- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 1
4	A) Print 1- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 2
5	A) Print 1- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 3
6	A) Print 1- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 4
7	A) Print 1- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 5
8	A) Print 1 group review, preparation for speaking test / B) Group review of project work
9	A) Mid-term speaking test 1 / B) Mid-term assessment of project work
10	A) Print 2- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 6
11	A) Print 2- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 7
12	A) Print 2- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 8
13	A) Print 2- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 9
14	A) Print 2- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 10
15	Print 1 review, preparation for speaking test / B) Review of project work

【履修上の注意事項】

Lectures based on either social drama group study, or community project group study. Class plan of study will reflect the construction and wishes of the class and students.

【評価方法】

Study plan A) Class participation 20%, and Speaking tests 80%

Study plan B) Class participation 50%, project work 50%

【テキスト】

Any English/Japanese, or English dictionary app for your smartphone, and/or electronic dictionary. (Smartphone app suggestion, Collins English Dictionary app.)

【参考文献】

中国語会話

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

“本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、基礎的な日常会話ができる。”

【授業の展開計画】

本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、会話能力の基礎を身につけることにある。

週	授 業 の 内 容
1	中国について学ぼう 中国語の発音 声調・単母音の学習
2	複合母音・子音の学習
3	人称代名詞、否定、疑問など 浦東空港にて
4	名詞、副詞の用法 タクシーに乗って
5	所在を表す動詞「在」 ホテルでお茶を
6	「的」の省力 場所を表わす代名詞、存在を表わす「有」について学ぶ 私の家族
7	「喜歡」+同市の使い方について学ぶ 趣味は映画です
8	願望を表す助動詞“想” 大学の図書館へ
9	数詞、量詞について学ぶ 放課後
10	前置詞、完了の「了」について学ぶ 上海の交通
11	連動文 地下鉄付近にて
12	助動詞、経験を表わす表現について学ぶ
13	主文述語文、比較の表現 変化を表す表現など ちょっとおなかが空いた
14	結果補語、方向補語について学ぶ 突然の雨
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

小テスト 20%
レポート 20%
試験 60%

【テキスト】

教科書：『LOVE 上海一初級中国語一』朝日出版社
辞典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

韓国語会話

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「ハングル」という文字についての理解と日本語と韓国語との比較をしながら、韓国語の基礎文法を理解する。また、韓国への観光・旅行や文化体験などの場合、簡単な会話に応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「ハングル」文字に関する歴史的背景、文字の構成、文字の書き方について
3. 韓国語の特性についての日本語との比較説明及び子音・母音について
4. 「パッチム」とパッチムの連音化
5. 基本的な挨拶に関連する会話
6. 自己紹介などの簡単な会話
7. 小グループに分け、挨拶・自己紹介などを韓国語で行う（復習と練習）
8. 韓国の文化に関する理解（ビデオ鑑賞）
9. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 1
10. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 2
11. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 3
12. 日本と韓国の文化の相違点について
13. 日常生活での基本的な会話 1
14. 日常生活での基本的な会話 2
15. 日常生活での基本的な会話 3

【履修上の注意事項】

授業後には繰り返し復習する。

【評価方法】

- ①授業参加への態度及び発表 50点
- ②授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

やさしい韓国語（初級）、梁礼先・権点淑・曹恩美著、朝日出版社

【参考文献】

ドイツ語

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ドイツの文化を、ドイツ語学習を通じて学ぶことを本講義の目的とする。ドイツ語それ自体をも対象としながら、特定の言語構造のなかで思考をおこなうとき、言語が思考に影響をおよぼすという事実を知ることがねらいとする。講義を通じて、学修者はドイツ語の言語としての構造的特性を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	オリエンテーション	
2	1 あいさつする	2 お礼・謝罪をする
3	3 気持ちを伝える	4 味の感想をいう
4	5 トラブル	6 自己紹介をする
5	7 趣味・専攻を言う	8 希望・願望を伝える
6	9 可能・不可能を訴える	10 体の不調を訴える
7	11 義務を伝える	12 未来について言う
8	13 賛成・反対をする	14 会話を始める
9	15 趣味を聞く	16 許可を求める
10	17 命令する	18 禁止する
11	19 会話を広げる質問をする	20 依頼をする
12	21 相手を気遣う	22 誘う
13	23 褒める	24 天気について話す
14	25 買い物をする	26 会計をする
15	まとめ	

【履修上の注意事項】

独和辞典を引きまくるという態勢を築いて欲しい。また、テレビ衛星放送でドイツのニュース番組「ZDF」を見るという習慣をつけてほしい。

【評価方法】

講義内で合計10回のミニテストを実施し、それらの結果を総合的に評価して最終評価とする。

【テキスト】

プリントを配布して講義する。テキストは指定しない。

【参考文献】

『過去の克服・二つの戦後』 ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、NHKブックス

障害者言語 I (点字)

担当教員 前田 八千代

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 必ず、指定のテキストと点字器、ワークショップで使用するアイマスクを準備すること。

【授業のねらい】

●一般目標

言語・コミュニケーション文化の一つである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深め、その支援の在り方を共に考える。情報コミュニケーション支援や移動コミュニケーション支援、福祉制度の学習を通じて、視覚に障害のある人への支援のための実践的な知識と・コミュニケーション能力を養う。点字については、その簡単な読み書きが出来るように基礎的な知識・技能の習得を目標とする。

【授業の展開計画】

●行動目標：

視覚障害の特性に応じた基本的な情報コミュニケーション支援と移動コミュニケーション支援ができる。
点字については、点字で手紙のやり取りができる。

- 01 ガイダンス：①オリエンテーション ②視覚障害のある人の状況 ③まちや家の中にある点字について
- 02 情報コミュニケーション支援
①情報保障と合理的配慮 ②情報アクセシビリティと支援技術 ③分かり易い視覚情報の提供の仕方
- 03 移動コミュニケーション支援
①移動保障と合理的配慮 ②視覚に障害のある人の移動の実際
③視覚に障害のある人への接し方と移動支援技法
- 04 点字の基礎1： 点字の歴史と概要 点字の清音
- 05 点字の基礎2： 点字の器具と書き方 点字の濁音・拗音
- 06 点字の基礎3： 点字の読み方 点字の半濁音・拗濁音・特殊音
- 07 語の書き表し方： ①仮名遣い
- 08 語の書き表し方： ②数字
- 09 語の書き表し方： ③アルファベット
- 10 分かち書き： ①文節分かち書き
- 11 分かち書き： ②複合語
- 12 分かち書き： ③固有名詞
- 13 記号類と点字の手紙の書き方
- 14 福祉制度
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

点字の実技についてはテキスト・配布資料等を参考にし、自宅においても予習、復習すること。視覚に障害がある人の現状を具体的に把握するために、毎回関連の最新トピックスを情報提供し、それをテーマにグループディスカッションなども行う。思考的理解のみならず、身体的理解を深めるためにアイマスクなどを使った体験型ワークショップも実施する。理解と実技を定着させるために、宿題も課する。

【評価方法】

授業での取り組みや態度：15% 宿題提出：15% 課題レポート：20% 試験：50%

【テキスト】

『初めての点訳』第3版 全国視覚障害者情報提供施設協会

【参考文献】

『臨床に必要な障害者福祉—障害者福祉論』（福祉臨床シリーズ9）編集委員会編著 指田忠司共著 弘文堂
『視覚障害教育入門』 青柳まゆみ 鳥山由子著 ジアース教育新社

障害者言語Ⅱ（手話）

担当教員 福田 九

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

最近、ろう者による当事者組織である（一財）全日本ろうあ連盟が中心となって進めている手話言語法制定運動の全国的な取り組み、展開から地域では手話言語条例を制定しているところが増え、手話文化が定着している。手話でコミュニケーションを図るためには、スピーキング能力が不可欠であり、本講義では自分のことを手話で話し、身近なテーマについて手話で意見を述べることができるような力を育成する。

【授業の展開計画】

手話でのスピーキング能力を育成するために、様々な状況やテーマで一般的に使われる表現を学ぶ。基本的な文例表現を通して手話単語の語彙を増やすようにし、ただ手話単語を覚えるだけでなくろう者の暮らしや経験を通してまとまった考えを伝えることができるようにする。併せて実践練習を通して、ことばだけでなくジェスチャーも使いながら自然に手話で話せる能力を身につける。また各講義毎に前回の復習として、手話の読み取りテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（この講義を受講にあたって）
2	講義「手話の基礎知識」
3	実技「手話で自己紹介をする・指文字（大曾根式手指記号）」
4	実技「一日の生活・通勤・通学」編
5	個別テスト（「自己紹介」）
6	実技「趣味・スポーツ」編
7	実技「地名・旅行・観光地」編
8	実技「仕事・職業」編
9	実技「病院・病気」編
10	個別テスト（「手話でスピーチ」）
11	講義「手話を日本語文に翻訳する」
12	実技「手話を日本語文に翻訳する」(1)
13	実技「手話を日本語文に翻訳する」(2)
14	実技「手話を日本語文に翻訳する」(3)
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- 事前・事後学習については、講義毎に指示する（講義に出る前には、わからない言葉、用語の意味をある程度、辞典等で調べ整理して出席することが好ましい）。
- 授業では、パワーポイントと手話で話す（手話がわからない学生はパワーポイントや教科書等の文字情報を通して理解を深めてほしい）。

【評価方法】

試験（筆記・実技）100%

【テキスト】

全日本ろうあ連盟著(2007年)『新手話ハンドブック』,三省堂

【参考文献】

『手話教育今こそ！障害者権利条約から読み解く』高田英一(日本手話研究所長)著他

中国事情 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

中国語の文書を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解することができる。
現代の中国事情については中国の人口地理民族などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	中国の概況
3	中国の電子決済事情
4	中国の習慣
5	中国人の礼儀作法
6	論語①
7	論語②
8	中間復習まとめ
9	中国の観光
10	中国の飲食習慣
11	中国の節日
12	中国の交際礼儀
13	中国の現代の大学生
14	現代中国の抱える問題
15	総括まとめ

【履修上の注意事項】

事前に授業の内容を予習することと毎回授業が終わった後復習すること。

【評価方法】

レポート 40%
小テスト 20%
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介する。

中国事情Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いに注目します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（張・高）
2	中国の消費観念（張）
3	中国の就職事情（張）
4	中国の婚姻（張）
5	中国の教育事情（張）
6	中国の健康概念（張）
7	中国の定年後の娯楽（高）
8	今までの振り返り（高）
9	中国の医療事情（高）
10	中国の観光事情（高）
11	中国の伝統休日（高）
12	中国の世界遺産（高）
13	中国の伝統習慣（高）
14	中国の伝統礼節（高）
15	総括（張・高）

【履修上の注意事項】

事前に授業内容を予習してくるものと事後授業内容を復習してくることができれば授業がスムーズに進みます。

【評価方法】

レポート 40%
小テスト 20%
テスト 40%

【テキスト】

講義時随時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介

アジア文化

担当教員 高 継芬、安藤 学、金 蘭九、李 玄玉

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	タイの文化(その歴史と現在) (安藤)
2	韓国と日本の違い(金)
3	日韓文化の遠近(金)
4	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について(李)
5	「飛鳥」という地名の意味、由来…(李)
6	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「D o r i」について(李)
7	台湾の文化について(高)
8	日中の歴史について(高)
9	日中旅遊観光の文化について(高)
10	日中教育の文化について(高)
11	日中文化における共通性と異質性 漢字の比較(高)
12	日中文化における共通性と異質性 論語について(高)
13	日中文化における共通性と異質性 衣食住の比較(高)
14	日本の文化を知る(高)
15	文化についてのディスカッション(担当者全員)

【履修上の注意事項】

アジア文化の関連する本を事前に読んでいただくとスムーズに受講できます。

【評価方法】

“レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%”

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する。

基礎生物科学

担当教員 檜枝 洋記、水崎 幸一

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸スポーツ学科の開講科目の中には、医療やスポーツにかかわる領域で働く上で必要な共通の教養と専門基礎知識として、生化学、解剖生理学、薬理学、栄養学などが設けられている。これらの生命科学と関わりのある科目の内容を理解するためには、生物有機化学や分子生物学的な基礎知識が必須である。この授業では、生物（特にヒト）の体内での合成や分解（代謝）によって創り出される物質や栄養素、遺伝子（核酸）など、いろいろな有機化合物の構造と機能についての基礎知識を習得し、専門・専門基礎科目の内容のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

授業の前半（第1週から8週まで）は、有機化合物を構成する元素やその結合様式、分子の形と混成軌道、官能基の構造と性質など、生体物質を理解する上で基礎となる内容を中心に進める。特に、生体内での代謝で創り出される有機化合物（生化学や栄養学などで必ず出てくるもの）についてわかりやすく解説し、構造式を書ける程度まで学習する。後半は、生物の単位である細胞を構成する主な有機化合物について考え、それらの構造や性質と役割、さらには遺伝子の構造や発現機構についても言及する。

週	授 業 の 内 容
1	生物を構成する元素の特徴 - CHONSPから成る分子の世界（水崎）
2	有機化合物の書き方とアルカン - 分子の形を見る（sp ³ 混成軌道）（水崎）
3	アルケンとアルキン - 分子の形を見る（sp ² 混成軌道とsp混成軌道）（水崎）
4	ベンゼンと芳香族 - 亀の甲の形を考える（水崎）
5	有機化合物の官能基と分類 - 分子の性質を決める原子団（水崎）
6	有機化合物の官能基の性質と反応 - 酸・塩基、酸化・還元反応や脱水反応の産物（水崎）
7	有機化合物の構造異性と光学異性 - この双子兄弟は一卵性？二卵性？（水崎）
8	到達度チェックの中間試験と授業の中間まとめ（水崎）
9	生体を構成する有機化合物 - 糖質と脂質の有機化学的見かたと役割（水崎）
10	アミノ酸の化学 - タンパク質を作る20種類の材料と性質（水崎）
11	タンパク質の構造と機能 - タンパク質の性質と酵素の働き（水崎）
12	核酸の化学 - 核酸を作る5種類の材料と組み合わせの化学（檜枝）
13	遺伝子と核酸 - DNA上の遺伝子の構造と働き（檜枝）
14	遺伝子発現1 - mRNAの発現と調節（檜枝）
15	遺伝子発現2 - mRNAの発現と調節（檜枝）

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で有機化学を履修しなかった、苦手としていた、好きで履修したがもう一度学び直したい、生体を構成する有機化合物の構造と機能などにも少し興味がある学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容をちょっと確認し、また、受講したその日の内に短時間でも復習し、学んだことを記憶に残す努力をする。「わかること」「知ること」を「楽しむ」姿勢で受講するとよい。

【評価方法】

本試験60点、中間試験20点、学習態度（確認小試験を含む）20点

【テキスト】

食を中心とした化学 第4版（北原重登ら、東京教学社）

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - （齋藤勝裕ら、裳華房）
これでわかる基礎有機化学（畔田博文ら、三共出版）イラスト生化学入門（相原英孝ら、東京教学社）

公衆衛生学

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 現代における健康課題を理解するために、その基礎となる知識と技能を習得する。
- 2 私たちを取り巻く自然・社会環境や人々の活動を理解し、心身ともに健康で豊かなQOLの向上を目指すことができる。

【授業の展開計画】

現代の生活様式や環境に起因する様々な健康課題に関心を持ち、それに対し、私たちはどのようにかかわっていくかというテーマで構成する。そのために、ペアを中心としたディスカッションを随所に仕組み、根拠を示しながら自分なりの考えを述べることを目指す。

週	授 業 の 内 容
1	健康の定義と位置づけ
2	健康の要因と公衆衛生の特徴
3	公衆衛生の歴史（公衆衛生の発展に寄与した人物を基に）
4	予防医学とヘルスプロモーション
5	健康な社会を目指して① 健康の測定と健康指標
6	健康な社会を目指して② 人口に関する現状と課題を中心に（阿部）
7	健康な社会を目指して③ 新生児～学童期の生命（母子保健を含む）
8	集団の傾向の把握① 疫学的考えに基づく解析
9	集団の傾向の把握② 実態把握の方法とバイアス（阿部）
10	集団の傾向の把握③ データの種類と解釈
11	感染症とその予防① 感染症成立の条件と発症までの経緯
12	感染症とその予防② 感染症に関する現状と傾向（予防と根絶を含む）
13	食品保健と栄養① 食品の安全（食中毒）と現状
14	食品保健と栄養② 食品の機能と安全性
15	生活習慣病 主な生活習慣病の原因と健康影響（予防と対策を含む）

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、期末試験60%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。毎回、学習プリント及び資料を配布する。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

環境衛生学

担当教員 星野 輝彦

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境因子と人との相互関係を理解し、生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準
3	環境化学：生態系と物質動態
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨
5	環境因子と健康：化学的因子（重金属、農薬、工業薬品など）の健康への影響
6	環境因子と健康：化学的因子（環境ホルモンなど）の健康への影響
7	環境因子と健康：生物学的因子（病原微生物など）の健康への影響
8	環境因子と健康：物理的因子（放射線など）の健康への影響
9	環境因子と健康：物理的因子（温熱、圧力、騒音など）の健康への影響
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒
13	生活環境と健康：室内の汚染物質
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント

【履修上の注意事項】

授業前にプリントを読み、わからない語句を調べること。また授業で得た知識を復習しておくこと（60分）。出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の感想を書くこと。

【評価方法】

試験90%、レポート10%

【テキスト】

各講義の際にプリントを配布する。

【参考文献】

「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版）
「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）

生命倫理

担当教員 柴田 恵子、松本 鈴子、川本 起久子、二宮 球美、小林 幸人、村田 宮彦

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療をはじめとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにともない問われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心を持ち、保健・医療・福祉の従事者としての考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	尊厳死（川本）
4	安楽死（川本）
5	終末期ケア（川本）
6	周産期医療と生命倫理（松本）
7	小児期の保健・医療と生命倫理（二宮）
8	医療資源の配分（柴田）
9	パーソン論（柴田）
10	パターンリズムと患者の権利（小林）
11	ケアと生命倫理（柴田）
12	自律とwell-being（小林）
13	専門職の役割・責務（小林）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】

レポート発表、グループワークを行うので積極的に授業に参加をすること。課題に対して自分の意見を準備しておくこと。第1回目のオリエンテーション時に授業予定、授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、日常の生活環境の整備計画を行う上で「人間工学」的視点がどのように利用できるかを中心に行う。特に、学生が、高齢者や障害者の心身の状態を踏まえた日常生活環境整備のあり方について把握できることを講義の核心とする。

【授業の展開計画】

看護業務や介護福祉業務、またリハビリテーション業務などのコメディカルとしての業務において、身体の負担を軽減する方法を人間工学やボディメカニズムの視点から理解する。また、医療工学（ME）器具、ベッド、椅子、衣服、機器や道具が人間工学的にどのような配慮がなされる必要があるかを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	人間工学の成立過程を歴史的背景から理解する(西島衛治)
2	人間工学の研究手法とは何か、またその応用分野について学ぶ(西島衛治)
3	人間工学を理解するうえで必要な基礎資料を学習する(西島衛治)
4	人間工学がどのように家具全般へ応用されているかを理解する(西島衛治)
5	人間工学がどのようにいすへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
6	人間工学がどのようにベッドへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
7	人間工学がどのように機器への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
8	人間工学がどのように衣服への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
9	人間工学がどのように履物への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
10	人間工学がどのように住宅への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
11	人間工学がどのように高齢者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
12	人間工学がどのように障害者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
13	人間工学と関連分野(リハビリテーション工学)との関係性を考える(西島衛治)
14	人間工学と関連分野(福祉環境マネジメント論)との関係性を考える(西島衛治)
15	人間工学と関連分野(福祉環境工学)との総括的な関係性を考える(西島衛治)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する:反転学習(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノート作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。ICT活用学習など

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(20%)。2. 定期試験や中間理解度確認試験による評価(60%)。3. レポートによる評価(10%)。4. 講義における質疑応答状況(10%)、出席重視(6回以上の欠席は定期試験が受験不可):学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

小原二郎 著「新版 暮らしの中の人間工学」実教出版、2015年

【参考文献】

小川鑛一 著「イラストで学ぶ看護人間工学」東京電機大学出版局、2016年

トレーニング科学

担当教員 石倉 恵介

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業の目的は、学修者がスポーツトレーニングに要求されるスポーツ競技力の向上や健康体力づくりを効果的に実践ならびに指導するために、運動に対する身体の構造・機能の適応メカニズムを理解し、性別や発育なども念頭に置きながら、筋力、パワー及び全身持久力の基本的なトレーニングについて学び自ら実践、説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	トレーニング科学とは
2	トレーニングの基本原則
3	レジスタンストレーニング基本原則
4	レジスタンストレーニング実践への応用
5	全身持久性トレーニング基本原則
6	全身持久性トレーニング実践への応用
7	高地トレーニング
8	トレーニングとエネルギー代謝
9	トレーニングと栄養
10	トレーニングとサプリメント
11	ディートニングと不活動
12	ウェイトコントロール
13	オーバートレーニング
14	メンタルトレーニング
15	まとめ

【履修上の注意事項】

次の授業までに、教科書の授業内容に該当する部分を精読し、授業後に復習をしておくこと

【評価方法】

授業内課題(42%)、自主的学修態度(8%)、試験等(50%)を総合的に判断し評価する

【テキスト】

スポーツトレーニングの基礎理論：横浜市スポーツ医科学センター

【参考文献】

なし

情報リテラシー I

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りの情報環境を、自ら、積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

01. 情報教育システムの利用について（森），教務システムLiveCampusの説明（教務課）
02. キーボード・日本語入力練習 他（森）
03. E-mailの利活用① ネットワークと電子メールの仕組み，アカウント設定 他（森）
04. E-mailの利活用② アドレス帳の設定，署名作成，返信・転送の演習 他（森）
05. 文献検索（福本直子），インターネットの利活用（森）
06. 情報リテラシー・情報モラル・情報セキュリティについて（森）
07. Wordの基本操作① 段落・ページ設定，段組，段落番号 他（森）
08. Wordの基本操作② インデント，ヘッダー・フッター 他（森）
09. Wordの基本操作③ タブとリーダー 他（森）
10. Wordの基本操作④ 罫線，図の挿入とレイアウト 他（森）
11. Wordの基本操作⑤ Wordの図形描画機能 図形描画，修正（森）
12. Wordの基本操作⑥ Wordの図形描画機能 複数の図形の組合せ，曲線とフリーフォーム（森）
13. Excelの基本操作① データ入力，計算式（森）
14. Excelの基本操作② 関数，罫線（森）
15. Excelの基本操作③ グラフ描画（森）

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は、事前に予習をしておくこと。
また、講義中はゆっくりノートをしている時間はないので、復習する中で自分の理解を確かめながら、手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート30%、試験70%。
再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

講義中に、適宜紹介する。

情報リテラシーⅡ

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を、自ら積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

1. Excelの応用① 複合グラフ，散布図，近似直線（回帰直線）
2. Excelの応用② オートフィル，絶対参照と相対参照
3. Excelの応用③ 日付・時間の表示形式 他
4. Excelの応用④ 様々な関数の利用・関数の検索
5. Excelの応用⑤ IF関数とIFの組合せ，COUNTIF，SUMIF，AVERAGEIF
6. Excelの応用⑥ ピボットテーブル
7. Excelの応用⑦ 並べ替え
8. Excelの応用⑧ フィルター
9. Excelの応用⑨ 検索，置換
10. Excelの応用⑩ 条件付き書式
11. ExcelとWordのデータ連携
12. Web上のデータのExcel，Wordでの利活用
13. PowerPointの基本① スライド作成，デザイン・配色，スライドショー
14. PowerPointの基本② スライドの切り替え効果，図・表・グラフの挿入
15. PowerPointの基本③ オブジェクトのアニメーション，ハイパーリンク

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は，事前に予習をしておくこと。また，講義中はノートをしている時間はないので，復習する中で自分の理解を確かめながら，手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと，筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は，レポート30%，試験70%。再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜，資料を配布する。

【参考文献】

講義中に，適宜紹介する。

物理学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

物理学は、自然界のあらゆる出来事に対し、科学的思考によってその本質を明らかにしようという学問です。本講義は、医療・福祉分野において必要となるであろう項目を取上げますが、その学修により、観察事実に基づく科学的思考、分析的思考を身に付けることも目指します。

【授業の展開計画】

1. 力とベクトル、力の合成・分解、作用反作用、力のつり合い
2. 力のモーメント、槌子(てこ)の原理、モーメントのつり合い
3. 体の構造と槌子、重心と安定性
4. 圧力、サイフォン、ドレナージ(吸引)
5. 速度、加速度、ニュートンの運動の法則
6. 重力と重力加速度、一様重力による運動
7. 等速円運動、単振動、波
8. 運動量と運動量保存則、はね返り係数
9. 仕事と力学的エネルギー
10. 種々のエネルギーとエネルギー保存則
11. 電場、静電気力; 磁場、磁力
12. 電流、電位差、オームの法則
13. 電磁波、光
14. 直流回路、交流回路
15. 原子核と放射線、半減期

【履修上の注意事項】

黒板に書かれたことをただ写すだけでなく、講義を聞いて、なぜそうなのかを考えながら、要点をまとめてノートするようにしてください。自分の頭で考えることなしに、物理学や科学的思考を理解することはできないからです。

【評価方法】

筆記試験を行ない、その結果のみで評価します。

【テキスト】

使用しません。適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に示します。

数学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、数学の基礎を理解し、問題演習を通して「論理的思考」や「数学的思考」ができるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

1. 数と単位
2. 度数と分布
3. 平均値のいろいろ
4. 比と比率と割合
5. 比率（静的・動的）
6. リスク比，オッズ比
7. 累乗関数とその性質
8. 指数関数とその性質
9. 対数関数とその性質
10. グラフの描き方・読み方
11. 経験的確率と理論的確率
12. 根元事象と場合の数，順列・組合せ
13. 2項分布とポアソン分布
14. 条件付き確率，期待値
15. ベイズの定理

【履修上の注意事項】

テキストを使用しないので、講義中のノートをしっかり取るだけでなく、事前学習が必要になる。また毎回、前の週の確認テストを行なうので、復習をし、特に授業中の演習問題は、もう一度解いてみて、その考え方のプロセスを学ぶこと。

「数理的な思考」を身に着けるには、自分の頭で考えてみるのが大切です。

【評価方法】

定期試験のみで評価します。

毎回行なう小テストは、理解度を確認するためのものなので、評価には入れませんが、定期試験の問題として出題します（問題文や数字は変更します）。

【テキスト】

テキストは使わず、必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

講義中に、適宜、指示します。

化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

将来、医療やスポーツ系のスタッフとして社会で活躍し貢献するためには、人体の構造と機能や医薬品や医療機器などについても幅広く基礎知識を身に付け、これらの知識をもとによく考え、的確に判断し対処しなければならない。そのために、共通・専門基礎科目として、医用工学、薬理学、生活栄養学などが設けられている。これらの科目は、本科目を受講することで化学的な基礎知識が身に付き、深く理解できる。また、社会生活においても、食品をはじめ身の回りにある物質について化学的（科学的）に考え、正しく理解できるようになる。

【授業の展開計画】

この授業では、初めに物質を構成する眼では見えない主な粒子、原子、分子やイオンの成り立ちを知り、物質中にみられるこれらの粒子の結合の仕方（化学結合）を理解する。次に、化学や物理で決められている原子、分子、イオンの量的な取り扱いを知り、物質の状態変化や化学的な変化（化学反応）を量的な変化として表す方法を学ぶ。また、日常生活や医療との関係の深い物質の濃度の表し方やその状態に関する現象（原理と法則）について学び、さらに主な物質（酸化剤・還元剤、酸・塩基）の性質とその定義、反応の理論についても理解する。

週	授 業 の 内 容
1	物質を構成する見えない粒子（原子）を想像する — 元素とその原子の構造（原子核と電子）
2	原子の性質は原子が持っている電子で決まる — 原子の電子配置と周期性
3	原子が物質のもとになる粒子（イオンと分子）に姿を変える理由 — オクテットルール
4	物質中の原子どうしの手のつなぎ方を見る — 化学結合（イオン結合と共有結合）
5	原子・分子・イオンの質量（重さ）と物質量を考える — 化学量と物質量（モルmolと当量Eq）
6	原子・分子・イオンの質量（重さ）をモルmolで表現する — 物質量（molとEq）の換算方法
7	水溶液の濃度 — 百分率（%）とモル濃度（mol/L）、その他
8	水溶液の性質とヒトの血液 — 蒸気圧と浸透圧
9	物質が姿を変える — 状態変化と化学変化そしてエネルギー変化
10	反応の速さと進む方向の偏り — 可逆反応と化学平衡
11	酸化するものと酸化されるもの — 酸化と還元、酸化・還元反応の理論
12	ヒトは生きるために酸素を必要とする — 生体内での酸化・還元反応
13	酸性を示すものとアルカリ性をしめすもの — 酸と塩基とpH、酸・塩基反応の理論
14	ヒトのからだと血液のpH — 緩衝液とpH
15	ヒトの細胞内はコロイド溶液 — コロイド溶液とその性質

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で化学を履修しなかった、化学を苦手としていた、化学が好きで履修したがもう一度学び直したい学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受験したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。授業の最初か最後に、皆さんの理解度を確認するための小テストを行いながら、「わかること」を「楽しめる」丁寧な抗議を行う。

【評価方法】

定期試験80点、学習態度（確認小テストを含む）20点

【テキスト】

食を中心とした化学 第4版 （北原重登ら、東京化学社）

【参考文献】

コ・メディカル化学—医療系・看護系のための化学—（斉藤勝裕ら、裳華房）
丸わかり！基礎化学（田中永一郎ら、南山堂）

環境科学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境問題というものをどのようにとらえるか、またその問題をどのように解決していくかを、自然と人間との関係から考え、その方法を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境科学オリエンテーション
2	環境とは何か
3	自然環境と人間
4	地域の自然
5	公害
6	地球・生物圏・生態系
7	水と生活環境
8	都市環境と自然
9	大気汚染
10	人工化学物質と環境
11	放射性物質
12	循環型社会
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題の解決策

【履修上の注意事項】

努めて出席すること。今あなたが生きている環境に目を向け、あなたの子孫が生きるであろう環境を考えるきっかけになることを期待する。

【評価方法】

授業中の取り組み (50%) レポート提出 (50%)

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する

生物学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生物のあらゆる生命活動は細胞のはたらきの産物である。ヒトのからだは、二百数十種類、数十兆個の細胞が独自の機能を果たし、同時に、協同的にはたらくことによって維持されている。この授業では「細胞」を軸にして、生物（とくにヒト）のからだの構造とはたらきについて基本的な知識を習得し、専門科目のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生物の多様性と共通性
2	環境と生命
3	細胞の構造とはたらき
4	生体構成物質
5	代謝
6	エネルギーの獲得と利用
7	酵素のはたらき
8	中間試験
9	遺伝子DNAと染色体
10	遺伝子のはたらき
11	細胞分裂
12	遺伝
13	生殖と発生
14	組織と器官
15	まとめ

【履修上の注意事項】

暗記ではなく、考えて理解しながら、基本的な事柄をじっくりしっかり頭にしみ込ませることに重点を置いて授業する。

【評価方法】

中間試験（50%） 単位試験（50%）

【テキスト】

プリント配布

【参考文献】

1. わかる！身につく！生物・生化学・分子生物学、第2版（田村隆明、南山堂）
2. 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学、第3版（和田勝、羊土社）

解剖学 I

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体の正常な構造を学び、イメージできるようになることを目的とする。本講座では人体の構成単位である細胞・組織の微細構造を理解でき、さらに鍼灸の臨床にとって最も大事な体表解剖の指標となる運動器（骨格・筋肉）の構造と機能について理解できるようになる。併せて、循環器についても構造を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人体の構成 細胞と組織
2	人体の構成 体表構造と人体の区分
3	運動器系 総論
4	運動器系 全身の骨格 1
5	運動器系 全身の骨格 2
6	運動器系 全身の骨格 3
7	運動器系 体幹
8	運動器系 上肢 1
9	運動器系 上肢 2
10	運動器系 下肢 1
11	運動器系 下肢 2
12	運動器系 頭頸部
13	循環器系 血管、心臓
14	循環器系 動脈、静脈
15	循環器系 胎児循環、リンパ系

【履修上の注意事項】

予習として予告した内容を教科書を読み十分に把握しておくこと。
復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。

【評価方法】

期末試験（50%）、および小テスト（50%）による総合評価

【テキスト】

解剖学 第2版 河野邦雄、伊藤隆造著（医歯薬出版）、解剖学マスター 影山 照雄（医道の日本社）
カラー人体解剖学（西村書店）

【参考文献】

解剖学Ⅱ

担当教員 本田 泰弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

解剖学Ⅱでは呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系、内分泌系、脳神経系の構造と機能について理解説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	呼吸器系：(1) 鼻腔、副鼻腔、咽頭
2	呼吸器系：(2) 喉頭、気管、気管支、肺
3	消化器系：(1) 口腔、食道、胃
4	消化器系：(2) 小腸、大腸
5	消化器系：(3) 肝臓、胆嚢、膵臓
6	泌尿器系：腎臓、尿路
7	生殖器系：(1) 男性生殖器系
8	生殖器系：(2) 女性生殖器系
9	感覚器系：(1) 視覚器
10	感覚器系：(2) 平衡感覚器、味覚器、嗅覚器
11	内分泌系
12	脳神経系：(1) 神経系の構成、中枢神経系①
13	脳神経系：(2) 中枢神経系②、伝導路
14	脳神経系：(3) 末梢神経系
15	まとめ

【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。
復習として授業中に配布した資料を用いて、教科書の内容を説明できるようにすること。

【評価方法】

レポート提出を20点に換算し、筆記試験80点、合計100点とし、60点以上を合格とする。
なお、再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

解剖学 第2版 河野邦夫 伊藤隆造著 医歯薬出版株式会社、解剖学マスター 影山照雄著 医道の日本社
カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで 西村書店

【参考文献】

組織学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

組織学とは、解剖学をさらに微細構造学的な視点から理解を深める学問である。とくに生理学や病理学の修得にも必須の基礎的内容となる。本講義では、①基本的な組織の分類とその微細構造の特徴を説明できる、②人体を構成する各臓器系の正常組織構造の特徴を生理機能と関連付けながら説明できる、の2点を目的とし、病理学や各種疾患における病態生理や症状を説明できるようになるための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	組織学総論（染色法、観察法）、組織の分類
2	細胞の構造
3	上皮組織と結合組織
4	軟膏・骨組織、脂肪組織
5	血液、骨髄、免疫系
6	筋組織
7	神経組織
8	皮膚、眼、耳
9	心血管系とリンパ系
10	呼吸器系
11	消化器系 ①消化管
12	消化器系 ②肝・胆嚢・膵
13	泌尿器系
14	内分泌系
15	男性及び女性生殖器系

【履修上の注意事項】

必ず解剖学と生理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習すること。

【評価方法】

筆記試験100%とし、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「入門組織学（改訂第2版）」著：牛木辰男、南江堂

【参考文献】

「カラーアトラス機能組織学」監訳：藤本豊士、牛木辰男、南江堂
「Ross組織学（原書第5版）」監訳：内山安男、相磯貞和、南江堂

生理学 I

担当教員 田口 太郎

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学 I では、まず生理学の基礎として細胞機能および活動電位の仕組みを説明できるようになること、続いて、血液、呼吸および心機能と血液循環に関する基礎理論を理解し、これらの正常状態を正しく説明できるようになることを目的とする。サブテキストを用いた小テストを通して、さらに理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	細胞機能の基礎
2	血液：赤血球、ヘモグロビン、鉄代謝、血液型
3	血液：白血球、免疫
4	血液：血小板、血液凝固
5	呼吸：呼吸器系の構造、換気機能、呼吸力学
6	呼吸：ガス交換、呼吸ガスの運搬
7	呼吸：呼吸運動の調節
8	酸塩基平衡
9	心臓：膜電流
10	心臓：自律神経による調節
11	心臓：心電図、心臓の収縮
12	循環：血管の構造と機能、血行力学
13	循環：大循環、微小循環
14	循環：循環調節
15	循環：特殊部位の循環、リンパ循環

【履修上の注意事項】

高校の生物および化学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

毎回の課題30点、筆記試験70点、合計100点とする。再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

1. 「シンプル生理学（改訂第7版）」著：貴邑富久子/根来英雄. 南江堂
2. 「生理学マスター」著：影山照雄. 医道の日本社

【参考文献】

1. 「標準生理学（第8版）」監修：小澤澗司、福田康一郎. 医学書院
2. 「ガイトン生理学 原著第13版」総監訳：御手洗玄洋. エルゼビア・ジャパン

生理学Ⅱ

担当教員 田口 太郎、野口 恭庸

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学Ⅱでは、消化・吸収と代謝機能、腎機能と体液の調節、および筋と神経に関する生理機能の基本的な仕組みを説明できるようになることを目的とする。サブテキストを用いた小テストを通して、さらに理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	消化と吸収：消化管の構造と神経支配
2	消化と吸収：消化管運動
3	消化と吸収：消化液の分泌
4	消化と吸収：栄養素の分解と吸収
5	栄養素の代謝、エネルギー代謝
6	腎機能：機能的構造、糸球体濾過 (小テスト)
7	腎機能：尿細管機能、尿の濃縮
8	腎機能：体液の調節、浸透圧、排尿機能
9	活動電位、イオンチャネル
10	骨格筋の収縮
11	シナプス伝達（神経筋接合部、中枢神経系のシナプス伝達） (小テスト)
12	運動系：脊髄、脳幹
13	運動系：小脳、大脳基底核
14	脳の統合機能：大脳皮質、大脳辺縁系
15	脳の統合機能：脳波、睡眠、学習、記憶 (小テスト)

【履修上の注意事項】

高校の生物および化学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

小テスト3回分を15点に換算、筆記試験85点、合計100点とし、60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

1. 「シンプル生理学（改訂第7版）」著：貴邑富久子/根来英雄. 南江堂
2. 「生理学マスター」著：影山照雄. 医道の日本社

【参考文献】

1. 「標準生理学（第8版）」監修：小澤澗司、福田康一郎. 医学書院
2. 「ガイトン生理学 原著第11版」総監訳：御手洗玄洋. エルゼビア・ジャパン

生理学Ⅲ（講義・演習）

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義・演習

単位数 1

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

生化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生化学とは諸々の生命現象を化学的に解明する学問である。生体を構成する化学物質は多様であり最初は戸惑うであろうが、勉強しているうちに馴染めるものであるから落ち着いて取り組んでほしい。適切な教科書を指定するので、皆さんは教科書内容の7割程度は理解して、他人に解説出来るようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	始めに (元素間の結合様式等、原子-分子に関する基礎的なことについて)
2	生体構成成分の構造と機能 (糖質の化学)
3	生体構成分子の構造と機能 (糖質の化学)
4	生体構成分子の構造と機能 (脂質の化学)
5	生体構成分子の構造と機能 (脂質の化学)
6	生体構成分子の構造と機能 (アミノ酸とタンパク質の化学)
7	生体構成分子の構造と機能 (アミノ酸とタンパク質の化学)
8	生体構成分子の構造と機能 (核酸の化学)
9	生体構成分子の構造と機能 (核酸の化学)
10	生体構成分子の構造と機能 (ビタミンの化学)
11	生体構成分子の構造と機能 (ビタミンの化学)
12	代謝 (エネルギー代謝、糖質代謝)
13	代謝 (エネルギー代謝、糖質代謝)
14	代謝 (脂質代謝、アミノ酸代謝、タンパク質代謝)
15	核酸とタンパク質の生合成、まとめ

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。

【評価方法】

小テストと期末試験の成績で判断する。

【テキスト】

『コンパクト生化学』 大久保 岩男、賀佐 伸省 著 南江堂

【参考文献】

解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 医学書院

生活栄養学（スポーツ栄養学Ⅰ）

担当教員 田中 眞知子

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学習者が健康増進やスポーツ活動を支える栄養について基本的な知識を得る。体重管理法の実際、および運動時の水分摂取の意義と実際について理解を深める。最新のスポーツ栄養ガイドラインを正しく理解できる能力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	健康増進と食生活、アスリートのための適切な栄養補給の必要性と基本的な考え方を理解する
2	栄養素の機能と代謝、5大栄養素を理解する
3	消化吸収機能について、その概要を理解する
4	推定エネルギー必要性の考え方、エネルギー消費量の定量法を学ぶ
5	食事アセスメントについて一主なアセスメント指標を理解する一
6	栄養指導の基本（1）食生活指針と策定の背景、食事バランスガイドの活用法を理解する
7	栄養指導の基本（2）事例から学ぶ食事の問題点と介入法
8	栄養摂取と運動（1）エネルギー、たんぱく質と運動の関係を理解する
9	栄養摂取と運動（2）肥満改善のための運動と食事および目標体重の求め方を学ぶ
10	スポーツ選手の栄養（1）栄養状態の評価法、筋肉づくりについて理解する
11	スポーツ選手の栄養（2）グリコーゲンローディングについて学ぶ
12	スポーツ選手の栄養（3）スポーツ選手の貧血、運動と活性酸素の関係を学ぶ
13	スポーツ選手の栄養（4）水分摂取の意義と方法、熱中症について理解を深める
14	スポーツ選手の栄養（5）サプリメントの種類と使用に当たっての注意点を学ぶ
15	アクティブガイドについて理解を深める

【履修上の注意事項】

授業の際、DVDを視聴することがあり、関連項目のミニテストを行うことがある。授業前にはテキストを熟読し、授業終了後は配布資料を用いて復習を行うこと。

【評価方法】

講義終了後（16回目）に筆記試験を実施する（70%）
授業時のミニテスト（10%）
レポート作成（20%）で総合的に評価する。

【テキスト】

スポーツと健康の栄養学 下村吉治 有限会社ナップ（NAP）

【参考文献】

講義の中で、適宜指示する。

医用工学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 放射線による検査と治療の基礎を学び、質の高いケアを可能にする。これらの医療行為には、患者の理解と協力が必要で、医療従事者による患者指導が果たす役割は大きい。医療従事者が、診療の目的・内容・方法をよく理解し、適切な前処置や介助を行えば、十分な診療情報が得られ、よい治療効果を可能にする。
- 2) 臨床検査の基礎知識と意義を学ぶ。患者の状態を正しく診断するうえで不可欠の手段となっている臨床検査の全体像と意義を総合的に理解し、医療従事者の役割を正しく把握する。

【授業の展開計画】

【授業の順番と内容】

【授業担当者・日程】

放射線と臨床利用

平成30年(火:10-10:40)

1. 放射線概論：放射線の特性、医療被曝、放射線防護を正しく理解する。
また、放射線診療のあり方と実際の診療内容の知識を得る。 羽手村 9-25火
2. 放射線画像：放射線画像の成立過程を理解し、いろいろな画像検査の目的と方法を習得する。 肥合10-02火
3. 放射線画像：CT検査の原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。
また造影剤の特性も理解する。 羽手村10-09火
4. 放射線画像：MRI検査と超音波検査の原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合10-16火
5. 核医学：放射性同位元素を用いた核医学検査の特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合10-30火
6. 放射線治療学：悪性腫瘍の治療における放射線療法の特徴について理解し、放射線治療の原理（メカニズム）と実際の照射技術や放射線治療の副作用、最新の放射線治療法について解説する。 荒木11-06火
7. 放射線治療学： 荒木11-13火

臨床検査

平成30-31年(水13:10-14:40)

8. 臨床検査総論：臨床検査の種類およびその役割と評価基準 千場11-14水
9. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口11-21水
10. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口12-05水
11. 臨床検査総論：臨床検査の流れと看護師の役割、検体採取、保存法、感染防止、
系統別臨床検査の進め方 千場12-12水
12. 臨床検査各論：一般検査、 千場12-19水
13. 臨床検査各論：血液検査、(検体検査) 化学検査 千場 1-09水
14. 臨床検査各論：免疫・血清検査、ホルモン検査 千場 1-16水
15. 臨床検査各論：微生物検査、病理検査 千場 1-23水
16. 単位修得試験 樋口・千場 1-30水

【履修上の注意事項】

- 1) 医用工学の学習ノートを各自用意し、講義内容の要点を書き留め、その日の内に整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え理解する。意味が解らない時は質問する。
- 3) 「放射線と臨床利用」には『臨床放射線医学』を、「臨床検査」には『臨床検査』の教科書を持参する。
- 4) 測定値の単位を理解する。

【評価方法】

筆記期末試験（100＝放射線と臨床応用47＋臨床検査53、但し原則として、両分野とも6割以上の得点で合格とする）。

【テキスト】

『臨床放射線医学』 福田国彦 他9名 著、系統看護学講座 別巻、医学書院

『臨床検査』 奈良信雄 編集、系統看護学講座 別巻、医学書院

【参考文献】

『臨床検査法提要』改訂版 金井正光 編著、金原出版

『解剖生理学』 坂井建雄 岡田隆夫 著、系統看護学講座、医学書院

スポーツ医学概論

担当教員 井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、人の一生において体を動かすことの意味を考えながら、運動にかかわる構造と機能を理解でき、これを基盤に、人々のQOLの向上と健康寿命の延長に寄与するスポーツの意義を認識できる。さらにアスリートの自己管理および心身の健康に配慮した指導や支援を可能にするために、問題発生の予防と解決に関して、その基盤となる医学的知識を習得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	運動器のしくみとはたらき
2	呼吸循環器系の働きとしくみ
3	身体活動とエネルギー供給
4	アスリートの健康管理
5	アスリートの内科的障害と対策
6	特殊環境下での対応
7	アンチドーピング：ドーピングコントロールを含む
8	スポーツバイオメカニクスの基礎：運動の力学的なとらえ方
9	スポーツバイオメカニクスの基礎：走る、跳ぶ、投げる、泳ぐ、蹴るなど
10	スポーツと健康
11	スポーツ活動中に多いケガや病気
12	アスリートの外傷・障害対策
13	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画
14	コンディショニングの手法
15	スポーツによる精神障害と対策

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者等の資格取得を目指す学生は必ず受講すること。

授業後に復習をしておくこと。

【評価方法】

課題レポート(20%)、自主的学修態度(10%)、試験等(70%)を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅲ 日本スポーツ協会

【参考文献】

授業中に、適宜紹介する

運動生理学

担当教員 坂本 将基

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 学修者が体の構造と機能に関する基礎を理解し、説明できるようになる。
2. 学修者が運動に対する体の応答や運動トレーニングによる体の適応を理解し、説明できるようになる。
3. 学修者が特殊環境下での運動時のからだの働きを理解し、説明できるようになる。”

【授業の展開計画】

1. 運動と呼吸
2. 運動と循環（心臓）
3. 運動と循環（血液）
4. 神経系による運動の調節（末梢神経）
5. 神経系による運動の調節（中枢神経）
6. 骨格筋と運動（筋収縮のエネルギー供給）
7. 骨格筋と運動（筋線維の種類とその特徴）
8. 運動と内分泌
9. 運動中の基質・エネルギー代謝（疲労を含む）
10. 運動と免疫能
11. 運動と環境（高温・寒冷環境）
12. 運動と環境（水中環境）
13. 運動と体温調節
14. 運動と発育・発達・老化
15. 運動時の水分・栄養摂取”

【履修上の注意事項】

授業前には資料や参考文献に目を通し、授業で取り扱う内容を大まかに把握しておくこと。また、毎回の授業終了後、授業内容の理解を深めるよう各自努めること。”

【評価方法】

期末筆記試験による(100%)

【テキスト】

受講にテキストは必須ではないが、自学のために以下の参考文献を推薦する。

【参考文献】

受講にテキストは必須ではないが、自学のために以下の参考文献を推薦する。

機能解剖学 I

担当教員 平崎 和雄

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

“ 学修者は、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動を関連付けて学習し、理解することができる。”

【授業の展開計画】

以下の項目について、講義・実習形式で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	運動器総論
3	運動学総論
4	身体運動と骨の構造・機能
5	身体運動と筋の構造・機能
6	身体運動と関節の構造・機能
7	身体運動と腱・靭帯の構造・機能
8	身体運動と骨格筋の構造・機能（体幹）
9	身体運動と骨格筋の構造・機能（上肢）
10	身体運動と骨格筋の構造・機能（下肢）
11	身体運動と神経系総論
12	身体運動と中枢神経
13	身体運動と末梢神経（体幹）
14	身体運動と末梢神経（上肢）
15	身体運動と末梢神経（下肢）

【履修上の注意事項】

“すでに「解剖学 I」「生理学 I」を履修しておくこと
アスレティックトレーナーを目指す者は、必ず履修すること。
授業前は、今回扱う部位の起始停止作用を予習し、授業後は、扱った起始停止作用を復習すること”

【評価方法】

受講態度、提出物、定期試験等を総合的に判断し評価する

【テキスト】

“公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 「運動器の解剖と機能」財団法人 日本体育協会”

【参考文献】

「解剖学」「生理学」のテキスト

病理学（講義・演習）

担当教員 塚本 紀之

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

病理学とはヒトの病気の「原因」と「成り立ち」を明らかにする学問である。この講義では、疾患が発生する基本原理について教授し疾患に関する用語や概念について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	病理学の基礎
2	病因論（1）内因
3	病因論（2）外因
4	病原体と感染症
5	循環障害（1）局所性
6	循環障害（2）全身性、ショック
7	退行性病変 変性、壊死、アポトーシス
8	進行性病変（1）細胞・組織の適応性変化
9	進行性病変（2）組織修復
10	炎症（1）原因と経過
11	炎症（2）炎症性疾患
12	腫瘍（1）腫瘍生物学
13	腫瘍（2）良性腫瘍と悪性腫瘍
14	先天性異常（1）代謝異常
15	先天性異常（2）奇形

【履修上の注意事項】

講義前の予習：第1回目の講義時に配布する教科書対応表に記載されている各講義回の教科書該当ページを参照して概要をつかんでおくこと。講義後の復習：各回の講義を聴講後、もう一度教科書該当ページを読み、復習しておくこと。

【評価方法】

学期末試験（100%）

【テキスト】

病理学概論（第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版）

【参考文献】

カラーで学べる病理学（第4版 渡辺照男 編 ニューヴェルヒロカワ）

薬理学

担当教員 未定、樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

感染症学

担当教員 樋口 マキエ、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働き、② 病気の原因となる微生物と寄生虫の分類と特性（構造、性質、病原性）③ 感染の成立と経過（代表的感染症の起因为菌と臨床症状）について学ぶ。④ 医療現場における感染予防とその方法について学ぶ。⑤ 免疫・生体防御の機構、⑥ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。化学療法薬の面から抗がん薬も付加して学ぶ。

【授業の展開計画】

【授業内容】

【授業担当者】 【授業日程】

選択 他4学科 (2019) 9:10-10:40

- | | | |
|--|------------------------------------|----------|
| 1) 感染症学概論、常在正常細菌叢とその働き | (三森) | 4/05 (金) |
| 2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構） | (三森) | 4/12 (金) |
| 3) 細菌と感染 | (三森) | 4/19 (金) |
| 4) 真菌と感染、 | (三森) | 4/26 (金) |
| 5) ウイルスと感染、 | (三森) | 5/10 (金) |
| 6) 寄生虫・原虫と感染 | (三森) | 5/17 (金) |
| 7) 感染に対する生体防御機構(免疫) | (樋口) | 5/24 (金) |
| 8) 医療現場における感染防止対策 (感染管理認定看護師:熊大附病 手塚・樋口) | (樋口) | 5/31 (金) |
| 9) 化学療法薬について | (樋口) | 6/07 (金) |
| 10) 消毒薬(殺菌薬)について | (樋口) | 6/14 (金) |
| 11) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本 | (樋口) | 6/21 (金) |
| 12) 抗菌薬(抗生物質) | (樋口) | 6/28 (金) |
| 13) 抗菌薬(合成抗菌薬)、抗結核薬、抗真菌薬 | (樋口) | 7/05 (金) |
| 14) 抗原虫薬、抗ウイルス薬 | (樋口) | 7/12 (金) |
| 15) 抗がん薬 | (樋口) | 7/19 (金) |
| 16) 単位修得試験 | 選択 他4学科 (9:10-10:30 80min) (樋口・三森) | 8/02 (金) |

【履修上の注意事項】

- 1) 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 3) 教科書2冊を精読し自己学習する。①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(主に4/05～6/28に使用)、②「コメディカルのための薬理学 第3版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-(5/24～8/02)
- 4) 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

【評価方法】

- 1) 学期末の筆記試験(100%)は、授業時間に比例した配点で評価する。
講義1～6(40点)、7～15(60点)
- 2) 授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。授業範囲の教科書内容は復習すること。
- 3) 授業内容をよく聞いて、正しく理解しているかで評価する。
- 4) 意味不明な文章の解答は評価しない。

【テキスト】

- 1) わかる身につく病原体・感染・免疫 3版(藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円)、3)教員プリント
- 2) コメディカルのための薬理学 第3版(渡辺 他 編、朝倉書店 3,900円)-薬理学、病態生理学でも使用-

【参考文献】

- 1) 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 2) 看護の基礎固め: 6. 微生物学編、4. 薬理学編(メデイカルレビュー社 各1,600円)

リハビリテーション医学

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

解剖学の知識をもとに身体の運動のしくみを学び、リハビリテーションで行われる評価や対象疾患について理解を深める。またリハビリテーション医学とは何かを学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	運動のしくみ (1) 運動学
2	運動のしくみ (2) 体幹
3	運動のしくみ (3) 上肢
4	運動のしくみ (4) 下肢
5	リハビリテーション総説
6	評価について (1) 障害の評価
7	評価について (2) 関節可動域テスト
8	評価について (3) 筋力テスト
9	評価について (4) その他
10	各疾患のリハビリテーション (1) 脳卒中
11	各疾患のリハビリテーション (2) 脊髄損傷
12	各疾患のリハビリテーション (3) 切断、小児
13	各疾患のリハビリテーション (4) 骨関節疾患、リウマチ、末梢神経障害
14	各疾患のリハビリテーション (5) パーキンソン、呼吸器、心疾患
15	全体の復習

【履修上の注意事項】

予習として予告した内容を教科書を読み十分に把握しておくこと。
復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。

【評価方法】

期末試験 (100%) による総合評価

【テキスト】

リハビリテーション医学 第4版 (医歯薬出版株式会社)

【参考文献】

臨床病態生理学 I

担当教員 本田 泰弘

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

整形外科・外科・麻酔科領域の病態と治療の概要、および各領域の臨床の実際について理解し説明できる。また、整形外科・外科・麻酔科領域の病態・治療のメカニズムを理解するために不可欠な解剖学の知識を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	関節疾患（1）関節炎・関節の可動域の異常、五十肩、変形性関節症①（肘関節、手指関節）
2	関節疾患（2）変形性関節症②（股関節、膝関節、足関節）
3	骨代謝性疾患、骨腫瘍
4	筋・腱疾患
5	形態異常（先天性股関節脱臼、斜頸、側弯症、外反母趾、内反足）
6	脊椎疾患（1）（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症等）
7	脊椎疾患（2）腰痛症
8	その他の整形外科疾患（胸郭出口症候群、頰腕症候群、ガングリオン、手根管症候群）
9	脊髄損傷
10	骨折・脱臼・捻挫等
11	スポーツ外傷・障害（1）
12	スポーツ外傷・障害（2）
13	一般外科（1）熱傷（2）凍瘡・凍傷・ショック・外科的感染症
14	救急処置、心肺蘇生法
15	麻酔（全身麻酔・局所麻酔）

【履修上の注意事項】

骨格の成り立ち、脊柱の特徴、骨・関節・筋・神経の働きについて、解剖学の知識をよく復習しておくこと。

【評価方法】

レポート提出を20点に換算し、筆記試験80点、合計100点とし、60点以上を合格とする。再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編 奈良信雄 他著（医歯薬出版株式会社）
解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著（医歯薬出版株式会社）

【参考文献】

各講義の中で随時紹介する。

医事法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 医療行為を中核とする現行医事法制のなかで鍼灸師の法的位置づけを理解する。
- 2 医療専門職に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
- 3 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
- 4 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、鍼灸師の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報の保護、三層の法構造
3	医業の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	医療職と刑事責任（1）——終末期医療と家族
8	医療職と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、実習生による事故とその対応
9	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
10	チーム医療と民事責任（2）——鍼灸師の過失
11	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
12	鍼灸師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
13	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
14	鍼灸師の資格と業務（1）——鍼灸師の資格要件
15	鍼灸師の資格と業務（2）——業務の物的側面・人的側面

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100％）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医事法学概論』2011年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

地域保健論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 地域保健の位置づけやその構造を理解し、具体的な活動や医療制度について理解する。
- 2 地域保健が目指す新しい健康の概念や地域集団としての健康づくりへの取り組みの例に着目し、今後の地域医療の在り方について考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域保健とその構造
2	保健・医療・福祉の組織と活動
3	地域保健① 保健所の組織と業務
4	地域保健② 市町村保健センターの組織と業務
5	救急医療① 救急医療体制
6	救急医療② 救急救命士
7	災害医療① 医療における災害の定義と解釈と災害拠点病院
8	災害医療② 災害時保健医療活動
9	災害医療③ トリアージ
10	へき地医療 へき地保健医療対策と遠隔医療
11	在宅医療① 在宅ケア
12	在宅医療② 訪問診療・往診と訪問看護制度
13	在宅医療③ 訪問及び通所リハビリテーション
14	チーム医療
15	保健・医療・福祉の連携

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。（毎回、学習プリント及び資料を配布する）

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学校やスポーツ現場で起こる身体的、精神心理的な健康問題について健康相談を行うにあたり、場の特徴、対象者の特徴を理解したうえで、その対応方法を考えることができる。

【授業の展開計画】

養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	学校というフィールドについて
2	子供の実態について（発育発達の見点、体力の見点）
3	子供の実態について（疾病異常の、問題行動の見点）
4	子供の実態について（教育の見点）
5	子供のこころの問題について
6	フィールドの違い場の違いについて考える（GWを含む）
7	フィールドの違いによる対象者の特徴について考える（GWを含む）
8	GWの発表
9	健康相談におけるアセスメントについて（ヘルスアセスメント）
10	身体的アセスメント、生活習慣的アセスメントについて
11	社会的アセスメント、心理的アセスメントについて
12	問診について
13	事例研究ー学校の健康相談事例
14	事例研究ースポーツ現場での健康相談事例
15	記録についてーその目的と留意点

【履修上の注意事項】

毎回授業後に本時のまとめを行う。また、次の授業へ向けての課題をだすので文献等を用いて予習をしておくこと。（120分）

【評価方法】

レポート30%、試験70%として評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

なし

救急処置法

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が生命に関わる緊急を要する救命処置、頭、頸部外傷のような重大事故の救急処置、またスポーツ現場での事故を予測し、事故が発生した際の正しい知識・技術を身につけ、あらかじめ事故発生時における救急処置の対応計画を備える重要性や実施者の心得、緊急性を判断するための的確な障害評価の方法、熱中症、過換気症候群など内科疾患における救急処置の基本的な留意点と適切な手順を自ら実践出来るようになる。また、スポーツ現場で備えておくべき救急処置用機材に関する知識と利用法についても実践・説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	救急処置の基本的知識 (平崎)
3	スポーツ現場における救急処置 (平崎)
4	外傷時の救急処置 (R I C E処置、止血、テーピング) (井手)
5	外傷時の救急処置 (特殊な処置ー理論) (未定)
6	外傷時の救急処置 (特殊な処置ー実技) (井手)
7	外傷時の救急処置 (患部固定法、運搬法) (井手)
8	緊急時の救命処置 (C P R理論) (未定)
9	緊急時の救命処置 (C P R実技・基礎) (未定)
10	緊急時の救命処置 (C P R実技2・応用) (井手)
11	緊急時の救命処置 (A E D理論) (平崎)
12	緊急時の救命処置 (A E D実技) (未定)
13	内科的疾患の救急処置 (急性) (未定)
14	内科的疾患の救急処置 (慢性) (平崎)
15	現場における救急体制 (平崎)

【履修上の注意事項】

実習に際しては適した服装で受講するようにすること。

【評価方法】

受講態度30%、定期試験70%で判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第8巻 財団法人日本体育協会

【参考文献】

医学概論

担当教員 本田 泰弘

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医学の歴史、医療資源、関係法規および医の倫理について学び、理想となる医療・医療人の姿について自ら考察できるようになることを目的とする。さらに現代医学の現状と課題、補完代替医療の概要を学び、東洋医学の今後の方向性について探求し、チーム医療の一員である鍼灸師（スポーツ医学）の役割を幅広い視点から学修する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医学概論で学ぶこと
2	西洋医学と東洋医学について（1）現状
3	西洋医学と東洋医学について（2）課題
4	西洋医学と東洋医学について（3）融合の方向性
5	補完代替医療と鍼灸医学について
6	医療資源について
7	関係法規（1）
8	関係法規（2）
9	関係法規（3）
10	医の倫理について（医療人のエチケットについて、医の倫理の歴史）
11	医の倫理について（インフォームド・コンセント）
12	医の倫理について（バイオエシックス）
13	討論会（グループ学習・理想となる医療人等）
14	発表会
15	まとめ

【履修上の注意事項】

医療概論の各領域に対して、問題意識をもって自ら考え学ぶ姿勢を重視するため、グループワークとレポート課題および発表会を重視する。

【評価方法】

レポート提出とグループワーク・発表会参加を必須条件とし、レポート未提出者の筆記試験は評価しない。レポート課題、発表会内容40点、筆記試験60点の合計100点とし、総合して60点以上を合格とする。なお、再試験は筆記試験のみで60%以上を合格とする。

【テキスト】

「医療概論」編：社団法人東洋療法学校協会、医歯薬出版株式会社

「関係法規」編：社団法人東洋療法学校協会、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

各講義の中で随時紹介する。

東洋医学概論 I

担当教員 内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

東洋医学的な手法を用いて鍼灸治療を行う場合は、東洋医学的な診察、診断、治療方針、配穴・手技という一連の行程に則って処置が施される。この治療のプロセスを理解するためには、西洋の自然科学思想とは異なる東洋思想を理解し、東洋医学的な思考方法を習得する必要がある。東洋医学概論 I では、東洋医学の基礎となる東洋思想、陰陽五行説を中心に気の理論、その臨床的応用である五行色体表や気血精、神、津液などの理論を解説しながら、東洋医学と現代医学の違いを踏まえて、東洋医学的世界観を論理的に理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	東洋医学の起源と東洋医学の合理性について
2	陰陽説と五行説 陰陽と五行のコアイメージについて
3	五行色体表 (1) 方位、時間、季節など基本的な分類について
4	五行色体表 (2) 五臓、六腑、五感、感情、外見、臭い、音声など臨床的応用について
5	五行色体表 (3) 食べ物など、漢方薬、医食同源への応用について
6	気の種類 衛気と営気、宗気と元気について
7	血と津液について
8	五臓の生理 (1) 肝の生理
9	五臓の生理 (2) 心の生理 (含む心包の生理) 五神について
10	五臓の生理 (3) 脾の生理 消化吸収について
11	五臓の生理 (4) 肺の生理 肺と呼吸と心臓について
12	五臓の生理 (5) 腎の生理 (含む脳について) 腎と老化について
13	六腑の生理 奇恒の腑の生理
14	臓腑の関係性について (『素問』靈蘭秘典論 (08) より)
15	まとめ

【履修上の注意事項】

事前に配布する講義プリントを中心に授業が展開されます。
教科書「東洋医学概論」については授業の進度に合わせて予習 (一読) をしておくこと。

【評価方法】

期末試験：90% 課題提出物：10%

【テキスト】

「新版 東洋医学概論」(医道の日本社)

【参考文献】

「中医学の基礎」(東洋学術出版社) 「漢方用語大辞典」(燎原書店) 「中医基本用語辞典」(東洋学術出版社)

東洋医学概論Ⅱ

担当教員 内田 匠治

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

東洋医学的な手法を用いて鍼灸治療を行う場合は、東洋医学的な診察、診断、治療方針、配穴・手技という一連の行程に則って処置が施される。この治療のプロセスを理解するためには、西洋の自然科学思想とは異なる東洋思想を理解し、東洋医学的な思考方法を習得する必要がある。『東洋医学概論Ⅱ』では、東洋医学概論Ⅰで学んだ東洋医学の人体観および生理を確認しながら、その状態（＝正常）から離れた状態としての疾病観、発症要因と発症機序、代表的な病証、診断学を学習し、学修者が疾病の状態を自ら説明・鑑別できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	東洋医学における病因病機の基本概念および、三因論について。
2	外因・六淫の基本概念および特徴について。六淫の「風」の概念および発病や病症の特徴について。
3	内因・七情内傷の基本概念および発病や病症の特徴について。
4	不内外因・飲食労倦、痰飲、お血の基本概念および発病や病症の特徴について。
5	東洋医学的な発病機序の特徴および、八綱弁証、正邪盛衰、虚实の概念について。
6	陰陽失調の基本概念および、陰陽偏盛の特徴と病機・病症について。
7	気血失調、水液代謝失調、内生五邪の特徴と病機・病症について。
8	臓腑病機の基本概念と、五臓の各病証とその病機について（1）肝。
9	五臓の各病証（2）心、脾、肺
10	五臓の各病証（3）腎。六腑の各病証について。
11	経脈（十二正経）における各病証と経脈（奇経八脈、経別）および経筋病証とその病機について
12	六経弁証とその病機について。東洋医学的病態用語について。
13	四診法（1）望診、聞診について
14	四診法（2）問診、切診について
15	東洋医学的治療の流れとまとめ

【履修上の注意事項】

事前に配布する講義プリントを中心に授業が展開されます。
また「東洋医学概論Ⅰ」の内容の理解が不完全なままでは本科目の授業の理解は不可能です。本科目の受講前には必ず「東洋医学概論Ⅰ」の復習を十分に行っておくこと。教科書の2章3章については授業の進捗に合わせて予習をしておくこと。

【評価方法】

評価方法 期末試験：90% 課題提出物：10%

【テキスト】

講義プリントを配布する。その他「新版 東洋医学概論」（東洋医学概論Ⅰと同じ）

【参考文献】

「中医学の基礎」（東洋学術出版社）「漢方用語大辞典」（燎原書店）「中医基本用語辞典」（東洋学術出版社）

経絡経穴学概論 I

担当教員 野口 恭庸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

経絡・経穴は、東洋医学において鍼灸医学を特徴づける基本的な概念である。また臨床において経穴は、患者の身体において直接鍼や灸を施術する重要な場所でもある。400個近くもある経穴からどれを選び、どんな刺激を加えるかが治療の成否を左右することになるが、初学者にとっては、まず「何という経穴が」、「どこにあるのか」を全て把握しておく必要がある。臨床で運用する前段階の知識として、十四経の流注ならびに、WHOが制定した361個の経穴の名称・取穴法をすべて記憶し、正しい漢字表記で記述できることを本科目の目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 講義の進め方と諸注意。経絡・経穴の概要、骨度法と同身寸について。
- 2 督脈の流注と所属経穴(28穴)
- 3 任脈の流注と所属経穴(24穴)
- 4 手の太陰肺経(11穴)・陽明大腸経(20穴)の流注と所属経穴
- 5 足の陽明胃経(承泣～滑肉門まで24穴)の流注と所属経穴
- 6 足の陽明胃経(外陵～厲兌21穴)の流注と所属経穴
- 7 足の太陰脾経(21穴)・手の少陰心経(9穴)の流注と所属経穴
- 8 手の太陽小腸経(19穴)の流注と所属経穴 【中間試験】
- 9 足の太陽膀胱経(1)の流注と所属経穴(睛明～会陽まで35穴)
- 10 足の太陽膀胱経(2)の流注と所属経穴(承扶～至陰まで32穴)
- 11 足の少陰腎経の流注と所属経穴(27穴)
- 12 手の厥陰心包経(9穴)・少陽三焦経の流注と所属経穴(23穴)
- 13 足の少陽胆経(1)の流注と所属経穴(瞳子髎～肩井まで21穴)
- 14 足の少陽胆経(2)の流注と所属経穴(淵腋～足竅陰まで23穴)
- 15 足の厥陰肝経の流注と所属経穴(14穴)

【履修上の注意事項】

本科目は、「十四経の流注と361穴の経穴名・取穴を全て覚える」という到達目標が明確に設定されている。講義に出席する前の十分な準備と、既に終わった講義内容の記憶を維持する復習作業の継続が必須となる。1年生全員で協力し合って、この目標を完遂してもらいたい。これらの作業をサポートする目的で、毎回、前回までの講義内容の確認テストを実施する。欠席した分の講義内容を独学で取り戻すのはまず不可能です。遅刻・欠席をしないよう、普段からの自己管理を徹底すること。

【評価方法】

中間試験30%、期末試験70%により評価。

【テキスト】

『新版 経絡経穴概論』(第2版) 公益社団法人東洋療法学校協会 編 医道の日本社

【参考文献】

『[改訂版] ボディ・ナビゲーション』 Andrew Biel 著、阪本桂造 監訳 医道の日本社
『古典から学ぶ経絡の流れ』 浅川 要 編著 東洋学術出版社

経絡経穴学概論Ⅱ

担当教員 野口 恭庸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「経穴」を臨床で運用する際は、治療目的に応じて適切なものを選び、手技等を加え使用する必要がある。その選穴処方根拠となる一つが、「経穴の主治（病症）」といわれる概念である。主治を記した歴代の鍼灸書には様々

なものがあるが、その考え方の基本は「経絡の及ぶ所は、主治の及ぶ所」という概念である。本科目ではテキストには記載の無い身体内部の経絡、及び経筋の走行と、臨床で使用頻度の高い要穴について理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1 講義の進め方と諸注意。鍼灸治療と経絡・経穴の関係。
- 2 要穴の概要。原穴について。
- 3 絡穴について。
- 4 背部兪穴と募穴、ゲキ穴について。
- 5 五兪穴・五行穴、下合穴について。
- 6 四総穴、八会穴、八脈交会穴について。
- 7 経絡の全体像（経絡系統）について。
- 8 正経とその分枝、経別、絡脈及び経筋：手足の太陰経と陽明経（1）。
- 9 正経とその分枝、経別、絡脈及び経筋：手足の太陰経と陽明経（2）。
- 10 正経とその分枝、経別、絡脈及び経筋：手足の少陰経と太陽経（1）。
- 11 正経とその分枝、経別、絡脈及び経筋：手足の少陰経と太陽経（2）。
- 12 正経とその分枝、経別、絡脈及び経筋：手足の厥陰経と少陽経（1）。
- 13 正経とその分枝、経別、絡脈及び経筋：手足の厥陰経と少陽経（2）。
- 14 奇経八脈について。
- 15 グループワークの発表。

【履修上の注意事項】

本科目は、1学期の『経絡経穴学概論Ⅰ』が修得できている前提で講義を行う。1学期の内容に不安が残る学生は、講義に出席する前の準備を確実にすること。本講義は経絡経穴の臨床運用を前提とした内容が中心となる。欠席した分の講義内容を独学で取り戻すのはまず不可能です。遅刻・欠席をしないよう、普段から自己管理に努めること。

【評価方法】

グループワークの内容50%、期末試験50%により評価。

【テキスト】

『新版 経絡経穴概論』（第2版） 公益社団法人東洋療法学校協会 編 医道の日本社

【参考文献】

適宜プリントを配布する。

臨床コミュニケーション I (演習)

担当教員 内田 匠治

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床におけるコミュニケーションには言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションが存在する。本科目では3年次開講の臨床コミュニケーションⅡに先立ち、非言語的コミュニケーションを中心に、東洋医学における「不問診」と呼ばれるような、言語を必要としない方法や、鍼灸師に必要な基本的な所作ができる。鍼灸師に必要な所作としては、鍼と灸の基本的な技術も含まれるため、それらについても1年次よりも高度な技術ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医療面接とは？すべての技術の基盤となる話しやすい雰囲気作りについて
2	触れるというコミュニケーション（切診：脈診、腹診、触診）と望診、聞診
3	医療面接（問診の方法）について
4	医療面接の演習（特に触診について）
5	医療面接の演習（特に腹診について）
6	医療面接の演習（特に脈診について）
7	鍼灸の技術試験、鍼灸センター見学（前）
8	鍼灸の技術試験、鍼灸センター見学（後）
9	治療者と模擬患者に分かれた演習(1)：雰囲気作り（身だしなみ、自己紹介、ことば遣い）
10	治療者と模擬患者に分かれた演習(2)：質問（開かれた質問、閉ざされた質問）
11	治療者と模擬患者に分かれた演習(3)：触れる
12	治療者と模擬患者に分かれた演習(4)：東洋医学的診断（望診、聞診、切診）
13	治療者と模擬患者に分かれた演習(5)：東洋医学的問診
14	治療者と模擬患者に分かれた演習(6)：東洋医学的病能把握（証の決定）
15	治療者と模擬患者に分かれた演習(7)：治療技術

【履修上の注意事項】

授業時間中に実施するロールプレイングの評価と実技試験については、担当日を事前に決定しますので、その日については特に休まないようにすること。事前に相談があった場合や合理的な理由がある場合は担当日の調整などで対応します。毎回、鍼・灸の基本技術練習を行いますので、実習着に着替えて鍼灸道具を用意すること。

【評価方法】

提出物(50%)および授業中のロールプレイング演習の評価(25%)、授業中の実技評価(25%)によって評価する。

【テキスト】

教員による資料によって実施する。

【参考文献】

鍼灸臨床における医療面接（丹澤章八 医道の日本社）

東洋医学臨床論 I

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 到達目標：1) 鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な症候・疾患の定義、原因と病態を説明できる。2) 患者の愁訴について鑑別診断するための情報を聴取できる。3) 患者に対する診察法を実施できる。4) 四診法による鍼灸所見を記述して分類概説できる。5) 患者の愁訴について治療の適否を判断できる。6) 患者に対する治療計画（治療方針・処方例）を説明できる。7) 患者に対する治療方法を実施できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	治療総論～現代医学的ならびに東洋医学的な治療原則・治療効果の根拠を理解する。POSカルテ記載
2	治療各論：肥満、痩せ、冷え、のぼせに対する診断と治療
3	眼精疲労、耳鳴り、難聴に対する診断と治療
4	感冒・流感・風邪症候、動悸、息切れ呼吸困難に対する診断と治療（風熱・風寒・傷寒）
5	食欲不振、悪心嘔吐、便秘、下痢等に対する診断と治療（Functional Dyspepsia）
6	？閉（膀胱炎・前立腺肥大）、夜尿症に対する診断と治療
7	痛経・お産の鍼灸・子宮筋腫に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する
8	歯痛、顎関節痛、顔面神経麻痺に対する診断と治療
9	リウマチ・アトピー性皮膚炎に対する診断と治療
10	パーキンソン病、脳血管障害に対する診断と治療
11	狭心症、気管支喘息に対する診断と治療
12	うつ、精神疾患に対する鍼灸臨床を理解する
13	緩和ケアにおける鍼灸臨床を理解する
14	老年医学に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する
15	健康・予防（治未病）と鍼灸治療（東洋医学的な概念と治療方法）

【履修上の注意事項】

- 1) 教科書は必ず持参してください。毎回の講義ノートを作り授業中配布される資料と共に保管すること。教科書にメモ書きするような勉強の仕方は改めてください。2) 適宜小テストを課すので期日までに提出して下さい。3) 本講義は、はり師・きゅう師国家試験に出題される教科書の1つですので講義ノートを中心に予習・復習を行い積極的に授業にのぞんでください。4) 授業態度が著しく悪く周囲の学生に悪影響を与えると判断した場合には退室を命じることがあります。5) 授業中に理解できないことがあれば、教員に質問してください。

【評価方法】

配点は期末試験80%、小テスト等20%とする。

【テキスト】

『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』東洋療法学校協会教科書執筆小委員会：著、医道の日本社

【参考文献】

篠原昭二：『補完・代替医療 鍼灸』、金芳堂、2014

東洋医学臨床論Ⅱ

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

東洋医学臨床論Ⅰに準じる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	骨折、脱臼、打撲・捻挫に対する診断と治療（骨折との鑑別・予後診断）
2	腰下肢痛に対する診断と治療（ぎっくり腰・腰痛・不可俛仰・坐骨神経痛）
3	腎虚腰痛（非定型腰痛）に対する診断と治療
4	股関節痛に対する診断と治療（風熱・風寒・傷寒）
5	膝痛に対する診断と治療（変形性膝関節症・労損・痺証・挫傷）
6	腱鞘炎・弾発指、足関節痛、手関節痛に対する診断と治療
7	肩こりに対する診断と治療
8	頸肩腕症候群に対する診断と治療
9	五十肩、肩関節痛に対する診断と治療
10	上肢のエントラップメントニューロパチーに対する診断と治療(1)
11	上肢のエントラップメントニューロパチーに対する診断と治療(2)
12	下肢のエントラップメントニューロパチーに対する診断と治療(1)
13	下肢のエントラップメントニューロパチーに対する診断と治療(2)
14	スポーツ領域における鍼灸施術：腰下肢痛に対する診断と治療
15	スポーツ領域における鍼灸施術：頸肩腕痛に対する診断と治療

【履修上の注意事項】

東洋医学臨床論Ⅰに準じる。

【評価方法】

配点は期末試験80%、小テスト等20%とする。

【テキスト】

篠原昭二、和辻直：「すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針」、ヒューマンワールド。

【参考文献】

篠原昭二：『補完・代替医療 鍼灸』、金芳堂、2014

はり基礎実習 I

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 実習

単位数 2

【授業のねらい】

はり基礎実習 I では、基本的な刺鍼技術を身につけることを目的とする。また、鍼や刺鍼に関する基礎知識、安全な鍼施術を行う上で必要とされる衛生概念や感染防止対策、さらに医療事故・有害事象に対する防止対策を理解し、学修者による安全かつ衛生的な鍼施術を遂行できることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス (1)	16	自己刺鍼に関するガイダンス
2	ガイダンス (2)	17	ディスポーザブル鍼使用に関するガイダンス
3	両手・片手挿管法 (1)	18	自己刺鍼 (1)
4	両手・片手挿管法 (2)	19	自己刺鍼 (2)
5	両手・片手挿管法 (3)	20	自己刺鍼 (3)
6	切皮	21	自己刺鍼 (4)
7	旋撚刺法 (1)	22	自己刺鍼 (5)
8	旋撚刺法 (2)	23	自己刺鍼 (6)
9	旋撚刺法 (3)	24	自己刺鍼 (7)
10	旋撚刺法 (4)	25	自己刺鍼 (8)
11	送りこみ刺法 (1)	26	相手への刺鍼 (1)
12	送りこみ刺法 (2)	27	相手への刺鍼 (2)
13	送りこみ刺法 (3)	28	相手への刺鍼 (3)
14	送りこみ刺法 (4)	29	相手への刺鍼 (4)
15	まとめ 中間試験	30	相手への刺鍼 (5)

【履修上の注意事項】

本実習は、毎回新たな内容の技術指導が行われる。授業時間以外に各自で自習時間を確保し、毎日の復習練習を必ず行うこと。また一度でも欠席すると、学習について行くことが非常に困難になるので原則として欠席をしないこと。本学科の「実習内規」を熟読し、内容を確実に理解すること。内規のとおり、授業回数分の5分の1を超えて欠席した場合は、評価の資格を喪失するので十分注意すること。

【評価方法】

試験は口頭試験及び実技試験

評価 = {中間試験 (A%) + 期末試験 (B%)} × 取組姿勢 (100% - 授業不参加回数 × 4%)

刺鍼操作技術評価は A = 20、B = 80

【テキスト】

はりきゅう実技 (基礎編) 第2版 東洋療法学校協会編 医道の日本社

鍼灸医療安全ガイドライン 尾崎昭弘、坂本歩、鍼灸安全性委員会編 医歯薬出版株式会社

【参考文献】

はり基礎実習Ⅱ

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 実習

単位数 2

【授業のねらい】

はり基礎実習Ⅱでは、刺鍼部位の解剖学的形態の知識および、正確な取穴技術を習得する。また、鍼灸臨床の基礎となる手技を身につけ、安全かつ衛生的に全身の筋肉、経穴に刺鍼が行えることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	頭顔部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
2	上肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1	17	頭顔部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
3	上肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2	18	頭顔部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3
4	上肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3	19	頭顔部：主要な経穴の取穴と刺鍼
5	上肢：主要な経穴の取穴と刺鍼	20	頸背部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
6	下肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1	21	頸背部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
7	下肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2	22	頸背部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3
8	下肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3	23	頸背部：主要な経穴の取穴と刺鍼
9	下肢：主要な経穴の取穴と刺鍼	24	肩部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
10	腰臀部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1	25	肩部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
11	腰臀部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2	26	肩：主要な経穴の取穴と刺鍼
12	腰臀部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3	27	腹胸部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
13	腰臀部：主要な経穴の取穴と刺鍼	28	腹胸部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
14	刺鍼練習	29	腹胸部：主要な経穴の取穴と刺鍼
15	中間試験	30	刺鍼練習

【履修上の注意事項】

本実習は、毎回新たな内容の技術指導が行われます。授業実習時間以外でも各自で自習時間を確保し、復習・練習を行うこと。また欠席すると授業について行くことが困難なため、欠席した場合は必ず欠席分の補習を受けること。内規のとおり、授業回数5分の1を超えて欠席した場合は、評価の資格を喪失するので注意すること。授業終了後の実習簿の提出がない場合は欠席扱いとする。

【評価方法】

実技試験及び口頭試験

評価＝（中間試験＋期末試験）×取組姿勢（100%－授業不参加回数－2%）

【テキスト】

カラー人体解剖学（西村書店）

ボディ・ナビゲーション—触ってわかる身体解剖—（医道の日本社）

【参考文献】

きゅう基礎実習 I

担当教員 田口 太郎

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 臨床において灸施術を安全に行うための基礎技術を身に付ける。
- 2) 医療従事者としての心構え、特に火を扱って治療を行う者としての責任と自覚を身に付ける。
- 3) 必要なランドマーク（骨・筋等）を触知し、経絡上の経穴を取穴する技術を身に付ける。

【授業の展開計画】

※「艾シュ」（がいしゅ）とはもぐさをひねったものである。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	基礎実習の心構え・実習簿・実習室の使用法	16	知熱灸の手技（自身の前腕部）・取穴
2	施灸練習台を用いた紐状艾シュの作成	17	知熱灸の手技（自身の手部）・取穴
3	施灸練習台を用いた米粒大艾シュの作成	18	知熱灸の手技（足部）・取穴
4	施灸練習台を用いた半米粒大艾シュの作成	19	知熱灸の手技（下腿部）・取穴
5	艾シュへの点火方法・線香と灰皿の取り扱い	20	知熱灸の手技（大腿部）・取穴
6	施灸用具の滅菌方法・酒精綿作成・取穴	21	知熱灸の手技（前腕部）・取穴
7	艾シュ温度・艾シュ重量の計測・取穴	22	知熱灸の手技（手部）・取穴
8	施灸練習紙：米粒大艾シュの作成・取穴	23	知熱灸の手技（肩部）・取穴
9	施灸練習紙：半米粒大艾シュの作成	24	知熱灸の手技（背部）・取穴
10	艾シュの作成と点火（施灸練習紙）・取穴	25	知熱灸の手技（腰部）・取穴
11	有痕灸と無痕灸・熱傷時の処置・取穴	26	知熱灸の手技（殿部）・取穴
12	七分～八分灸の手技（施灸練習紙）・取穴	27	棒灸・温筒灸
13	知熱灸の手技（自身の足部・下腿部）・取穴	28	隔物灸：生姜灸・大蒜灸
14	鍼灸治療所見学実習	29	隔物灸：塩灸
15	督脈・任脈の体表描画	30	十二正経の描画（肺経～小腸経）

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」（オリエンテーション時に配付されたもの）を熟読の上、授業に参加すること（単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること）。
2. 基礎技術は日々の練習が最も重要である。必ず復習を行うこと。
3. 解剖学（骨学・筋学）および経絡経穴学の予習をして実習に臨むこと。

【評価方法】

灸術および取穴技術の実技試験 50%、実習簿 40%、課題 10%

【テキスト】

1. はりきゅう実技基礎編第2版（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
2. 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
3. 分冊解剖学アトラス I（平田幸男 訳 文光堂）

【参考文献】

鍼灸安全ガイドライン（尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 医歯薬出版社）

きゅう基礎実習Ⅱ

担当教員 田口 太郎

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 実習

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 臨床において灸施術を効果的に行うための技術を身に付ける。
- 2) 経穴の様々な特性に応じた取穴ができる技術を身に付ける。
- 3) 基礎的な東洋医学的所見をとることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	基礎実習Ⅰのふりかえり・手技の確認	16	糸状灸の手技（手足の井穴）・取穴
2	米粒大の交互施灸（施灸練習台）・取穴	17	隔物灸の手技（塩・にんにく・生姜）・取穴
3	交互施灸（自身の足部）・取穴	18	五要穴への施灸：原穴
4	交互施灸（足部）・取穴	19	五要穴への施灸：ゲキ穴
5	交互施灸（腰背部）・取穴	20	五要穴への施灸：絡穴
6	交互施灸（肩背部）・取穴	21	五要穴への施灸：愈穴
7	交互施灸（仙骨部八リョウ穴）・取穴	22	五要穴への施灸：募穴
8	特殊部位：頭部への施灸・取穴	23	要穴への施灸：四総穴・八総穴
9	特殊部位：項頸部への施灸・取穴	24	要穴への施灸：下合穴
10	特殊部位：下腹部への施灸・取穴	25	五愈穴への施灸：榮穴
11	東洋医学的所見の基礎：脈診・取穴	26	五愈穴への施灸：愈穴
12	東洋医学的所見の基礎：腹診・取穴	27	五愈穴への施灸：経穴
13	東洋医学的所見の基礎：舌診・取穴	28	五愈穴への施灸：合穴
14	鍼灸治療所見学	29	奇穴への施灸：四華・患門・六華・小児斜差
15	交互施灸手技及び取穴技能の確認	30	六つ灸への連続交互施灸及び取穴技能の確認

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」（オリエンテーション時に配付されたもの）を熟読の上、授業に参加すること（単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること）。
2. 基礎技術は知識だけでは身に付かない。日々復習に励むこと。
3. 解剖学（骨・筋・神経・脈管）および経絡経穴学、東洋医学概論の予習をおこなって実習に臨むこと。

【評価方法】

灸術および取穴技術の実技試験 50%、実習簿 40%、課題 10%

【テキスト】

1. はりきゅう実技基礎編第2版（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
2. 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
3. 分冊解剖学アトラスⅠ（平田幸男 訳 文光堂）

【参考文献】

実習テーマに併せて適宜紹介する。

鍼灸臨床実習Ⅱ（外科系）

担当教員 本田 泰弘、野口 恭庸、塚本 紀之

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸臨床において遭遇する代表的な症候のうち、主に外科領域（感覚器系、婦人科系、泌尿器科系、美容医学系領域を含む）について、学修者が症候分析、病態把握ができること、並びにそれぞれの病態に応じた治療方針や処方を組み立てができることを目的とする。

【授業の展開計画】

全45コマ中で、麻酔科ペインクリニック系、脳神経外科系、末梢神経系（神経痛・神経麻痺など）、感覚器系（眼科、耳鼻科、口腔科、皮膚科）、婦人科系、泌尿器科系、美容医学系等に関する領域の病態認識とそれぞれの鍼灸治療方法を習得する。

日程・担当者の詳細については初回の授業で連絡します。

【履修上の注意事項】

実習で一度行っただけでは実践的な診療技術は習得できないため、実習で指導された内容を、後日各自で繰り返し練習すること。本学科の「実習内規」を熟読し、確実に理解すること。オリエンテーション、または実習の初回に説明する「鍼灸スポーツ学科・授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。

【評価方法】

- (a) 授業時間中の実習内容に関するレポート／小テスト・・・30%
- (b) 授業時間中の実技試験・・・・・・・・・・30%
- (c) 期末試験期間中に実施する筆記試験・・・20%
- (d) 期末試験期間中に実施する実技試験・・・20%

* (b) においては、授業を欠席し実技試験のみの受験は認められないので注意すること。

【テキスト】

各カテゴリーにおいて、各担当教員が指定する

【参考文献】

各担当教員より適宜紹介する

武道（柔道）

担当教員 小澤 雄二

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

我が国固有の文化である柔道の実技を通して、その特色である攻撃、防御の理合いを知り、巧みで素早い動きを身につけるとともに、相手を尊重し健康や安全に気を配りながら、課題に応じた運動への取り組み方が工夫できるような指導を行う。あわせて、柔道の各種技能を習得し、柔道の楽しさ、必要性を学ぶとともに、生涯にわたる運動習慣を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	柔道の歴史、練習法、授業の説明、諸注意を説明できる
2	柔道の基本動作について説明できる
3	柔道の基本となる技について説明できる
4	柔道のかかり練習について説明できる
5	柔道の約束練習について説明できる
6	柔道の形の意義と練習について説明できる
7	柔道の形の練習と演武について説明できる
8	柔道の固め技について説明できる
9	柔道の固め技の連絡について説明できる
10	柔道の固め技の実践練習について説明できる
11	柔道の立技から固め技への移行について説明できる
12	柔道の練習について説明できる
13	柔道のルールについて説明できる
14	柔道の形のできばえについて説明できる
15	総合練習及び形の演武を行う

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

実技試験60% レポート40%

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

特になし

武道（剣道）

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実技

単位数 1

【授業のねらい】

日本の伝統文化としての剣道を理解させる。剣道の基礎的技能の実践を通じ、心身の鍛練と技能の向上を図る。さらに剣道の特性をとらえ知識の向上、生涯体育としての位置づけを行う。初心者にも分かり易く、基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるようにする。

【授業の展開計画】

- 1 剣道の歴史、礼法や作法を説明できる
- 2 稽古着、袴の着装。竹刀と刀の構造。立礼、座礼を説明できる
- 3 竹刀の握り方と中段の構え、さらには足さばきについて説明できる
- 4 足さばきと素振り、基本打突について説明できる
- 5 防具の説明と防具のつけ方としまい方を説明できる
- 6 木刀を用い4に関する動き、対人技能を説明できる
- 7 打ち込み練習、切り返しを説明できる
- 8 木刀を用い日本剣道形の1本目と2本目を説明できる
- 9 木刀を用い日本剣道形の3本目と4本目を説明できる
- 10 木刀を用い日本剣道型5本目を説明できる
- 11 日本剣道型1本目から5本目までの説明ができる
- 12 応用技能について説明できる
- 13 約束練習について説明できる
- 14 自由稽古について説明できる
- 15 試合の審判法について説明できる

【履修上の注意事項】

予習として剣道のルール、剣道形の解説について十分把握しておくこと
復習として剣道競技ルール、審判のしかた、剣道形について配布プリントを読み、剣道形の練習をすること。
竹刀の点検を十分に行うこと

【評価方法】

レポート20%、自主的学習態度10%、実技テスト70%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

特に指定しない

ダンス (エアロビクスを含む)

担当教員 藤崎 道子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 実技

単位数 1

【授業のねらい】

ダンスは身体運動による表現であり、身体を通して自己の内なる感情を表現したり、イメージや創造性を深めることで、心豊かな人間形成につなげていくねらいがある。本講座では音楽に合わせて思いっきり全身を動かすことで爽快感や楽しさを味わいながら身心を解放していくことができる。様々なダンスの基本動作を習得することができる。ダンスウォーミングアップを指導できるようになる。ダンスを創作することで創造性を豊かにし、柔軟な思考ができるようになる。を到達目標として展開していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (授業の進め方、成績評価の方法、その他諸注意) ダンスDVD鑑賞
2	学校体育における「ダンス」の位置づけとねらい・ダンスとエアロビックダンスとの違いを理解する
3	現代的リズムのダンス① (アップテンポの曲に合わせてのびのびと動く)
4	現代的リズムのダンス② (表現力を高めるためのアイソレーション・基本ステップの習得)
5	現代的リズムのダンス③ (課題ダンス習得と表現理解)
6	現代的リズムのダンス実技技能テスト (課題ダンスによる個人技能テスト)
7	フォークダンス (日本の踊りと世界のダンスについて調べ、実際に踊る)
8	創作ダンスの作り方・考え方 (発表会DVD鑑賞)
9	創作ダンス① (現代的な楽曲によるダンスを創作する) 曲決め、構成を考える。
10	創作ダンス② (グループでの創作活動)
11	創作ダンス③ (隊形移動や見せ方を工夫する)
12	創作ダンス④ (発表会に向けた踊りこみ・完成度を高める)
13	ダンス発表・鑑賞会 (作品を鑑賞し他者評価の仕方を学ぶ)
14	エアロビックダンス体験
15	ダンスの教育的価値についてグループで検討し、発表する。

【履修上の注意事項】

実技に支障をきたすようなものを身につけないこと。(アクセサリ)
 学習指導要項のダンスの分野に必ず目を通しておくこと。
 現代的ダンス創作に向けて、踊りやすい楽曲を調べておくこと。

【評価方法】

個人技能実技試験 30%、創作ダンス発表 40%、レポート 20%、学習態度 10%

【テキスト】

【参考文献】

特になし

陸上競技（ジョギング・ウォーキングを含む）

担当教員 玉江 和義

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、理論講義と実技実践の組み合わせによって構成される。理論講義においては、ルールや科学的根拠に基づいて陸上競技を理解・解釈していく。実技では、受講者個人が到達目標を設定し、自律的身体機能の向上を図りながら、基本的な運動技術の獲得、および指導法の基礎について習得する。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス（受講者のグループ分け）
- 2 ウォームアップの内容と方法
- 3 ランニングドリル+12分間走
- 4 陸上競技のルール（トラック種目-1）
- 5 陸上競技のルール（トラック種目-2）
- 6 ランニングドリル
- 7 変形リレー競争
- 8 ウォームダウンの内容と方法
- 9 Long Slow Distanceの理解と実践
- 10 陸上競技のルール（フィールド種目-1）
- 11 陸上競技のルール（フィールド種目-2）
- 12 トラック種目のコーチング
- 13 フィールド種目のコーチング
- 14 陸上競技特有のスポーツ傷害の予防と対策
- 15 テストとまとめ

【履修上の注意事項】

陸上競技を行なうにふさわしいウェアとシューズを着用のこと。筆記用具なども必ず準備されたい。講義資料を前もって予習しておくこと。また復習すること。

【評価方法】

平常点(30%)とテスト(70%)

【テキスト】

資料を用意し配布する

【参考文献】

練習法百科 陸上競技（大修館）

バレー・バスケット

担当教員 宮良 俊行、加藤 千尋

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バスケットボールを切り口にゴール型ゲームの特性を理解し、教員養成課程の一部として体育授業の構成方法や評価について学び、課題発見、課題解決方法の探究、協調性、教授法などを身につける。
バレーボールは、ネットを挟んで対するチームがボールを打ち合い、得点を競うスポーツである。授業を通して、学修者がバレーボールのルールを理解し、基本的な技術・戦術および指導法を習得できることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	バレーボールの特性の理解、学習の流れ、ゲームのルール（宮良）
9	個人技能の練習、パス、レシーブ、スパイクなどの各個人の能力の向上を目指した練習（宮良）
10	集団技能の練習、ゲームを採り入れた練習、チームでの役割（ポジション）の検討（宮良）
11	集団技能の練習、自分たちにあった役割、そしてフォーメーションを考える（宮良）
12	班別ルール体験ゲーム（宮良）
13	正式ルールによるゲーム（宮良）
14	正式ルールによるゲーム、テスト（宮良）
15	ボールやルールを工夫したゲーム、チームも続き達成感を味わえるルールの工夫（宮良）

【履修上の注意事項】

体育実技の出来る服装で出席すること。授業前にはシラバスを見て講義内容を予習し、不明な点は各自で学習すること。また、講義後はその内容を整理し、疑問点があれば、解決するように努めること。

【評価方法】

実技試験 80%、レポート 20%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

『身になる練習法 バレーボール』秋山 央著 ベースボール・マガジン社

ラグビー・サッカー

担当教員 藤原 大樹

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

ラグビー・サッカーは「ゴール型ゲーム」であり、攻守入り混じってボールを奪い合い、得点するという特徴を持っている。この授業では、学修者がラグビーとサッカーそれぞれのスポーツにおけるボール操作とボールをもたないときの動きを習得し、更にはルール、練習法、指導法に関する基礎的な理論を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業内容の説明、ウォーミングアップ
2	サッカー 基礎的なルールの理解
3	サッカー 基礎練習1：パス、トラップ、ドリブル
4	サッカー 基礎練習2：シュート、ヘディング
5	サッカー 応用練習1：3vs1、3vs2
6	サッカー 応用練習2：ハーフコートの練習
7	サッカー ミニゲームの指導法、審判法
8	ラグビー 基礎的なルールの理解 (DVD視聴)
9	ラグビー 基礎練習1：パス、ハンドリング、ランニング
10	ラグビー 基礎練習2：キック、タックル
11	ラグビー 基礎練習3：スクラム、ラインアウト
12	ラグビー 応用練習1：オフENSESの基礎、2vs1、3vs2
13	ラグビー 応用練習2：ディフェンスの基礎
14	ラグビー タグラグビーの指導法と審判法
15	サッカーとラグビーのまとめ

【履修上の注意事項】

トレーニングウェアを着用すること
 サッカーシューズ、ラグビーシューズ又はトレーニングシューズを用意すること
 授業前に指導案レポートを作成すること。授業後に学習内容を復習すること

【評価方法】

授業レポート60% 期末レポート40%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

サッカーのルールと審判法 (浅見俊雄・永嶋正俊：大修館)
 ラグビー-3ヵ月でうまくなる基本スキル (井上正幸：株式会社 学研プラス)

運動処方演習

担当教員 村上 光昭

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

運動処方の目的は、第一に健康維持意図して行われるものである。そのため、運動の効果を最大限に引出し、危険性を最小限に抑えることが非常に重要となる。学修者は、運動による健康の維持・増進について具体的な方法を学び、各個人に適した運動処方を提供できるよう、運動の強度と身体への反応との関係を学びながら、健康状態に合わせた運動の種類や強度、時間と頻度を適切に判断し、生活習慣病に対する運動プログラムを立案・実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

村上：公認 上級障がい者スポーツ指導員として、障害者支援施設勤務経験
 :障害者相談支援従事者(ケアマネージャー)として、障害者支援施設勤務経験
 :健康運動指導士として、介護予防施設勤務経験
 :健康運動指導士として、健康サポートセンター勤務経験

以下の項目について講義、実習形式で学修を進める。

週	授 業 の 内 容
1	健康と体力の考え
2	健康づくりのための運動
3	運動基準と運動・身体活動のガイドライン
4	運動によるエネルギー消費とMETs
5	運動プログラムの作成の理論
6	ロコモティブシンドローム
7	メディカルチェックの重要性と安全対策
8	検診結果による効果判定
9	運動行動変容のためのカウンセリング技術
10	肥満・メタボリックシンドロームと運動
11	糖尿病・脂質異常症・高血圧症の運動処方、運動実践実習(体組成測定)
12	介護予防のための運動処方(骨折・転倒予防など)
13	運動実践実習(体力測定)
14	運動実践実習(運動指導)
15	運動実践実習(運動処方)

【履修上の注意事項】

各種の疾患について、その発症と進行の予防およびその対策としての運動療法について学ぶので、授業の際には運動ができる服装で参加すること。

授業後に復習しておくこと。

4回の運動実践実習(学内・学外)に必ず参加すること。

【評価方法】

自主的学習態度(10%)・レポート(10%)・プレゼンテーション(20%)・試験等(60%)を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

授業時にプリントを配布する。

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト(上)・(下)

臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って必要な基礎的知識の習得を目指す。正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象の診たて、援助を行うか否かの診たてなどの基本知識の習得と心理的援助に焦点を当てながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か
2	臨床心理学と精神医学との違い
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集方法
5	正常と異常 DSM5を中心に
6	異常心理学
7	精神障害 心理的問題
8	ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論 精神分析
10	介入理論 認知行動療法
11	介入技法 遊戯・箱庭療法
12	介入技法 SST 心理教育
13	介入技法 様々な相談活動
14	コミュニティモデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

【履修上の注意事項】

シラバス内容について事前に学習し、事後はテキスト及びノートにより知識を深めておく

【評価方法】

期末試験：100%で評価

* 本科目は再試験を実施しない。履修時はよく検討して履修すること

【テキスト】

未定

【参考文献】

随時授業中に紹介していく

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護感を追求するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、新、古城：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験。
第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	サービスとしての看護、看護サービス提供の場（新）
3	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
4	国民の健康状態（上妻）
5	看護の対象の理解（上妻）
6	国際化と看護（新）
7	災害時における看護（古堅）
8	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
9	医療安全と医療の質保証（古城）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護学概論9-12回のまとめ：小テスト2、DVD視聴（柴田）
14	看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

『系統看護学講座 基礎看護学〔1〕』茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

リハビリテーション概論

担当教員 川俣 幹雄

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学修者は、リハビリテーションの理念、歴史、障害理論および関連する制度等について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

川俣：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーションとは（定義、理念、思想）
2	リハビリテーションの歴史
3	リハビリテーションと障害医学
4	障害の理論的モデル：ICIDH
5	障害の理論的モデル：ICF
6	リハビリテーションと関連職種
7	医学的リハビリテーション
8	社会的、職業的リハビリテーション
9	リハビリテーションの対象
10	リハビリテーションと社会制度
11	地域リハビリテーション
12	リハビリテーションと環境整備
13	介護予防とリハビリテーション
14	予防医学とリハビリテーション
15	リハビリテーションを取り巻く環境と今後の課題

【履修上の注意事項】

各回の授業テーマと関連するテキストの該当箇所の予習・復習を徹底すること（120分）。

演習問題は2回以上、解いてください。

出席登録以外の授業中の携帯電話の使用を禁じます。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。

小テスト等を通じて学修到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

『医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論』（最新版）上好秋孝編著（永井書店）

【参考文献】

『入門リハビリテーション概論』中村隆一編（医歯薬出版）、『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修（医歯薬出版）

社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、高齢、障害、母子・寡婦など〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2019年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。『社会福祉六法』（最新版）

発育発達論

担当教員 藤原 大樹

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業では、ジュニア、高齢者、女性、障害者など様々な対象に合わせたスポーツ指導を実施するために必要な発育発達に関する知識を深めることを目的とする。学修者は、授業前半においてジュニア期（発育発達期）の身体的・心理的特徴、スポーツ傷害、トレーニング方法などを身につけ、授業後半では、中高年、女性、障害者の特徴を考慮した運動プログラムの作成ができる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	発育発達の基礎、スキャモンの発育発達曲線、生涯スポーツ
3	乳幼児期：身体的特徴、心理的特徴、運動発達
4	青少年期：身体的特徴、心理的特徴
5	青少年期Ⅱ：運動発達、トレーニング
6	子どもの運動・身体活動状況、運動・身体活動の意義・恩恵
7	発育発達とスポーツ傷害、子どものスポーツ傷害予防
8	高齢者：身体的特徴・心理的特徴
9	高齢者：運動・スポーツの意義・恩恵、運動指導
10	女性：男女差、女性特有のスポーツ傷害
11	女性：ジェンダーとステレオタイプ、映画「プリティリーグ」
12	アダプテッドスポーツ：障害の定義と種類、アダプテッドスポーツの現状
13	アダプテッドスポーツ：アダプテッドスポーツ実習
14	アダプテッドスポーツ：福祉から競技へ、映画「マダーボール」
15	授業のまとめ

【履修上の注意事項】

授業中に提示されるキーワードについて復習すること

【評価方法】

試験70% レポート30%

【テキスト】

なし

【参考文献】

発育・発達への科学的アプローチ：藤井勝紀（2007）三恵社
 子どもの発育発達と健康：青柳領（2006）ナカニシヤ出版

健康管理とスポーツ医学

担当教員 未定、矢澤 克典、平崎 和雄

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、「ヒト」の心身生理機能は、子供から高齢者、および性により異なり心身に対し種々の影響をもたらすことを理解できる。人はスポーツの負荷に対し適応するよう機能を変化させるが、スポーツには鋼材があり、循環器、呼吸器などに影響を及ぼし、オーバートレーニング小花押、突然死、暑熱慣例の特殊環境下生体反応を理解できる。

【授業の展開計画】

下記の項目について講義で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	スポーツによる循環器系、呼吸器系、などの主要器官の順応が説明できる (佐久間)
3	スポーツによる消化器・腎臓泌尿器、などの主要器官の順応が説明できる (矢澤)
4	代謝肥満、皮膚のについてスポーツ活動を行う上での注意事項が説明できる (佐久間)
5	スポーツ活動時における感染症の対応策について説明できる (佐久間)
6	競技者に発症する病的現象 (オーバートレーニング、突然死) の機序予防策が認識できる (佐久間)
7	競技者にみられる病的現象 (減量・摂食障害、過換気症候群) の機序予防策が認識できる (佐久間)
8	高所、低酸素、高圧下の生体反応と特殊環境下のスポーツ活動の注意事項が認識できる (佐久間)
9	熱中症の病態と予防対策 寒冷環境下での生体反応とスポーツ活動の注意事項が認識できる (矢澤)
10	女性のスポーツ障害の特徴を説明できる (矢澤)
11	成長期スポーツ活動の功罪と安全基準について認識することができる (佐久間)
12	高齢者等の安全な健康運動プログラムを説明できる (佐久間)
13	内科的メディカルチェックの手順と方法について理解することができる (平崎)
14	ドーピングコントロールの必要性和検査手順について認識することができる (矢澤)
15	まとめ (平崎)

【履修上の注意事項】

“「ヒト」心身の生理機能を理解し、自らの健康管理について考えてみる。またスポーツ医学とはどのような事象を取り扱う医・科学専門分野であるのか調べておくこと。また復習も行うこと。”

【評価方法】

定期筆記試験 (100%) にて評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第4巻 健康管理とスポーツ医学

【参考文献】

適宜紹介する

身体の測定・評価

担当教員 倉野 久美

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 1

【授業のねらい】

学習者が、身体機能ならびに身体能力の測定と評価方法について学び、スポーツ障害の予防やスポーツパフォーマンスの向上へ寄与することができる。

【授業の展開計画】

倉野：アスレティックトレーナーとして実業団バスケットチーム・プロサッカーチームと契約勤務経験。スポーツ理学療法士として病院勤務経験。

週	授 業 の 内 容
1	総論（倉野・井手）
2	姿勢・アライメントの評価（倉野・井手）
3	形態計測（倉野・井手）
4	関節弛緩性の評価・関節可動域測定・筋タイトネスの検査（倉野・井手）
5	関節弛緩性の評価・関節可動域測定・筋タイトネスの検査（倉野・井手）
6	徒手筋力検査（倉野・井手）
7	機具を用いた筋力評価（倉野・井手）
8	痛みの評価（倉野・井手）
9	バランスの評価（倉野・井手）
10	全身持久力の検査測定（倉野・井手）
11	敏捷性・協調性の検査測定（倉野・井手）
12	身体組成の検査測定（倉野・井手）
13	一般的な体力測定（倉野・井手）
14	一般的な体力測定（倉野・井手）
15	まとめ（倉野・井手）

【履修上の注意事項】

- ・アスレティックトレーナー（AT）を目指す学生は、必ず受講すること。
- ・下記のテキスト2冊を授業開始前までに必ず準備すること。
- ・授業は積極的姿勢でのぞみ、実習の際は適した服装で受講すること。
- ・予習は、授業前にテキストを読み、基礎知識である解剖学・運動学について再学習しておくこと（30分）
- ・復習は、特に指定の評価技術（ROMテスト、MMT、整形外科的テスト）は、実技として習得すること（60分）

【評価方法】

実技試験と筆記試験を総合的に判断し評価する。
再テストは実施しない。

【テキスト】

- ①公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 検査・測定と評価
- ②新・徒手筋力検査法 協同医書出版社

【参考文献】

整形外科・スポーツ傷害診察ハンドブック 別府諸兄（監訳） NAP

体力測定・評価

担当教員 府内 勇希

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、健康・体力の維持、増進に携わる人材に不可欠な体力測定およびその評価の方法について理解し、年齢や体力レベルに応じて適切な運動処方ができるようになる。また、運動に対する身体の基本的な反応について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	健康・体力の概念および測定評価の意義を説明できる
2	健康・体力にかかわるデータ集計の方法について説明できる
3	基本的な統計処理の方法について説明できる
4	形態の測定方法について説明できる
5	形態の評価方法について説明できる
6	新体力テストの測定方法について説明できる
7	新体力テストの評価方法について説明できる
8	有酸素性能力（PWC170）の概念と測定方法について説明できる
9	有酸素性能力（PWC170）の評価方法について説明できる
10	無酸素性能力（ウィングートテスト）の概念と測定方法について説明できる
11	無酸素性能力（ウィングートテスト）の評価方法について説明できる
12	筋力の測定方法およびその留意点について説明できる
13	筋力の評価方法について説明できる
14	スポーツ動作の観察・分析の方法について説明できる
15	スポーツ動作の評価方法について説明できる

【履修上の注意事項】

測定の際は必ず運動できる服装で参加すること。また、体調を整えて参加すること。

【評価方法】

レポート（60%）、受講態度（40%）

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

『健康運動実践指導者養成講習会テキスト』
その他、適宜紹介する。

体力測定評価法

担当教員 平崎 和雄

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 1

【授業のねらい】

学修者が、健康保持増進には、運動習慣の有無が強い影響を与え、過度の運動やトレーニングは時には両刃の剣であり、対象者によっては関節、骨、筋肉や腱を痛めることにもなることを理解できるようにし、健康増進のための運動の在り方について理解を深めるための適切なアドバイスを与えることができるよう、各年齢・活動レベルに応じた体力測定の実際とその評価、運動の強度と身体の反応について理解・実践できるようにする。

【授業の展開計画】

以下の項目について演習及び実習形式で学習を進める

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	体力の定義と体力測定の目的
3	体力測定の意義と各種測定法概論
4	形態・体格の測定
5	身体組成（体脂肪量など）の測定
6	中年者の体力測定法（理論）
7	中年者の体力測定法（測定）
8	中年者の体力測定法（評価）
9	高齢者の体力測定法（理論）
10	高齢者の体力測定法（測定）
11	高齢者の体力測定法（評価）
12	介護予防に関する体力測定（理論）
13	介護予防に関する体力測定（測定）
14	介護予防に関する体力測定（評価）
15	まとめ

【履修上の注意事項】

” 演習・実習で構成するので動きやすい服装で参加すること。
健康運動指導士・健康運動実践指導者は必ず履修のこと。”

【評価方法】

出席状況・提出物・定期試験等で総合的に評価する

【テキスト】

適宜プリントを配布する

【参考文献】

適宜プリントを配布する

スポーツ傷害の評価

担当教員 平崎 和雄

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナーはスポーツ障害を評価する上で必要な、スポーツ動作の観察と分析の意義や基礎知識、スキルについて分かりやすく解説し、歩行動作や走動作、投動作などの各動作の基礎知識を習得、競技特性を理解しながら応用し、スポーツ選手の障害の予防やコンディショニングにつなげられる評価スキルを身に着けることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ障害の評価の目的と意義
2	スポーツ障害の評価とEBM
3	歩行のバイオメカニクス
4	歩行動作に影響する要因
5	走動作のバイオメカニクス
6	走動作に影響を与える要因
7	走動作における外傷、障害の発生機転の特徴とメカニズム
8	ストップ、方向転換動作のバイオメカニクスと影響因子
9	跳動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
10	跳動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
11	投動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
12	投動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
13	あたり動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
14	あたり動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業前に前回の作成した図表を復習し、授業後は次回のテキストを予習し動作のイメージをしておくこと

【評価方法】

試験 70%、課題レポート 20%、予習復習による自主的学習態度 10%

【テキスト】

講義中に資料を配布する

【参考文献】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 「検査測定」

財団法人日本体育協会

国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 英照、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として、世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	国際協力とは何か(安藤)
2	政府開発援助(安藤)
3	政府開発援助の事例(安藤)
4	NGOにおける民間協力(安藤)
5	NGOにおける民間協力の事例(安藤)
6	技術協力の方法(川原光祐)
7	技術協力の方法の事例(久家)
8	参加型開発(安藤)
9	参加型開発の事例(久家)
10	国際協力の理念(久家)
11	国際協力の理念の事例(久家)
12	国際協力の事例(民間)(久家)
13	国際協力の事例(政府)(川原英照)
14	国際理解と支援活動(安藤)
15	今後の国際協力のあり方(安藤)

【履修上の注意事項】

オムニバスであるので、毎回の出席を心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】

資料を準備する

【参考文献】

適宜紹介する

危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろんな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機とは何か
2	危険とは何か
3	危機管理とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間へのバランスと危機管理
10	現場からの危機管理（外部講師 海上）
11	現場からの危機管理（外部講師 陸上）
12	災害支援の方法（災害発生時）
13	災害支援の方法（自活生存）
14	災害支援の方法（避難救助）
15	危機管理をはじめよう

【履修上の注意事項】

授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート(80%コメントして返却します。) 授業への取り組み20%

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要であり、自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンテーリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する。

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと

【評価方法】

実技試験(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし

アスレティックトレーナー概論

担当教員 平崎 和雄

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、スポーツ環境でのアスレティックトレーナーの役割と業務を具体的に示し、日体協会公認アスレティックトレーナー養成の趣旨や設立の背景、歴史的背景や諸外国の状況を理解し、アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な専門家といかに連携を取って選手をサポートしていくかなどアスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序や倫理観を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	アスレティックトレーナー制度の歴史
3	日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成事業制度とカリキュラム
4	諸外国のアスレティックトレーナー制度
5	アスレティックトレーナーの任務と役割
6	アスレティックトレーナーの業務（求められる知識・技能）
7	アスレティックトレーナー活動 総論
8	アスレティックトレーナー活動の実際（スプリント系）
9	アスレティックトレーナー活動の実際（球技系）
10	アスレティックトレーナー活動の実際（冬期競技）
11	アスレティックトレーナーとスポーツドクターとの関わりについて
12	アスレティックトレーナーと医科学スタッフ等他のスタッフとの連携
13	アスレティックトレーナーの組織運営と各種管理
14	アスレティックトレーナー関連資格について
15	アスレティックトレーナーと倫理

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナーを目指す学生は、必ず受講のこと。
科目受講を通し、社会的秩序や倫理観を身につけるようするため出席、受講態度も重視する。
授業前に前回のレポートの関連事項を調べて授業に望み、授業後は終了時のレポートとテキストの関連づけをすること。

【評価方法】

受講態度、提出物、定期試験等を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

基礎分野 「スポーツ社会学」のテキスト

テーピングコンディショニング

担当教員 岩上 明治

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

本講義では、学習者が障害予防および再発予防としてスポーツ現場で広く普及しているアスレティック・テーピング・テーピングについて学ぶ。講義の内容は、アスレティック・テーピングの特徴および効果、注意事項を把握し、傷害特性および競技特性について理解しながらテーピング技術を高める事ができるようになる。

【授業の展開計画】

アスレチックトレーナーとして公益財団法人日本オリンピック委員会医科学強化スタッフとして勤務
 公益財団法人日本レスリング協会スポーツ医科学委員として勤務 2020東京オリンピック医療スタッフとして勤務
 Jリーグトレーナーとして契約勤務「予防としてのテーピング」 toto助成金により共著出版した
 アスレチックトレーナーとして鍼灸院を経営 通所介護デイサービス経営
 アスレチックトレーナーとして「スポーツかっさ」開発し日本意匠及び米国意匠特許取得

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス (アスレチックトレーナーが行うテーピングについて) (岩上)
2	アスレティック・テーピング総論 (外傷の予防、応急処置、再発予防、効果、有効性等) (同上)
3	足関節のテーピング 基本 (足関節内反捻挫 その他) (岩上)
4	足関節のテーピング 応用 (足関節外反捻挫 その他) (岩上)
5	足関節のテーピング (中足部、足底部) (岩上)
6	下腿部のテーピング (下腿筋群、アキレス腱) (岩上)
7	膝関節のテーピング (内反、外反に対する固定) (岩上)
8	膝関節のテーピング (前十字靭帯の固定) (岩上)
9	太腿部・股関節のテーピング (大腿部の捻挫・打撲、股関節のバンテージ) (岩上)
10	肩関節のテーピング (肩鎖関節、肩甲上腕関節) (岩上)
11	肘関節のテーピング (内反及び外反屈伸障害) (岩上)
12	手関節・手指のテーピング (母指、四指のDIP、PIP等) (岩上)
13	応用的なテーピング (1~12の症状別テーピングを考慮する) (岩上)
14	応用的なテーピング (総合して対応力をつけ反復練習) (岩上)
15	まとめ (時間内に基本的なテーピングを巻ける様に) (岩上)

【履修上の注意事項】

- ・以下の項目を受講していることが望ましい 「運動器の解剖と機能」「スポーツ外傷・障害の基礎知識」
- ・授業前にテキストのテーピングコンディショニングについて調べてくること。授業後に実習の内容を理解し反復練習すること。
- ・講義、および実習を行う際には適した服装で受講すること。適宜指示は行う。

【評価方法】

授業中の理解度30%、定期試験70%

【テキスト】

公認アスレチックトレーナー専門テキスト⑥

【参考文献】

ファンクショナルテーピング：川野哲英：ブックハウス エイチ デイ

健康教育概論

担当教員 井手 裕子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の健康課題としての生活習慣病予防は、児童生徒期から健康問題に対する関心を喚起し、望ましい健康行動についての健康教育が重要となる。そこで、学修者は健康の概念を捉え、健康と関連する生活習慣について理解し、健康の保持増進のための生活習慣はどのようにあるべきかを将来の指導者という立場から自分の言葉で説明できるようになる。また、スポーツの効果や弊害についても理解したうえで、スポーツ指導者として自己の健康の保持増進を図り、健康教育を推進していくための知識を深め自ら実践することが出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	健康とはー健康の概念
2	わが国の健康の指標と現状
3	健康増進
4	健康教育とは
5	生活習慣と健康
6	疾病の予防
7	健康管理の進め方
8	健康の実際
9	指導者の役割
10	文化としてのスポーツ
11	トレーニング論
12	スポーツにおける医学的知識
13	スポーツと栄養
14	指導計画と安全管理
15	ジュニア期のスポーツ

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナーを目指す学生は必ず受講すること。
毎時間配布する資料は必ず保管し、次回の講義に備えること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(20%)、自主的学修態度(10%)、試験等(70%)を総合的に判断し評価を行う。

【テキスト】

授業時にプリントを配布する。

【参考文献】

学生のための健康管理学 木村康一・熊澤幸子・近藤陽一
公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本体育協会

運動学

担当教員 山下 忍

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

運動学は人の運動行動を知るための学問であり、運動の科学的な解析、研究を種々の医学的分野と理工学的分野の知識、手技、手段を利用して理解し、人間の運動機能を十分に理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	運動学の概要、及び運動の階層性について説明できる
2	運動の解析に必要な身体計測の方法について説明できる
3	筋力検査法の表示法、判定基準、及び要点について説明できる
4	運動力学から見た身体機能について説明できる
5	筋の構造と機能について説明できる
6	筋収縮の分類と特徴について説明できる
7	画像診断装置を用いて筋収縮の仕組みを説明できる
8	運動と循環器の機能について説明できる
9	関節トルク、反射行動について説明できる
10	トレーニングの種類とその効果について説明できる
11	デイトレーニングにおける身体機能の特徴を説明できる
12	運動の制御と出現について説明できる
13	姿勢について説明できる
14	歩行について説明できる
15	運動学習の効果について説明できる

【履修上の注意事項】

“予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。
 復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。
 授業後オリジナル出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。”

【評価方法】

レポート30%、自主的学習態度20%、小テスト50%による総合評価

【テキスト】

『基礎運動学 第六版』中村隆一、斉藤宏著（医歯薬出版）

【参考文献】

『臨床運動学 第3版』中村隆一、斉藤宏著（医歯薬出版）

機能解剖学Ⅱ

担当教員 平崎 和雄

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に必要な人体の構造と機能について身体各部位におけるスポーツ動作の関係やスポーツ障害発生メカニズムとを解剖学的・運動学的特徴について理解させることができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について講義、実習形式で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	スポーツ動作・スポーツ傷害概論
3	体幹の解剖と機能（総論）
4	体幹の解剖と機能（脊柱）
5	体幹の解剖と機能（頸部）
6	体幹の解剖と機能（胸部）
7	体幹の解剖と機能（腰部）
8	上肢帯の解剖と機能
9	肩関節の解剖と機能
10	肘関節の解剖と機能
11	手関節・手の解剖と機能
12	下肢帯の解剖と機能
13	股関節の解剖と機能
14	膝関節の解剖と機能
15	足関節・足の解剖と機能

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナーの資格を目指すものは必ず履修のこと。
すでに「運動器の解剖と機能Ⅰ」を履修しておくこと。
授業の前に今回の実施部位の起始、停止、作用など予習し
授業後は、実施部位の起始、停止、作用を復習すること。

【評価方法】

おおよそ口頭試問試験70%、課題レポート20%、予習復習による自主的学習態度10%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 「運動器の機能と解剖」

【参考文献】

「解剖学」「生理学」のテキスト

アスレティックトレーナー専門実習 I

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、主にアスレティックトレーナーの活動するスポーツ現場および医療現場等へ出向き、その活動を見学しアスレティックトレーナーの活動を知ることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	スポーツ現場活動実習 (900分)
3	医療施設現場活動実習 (720分)
4	まとめ (90分)
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得希望者は履修のこと。
実習日誌をつけレポートの提出を義務付ける。
すでに「アスレティックトレーナー概論」を履修していることを条件とする。

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 アスレティックトレーナーの役割
財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅱ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ選手の体力測定および傷害の評価、メディカルチェックなどの検査・測定と評価とアスレティックリハビリテーションプログラム作成を実習することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	検査・測定の評価 (180分)
3	検査・測定の実施 (270分)
4	検査・測定データの整理 (180分)
5	検査・測定結果のフィードバック内容の検討 (180分)
6	検査・測定結果のフィードバック (180分)
7	再評価・個別評価 (180分)
8	アスレティックリハビリテーションプログラム作成 (270分)
9	アスレティック・リハビリテーションプログラムフィードバック (180分)
10	まとめ
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得希望者は履修のこと
実習日誌をつけレポートの提出を義務付ける

アスレティックトレーナー専門実習Ⅰを履修するに必要な科目に、「トレーニング科学」「スポーツ心理学」：
「運動器の解剖と機能Ⅰ」「運動器の解剖と機能Ⅱ」「スポーツ社会学」を履修していることを条件とする

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第5巻 検査測定と評価 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

教育原理

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教員の身分と役割, 義務と裁量権について理解する。
- 2 最近の, 教員を取り巻く状況や課題について理解する。
- 3 教員に関わる教育制度, 学校の組織構造, 学級経営の現代的問題理解を通して, 求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

授業においては, 各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど, 具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。

また, ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め, 提示または配布した資料を基に自分の考えを導き出すような展開にする。

授業計画

- 第1回: 教職とは何か 教師の役割と使命感
- 第2回: 教職の意義と教員の立場
- 第3回: 教員の服務義務 (法的義務と現状)
- 第4回: 教育をめぐる現状と求められるもの
- 第5回: 社会と教員に求められる資質能力
- 第6回: 校務分掌と教員の多様な仕事
- 第7回: 教職員及び地域連携等によるチームとしての学校運営の在り方
- 第8回: 一人一人の児童・生徒を守る教師
- 第9回: 児童・生徒のための学校に
- 第10回: 学校・家庭・地域の役割と連携
- 第11回: 教員の資質の向上と研修制度
- 第12回: 教員の専門性の向上 免許更新制と教職大学院
- 第13回: 教員の不祥事とその背景にあるもの
- 第14回: 任命権者と教員採用の在り方
- 第15回: 教職への道

【履修上の注意事項】

- 1 ペアを中心としたディスカッションをするため, ペアをつくって着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので, 常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%, 課題提出20%, 期末試験40%で評価する。
再試験はしない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回, 資料 (学習プリント) を配布する。
参考資料については, 授業中に随時提示する。

教育課程論

担当教員 未定

配当年次 1・2年

単位区分 要件外

準備事項

備考 1年生は第2学期、2年生は第1学期に受講すること

開講時期 第1・2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法を理解する。
- 2 学習や学校生活における様々な場面に対する対応方法について理解する。
- 3 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業のねらいと展開の方法
2	教育方法の歴史
3	教育方法の類型と特質
4	教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論
5	教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性
6	教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価
7	学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定
8	学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい
9	学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点
10	学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法
11	教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果
12	教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法
13	教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法
14	具体的な場面における指導方法の実際① (生徒指導や生活に関する指導)
15	具体的な場面における指導方法の実際② (健康や安全に関する指導)

【履修上の注意事項】

- 1 ペア・グループによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加30%，課題提出？発表30%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。(毎回、学習プリント及び資料を配布する)

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

生徒指導・進路指導論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

特別支援教育総論

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

特別支援教育の意義や目的を理解し、学習面、行動面などに困難を抱える子どもの理解を、発達心理的観点から理解し、それぞれの発達段階や特性に応じた教育および支援の在り方を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：特別支援教育の概要と中教審「特別支援教育推進について」
2	特別支援教育と発達臨床心理学的考え方
3	読み書き計算などに制約がある子どもの理解
4	読み書き計算などに制約がある子どもの支援の考え方
5	注意集中力などに制約がある子どもの理解
6	注意集中力などに制約がある子どもの支援の考え方
7	社会性の発達などに制約がある子どもの理解
8	社会性の発達などに制約がある子どもの支援の考え方
9	貧困や母国語など社会問題等によって発達に課題を抱える子どもの理解
10	教育課程の中の特別支援教育の理解
11	特別支援教育に関わるアセスメントについて
12	発達に制約がある子どもの二次障害への理解
13	不登校の理解と支援
14	虐待が発達に及ぼす影響の理解と支援
15	学習面、行動面に困難を抱える子どもを支える専門機関の理解

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおくこと。復習時には、キーワードを自分のことばで説明できるようになっておくこと。

【評価方法】

授業内での参加態度（20%）、試験（80%）で評価する。フィードバックについては模範解答を示し、希望者には個別に評価内容を伝える。

【テキスト】

はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために 改訂版（有斐閣アルマ）

【参考文献】

講義時に、適宜紹介する。